東京大学構内遺跡調査研究年報 17

2023年度

東京大学埋蔵文化財調査室

東京大学構內遺跡調査研究年報17

2023 年度

- 1. 本書は2023年4月1日から2024年3月31日までに東京大学埋蔵文化財調査室が実施した、埋蔵文化財発掘調査およびそれに関わる研究、教育、普及などの諸活動をまとめた東京大学構内遺跡調査研究年報と東京大学構内遺跡に関わる調査・研究成果である東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要を合冊したものである
- 2. 上記期間に行った発掘調査のうち、埋蔵文化財が確認できたものについて略報を掲載した。
- 3. 遺構の略号は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所で採用している方式を参照し、前に 遺構の性格、後ろに各調査地点ごとに1から通し番号を付与した。前に付した遺構番号の性格の 略称は、個々の報告の凡例を参考にされたい。
- 4. 本書の作成は室員があたり、湯沢、香取が編集を行った。
- 5. 本書 (pdf 形式) および本書に関わる本文には掲載されていない遺構一覧表 (詳細版)、遺物観察表 (以上、xlsx 形式)、遺構写真、遺物写真 (以上、jpeg 形式) は東京大学埋蔵文化財調査室公式サイト (https://www.aru.u-tokyo.ac.jp/index.htm) に収録した。
- 6. 本書掲載・収録の諸データは、営利を伴わない学術目的の個人論文などの使用を除いて無断転載 を禁止する。
- 7. 発掘調査に伴う図面、出土遺物等は、東京大学埋蔵文化財調査室が、東京大学駒場 I キャンパス (東京都目黒区駒場 3-8-1)、東京大学駒場 I リサーチキャンパス (東京都目黒区駒場 4-6-1)、東京大学工学系研究科柿岡教育研究施設 (茨城県石岡市柿岡 414) において管理、運用、保管を行っている。

目 次

例	言
目	次

年報編	
東京大学構内遺跡の調査	3
東京大学構内遺跡調査一覧	4
第 I 章 埋蔵文化財調査の概要 (事前・試掘・立会)	19
第1節 本郷構内の事前調査	
1. 本郷 338 赤門脇トイレ新営工事および守衛所新営その他地点	20
第2節 本郷構内の試掘調査	
1. 本郷 336 ダイバーシティ&インクルージョン棟 B 棟地点	37
第3節 本郷構内の立会調査	
1. 本郷 342 本郷通り囲障耐震改修地点	49
第4節 駒場構内の事前調査	
1. 駒 I 59 駒場講義棟地点	55
第5節 駒場構内の試掘調査	
 1. 駒 I 62 駒場図書館 (Ⅱ期) 整備事業等地点	65
第6節 駒場構内の立会調査	
1. 駒 I 63 講義棟(設備配管)地点	78
第Ⅱ章 調査資料の整理・研究および公開・活用	
第1節 調査資料の整理	
1. 整理事業概要	85
2. 外部委託	85
第2節 調査・研究成果の公開・活用	
1. 報告書・年報	85
2. 広報活動	85
第3節 教育・普及および地域連携	
1. 講座・見学	85
2. 研究会	86
3. 資料の提供・貸出	87
附 埋蔵文化財調査室要項	86
埋蔵文化財調査室規則	86
埋蔵文化財調查室組織表	80

報告編	
東京大学構内遺跡発掘調査報告	
医学部附属病院看護職員等宿舎ゴミ置き場地点	93
紀要編	
東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要 17	
前田邸御成記の分析 3 元禄度幕府側史料と屋敷図 湯沢 丈 15	51
文京区小日向台町遺跡出土炭化穀類の年代と出土土器圧痕調査 15	59
山下優介・國木田大・佐々木由香・	
山本 華・米田 穣	

年 報 編

2023 年度

東京大学は、農学生命科学研究科附属演習林を併せると全国21都道県におよび、326,809,180㎡を所有(一部借入)している。このうち本郷(東京都文京区)、駒場(東京都目黒区)、柏(千葉県柏市)の3構内を拠点キャンパスと位置付けている。本郷構内は本郷、弥生、浅野の3キャンパス全体で559,176㎡、駒場構内はI(教養学部など)、II(リサーチキャンパス)全体で352,180㎡、柏構内は412,291㎡を所有している。

また、周知の遺跡として登録され、現在までに試掘を含め調査を実施したその他の所有地に、研究関連施設では理学系研究科附属植物園本園、農学生命科学研究科附属技術基盤センター(小石川樹木園)、総合研究博物館小石川分館が所在する白山構内(東京都文京区、160,787㎡)、医科学研究所が所在する白金台構内(東京都港区、68,907㎡)、理学系研究科附属臨海実験所(神奈川県三浦市、68,737㎡)、福利厚生関連施設では追分インターナショナルハウス(東京都文京区、1,576㎡)、白金台ロッジ(東京都港区、2,453㎡)、三鷹国際学生宿舎(東京都三鷹市、29,438㎡)、検見川総合運動場(千葉県千葉市、273,027㎡)、目白台インターナショナル・ビレッジ(東京都文京区、28,509,35㎡)がある。

本郷構内は旧石器時代(ブロック・礫群)、縄文時代 (早期末~前期集落・後晩期包蔵地)、弥生時代(中・後 期集落)、古墳時代(前~後期集落)、平安時代(集落)、 江戸時代(大名屋敷・武家地・町地・寺社地)、近代に わたる大規模複合遺跡群で、「文京区 No.47 本郷台遺跡 群」として登録されている。また、その一部(浅野地 区内)は、「文京区 No.28 弥生町遺跡群」として登録さ れ、1975 年に文学部考古学研究室、理学部人類学教室 が合同調査を行った「向ヶ岡貝塚」(No.28-C 地点)は、 1976 年に国史跡に指定されている。

駒場構内のうち駒場Ⅱ地区は、近年の再開発に伴い構内の試掘調査を実施しているが、埋蔵文化財は確認されていない。駒場Ⅰ地区は、旧石器時代(ブロック・礫群)、縄文時代(早期集落)、平安時代、近世(農村)の遺跡が確認され、全体が「目黒区 No.1 東京大学駒場構内遺跡」として登録されている。

柏構内(現状所有範囲)は開発前に千葉県教育委員会による試掘調査が行われたが、遺跡は確認されていない。 白山構内は、すでに明治初頭、エドワード・S・モースによって貝塚の存在が紹介されており、「小石川植物園内貝塚」として周知されてきた。また、1918年には 東京府の旧跡として指定された歴史を持つ。現在では 構内全域が縄文時代(前~晩期集落・貝塚)、江戸時代 (大名屋敷・幕府御用地・武家地)の複合遺跡「文京区 No.81 小石川御薬園跡」、その一部が「文京区 No.21 小 石川植物園内貝塚・原町遺跡」として登録されている。 2012 年 9 月 19 日には「小石川植物園(御薬園跡及び養 生所跡)」として、161,588.4㎡が国の史跡名勝に指定さ れた。

白金台構内は、2000年度の発掘調査(白金台5)で旧石器時代(ブロック)、江戸時代(大名屋敷)の遺跡が確認され、その一部は、「港区 No.135 遺跡」として登録されていたが、2021年の囲障改修地点の調査結果を踏まえて全域(68,907㎡)が2022年3月11日に埋蔵文化財包蔵地に拡大された。

東京大学構内遺跡調査一覧

<u>本组</u>	郷構内調査一覧									
構内	番号	年度	略称	(旧略称)	調査名[旧名称]	調査 種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	1	1983		(U)	山上会館	事前	1984.3.7 ~ 1986.7.17	1500	西田・谷・大貫	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 4 山上会館・御殿下記念館地点』
本郷	2-1	1984	ННВ	(法)	法学部 4 号館	事前	1984.4.1 ~ 1985.3.31	2500	大塚	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 2 法学部 4 号館・文学部 3 号館建設地遺跡』
	2-2			(文)	文学部 3 号館				寺島・大貫・	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書4
本郷	3	1985	HG	S (G)	御殿下記念館	事前	1985.7.29 ~ 1987.6.30	6000	倉林	山上会館·御殿下記念館地点』
本郷	4 - 1	1984	ннс	(病中)	医学部附属病院中央診療棟	車前	1984.10.1 ∼ 1987.3.31	7700	藤本・小川	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3
TEMP	4 - 2		11110	(エネセン)	設備管理棟	3-100	1304.10.1	1100	136 Ar (1.)11	医学部附属病院地点』
	4 - 3 4 - 4		-	(給水) (共同溝)	給水設備棟 共同溝他					
本郷	5	1984	HS7	(理D)	理学部 7 号館	事前	1985.2.1 ~ 10.8	750	羽生	『東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 1 理学部7号館地点』
-4 6mir	C	1000			文京区湯島4丁目~弥生2丁目地先間	A	1000510 700		北 白	
本郷	6	1986			配水管布設替		1986.5.12 ~ 7.20	-	寺島	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2所収
本郷	7	1987			新タンデム棟		1988.2.15 ~ 17	28	成瀬・武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
本郷	8	1987 1989	7	- /MC	弥生門脇変電施設 農学部家畜病院		$1987.12.15 \sim 16$ $1990.1.31 \sim 3.14$	1040	武藤	近世 『東京大学構内遺跡調査研究年報』1 所収
									成瀬・堀内・	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書5
本郷	10	1990		HG	医学部附属病院外来診療棟	事前	$1990.6.27 \sim 1991.2.21$	5500	武藤	医学部附属病院外来診療棟地点』
本郷	11	1991		-	農学部ガラス室	試掘	1991.8.12 ~ 13	7	堀内	遺構・遺物なし
本郷	12	1992		FAL	農学部図書館	*	1993.3.9 ~ 3.25	408	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	13	1992	F	A792	農学部7号館I期	事前	1992.10.6 ~ 11.16	1170	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4 所収 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書7
本郷	14	1992	K14	(工14)	工学部 14 号館	事前	1992.11.26 ~ 1993.2.23	1785	成瀬・堀内	工学部 14 号館地点』
本郷	15	1992		YS	薬学部南館 [薬学部新館]	事前	1992.10.21 ~ 12.18	1300	堀内·寺島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 16 薬学部南館地点·薬学部資料館地点』
本郷	16	1993	F	A793	農学部7号館Ⅲ期	事前	1993.11.3 ~ 26	1000	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	17	1993	1	FE1	工学部1号館	車品	1993.12.6 ~ 1994.2.10	616	武藤	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書6
45%	17	1993		r E I	上于印1 7周	尹刑	1993.12.0 - 1994.2.10	010	IC/IRF	工学部1号館地点』
本郷	18	1993		SK	教育学部総合研究棟	事前	1993.11.18 ~ 12.28	1007	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 10 教育学部総合研究棟地点・IML 地点』
本郷	19	1993		HN	看護職員等宿舍1号棟[看護婦宿舍]	事前	1993.8.4 ~ 1994.1.17	746	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 15 医学部附属病院看護職員等宿舎 1 号棟地点・臨 床試験棟地点・看護職員等宿舎 3 号棟地点 (1)』
本郷	20	1993	Т	rum	総合研究博物館新館	事前	1994.2.14 ~ 4.8	600	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 11 総合研究博物館新館地点』
本郷	21	1993	I	MRI	臨床試験棟[MRI-CT 棟]	事前	$1994.1.18 \sim 3.12$	400	成瀬	『東京大学埋蔵文化財調查室発掘調查報告書 15 医学部附属病院看護職員等宿舎 1 号棟地点・臨 床試験棟地点・看護職員等宿舎 3 号棟地点 (1)』
本郷	22	1994		HF	山上会館龍岡門別館	事前	1994.8.17 ~ 10.17	593	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	23	1994	HW	(病棟)	 医学部附属病院入院棟 A	事前	1994.4.21 ~ 11.16,	6096	成瀬・原・	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13
							$1995.1.31 \sim 1996.6.6$ $1994.11.17 \sim 1995.4.28$,		鮫島·大成	医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	24	1994	HIKN	N (医研)	医学部教育研究棟	事前	$1997.3.10 \sim 4.25$, $1998.11.2 \sim 12.25$,	2901	堀内·鮫島· 大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 14 医学部研教育究棟地点』
-£- 6mr	05	1004	-	INID	 	中平	2002.9.3 ~ 12.25	4-	匠	『古古上巻掛片集時細木町をた起し17 記点
本郷	25 26	1994 1994	1	HND -	医学部附属病院看護師宿舎ゴミ置き場法文十字路外灯	_	1995.1.30 ~ 3.3 1994.9.5	45	原 成瀬・鮫島	『東京大学構内遺跡調査研究年報』17 所収 近世
本郷	27	1994			理学部 1 号館		1994.10.3 ~ 18	-	寺島	遺構・遺物なし
本郷	28	1995	1	FPS	薬学部資料館	事前	1995.7.24 ~ 9.1	540	武藤	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 16 薬学部南館地点·薬学部資料館地点』
本郷	29	1995	I	ACC	情報基盤センター変電室 1	事前	1995.7.18 ~ 31	78	鮫島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9 浅野地区I』
本郷	30	1995	I	AFC	工学部風工学実験室支障ケーブル地点	事前	1995.8.22 ~ 9.22	63	鮫島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9 浅野地区I』
本郷	31	1995		-	ATM ネットワーク施設整備	立会	1995.11.20 ~ 24	-	武藤·堀内· 鮫島·原	近世
本郷	32	1994		-	医学部附属病院看護師宿舎電気ケーブル 埋設	立会	1995.3.2	-	原	遺構・遺物なし
本郷	33	1996	I	EQL	地震研テレメタリング地震観測施設		1996.4.15 ~ 5.2	360	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	34	1996		_	野球グランド	_	1996	-	寺島	遺構・遺物なし
本郷	35	1993			経済学部前路面陥没		1993.9.28、1994.5.14	-	成瀬	近世
本郷	36	1993		_	農学部ガス管埋設	쓰줌	1993.10.15	_	成瀬	近世

1++			mh T/ /IPImh T/)	=m+ 4	調査	-m-t- #0.00	面積	10.714	掲載書名
構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	種別	調査期間	(m²)	担当者	遺構・遺物の年代
本郷	37	1994	_	屋外環境整備等龍岡門~附属病院	立会	1994.10.13	_	成瀬・原	近世
本郷	38	1994	_	医学部附属病院内エアタンク設置	_	1994.12.18	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	39	1994	_	史料編纂所前埋設	_	1995.3.10	_	成瀬	近世
									『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9
本郷	40	1995	AFL	工学部風工学実験室	事前	1996.1.22 ~ 3.7	252	鮫島	浅野地区[]
									『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 10
本郷	41	1996	IML	インテリジェント・モデリング・ラボラトリー	事前	1996.4.15 ~ 6.20	626	堀内	教育学部総合研究棟地点·IML 地点』
本郷	42	1996	_	医学部附属病院基幹整備に伴う樹木移植	立会	1996.4	_	成瀬	近世
-1-7442	12	1550		23 1 1000 100 100 100 100 100 100 100 100		1000.1		маня	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13
本郷	43	1996	HWK1	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.5.12 ~ 5.18	20	成瀬	医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
									『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13
本郷	44	1996	HWK2	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	$1996.5.27 \sim 6.27$	102	成瀬	
									医学部附属病院入院棟 A 地点』所収 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13
本郷	45	1996	HWK3	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.6.3 ~ 6.20	184	大成	
- L. Serve	- 10	1001		the seal property of the felt	-I- A	1001001		alb, Mer	医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
本郷	46	1994	_	龍岡門門衛所移築	立会	1994.8.24	-	成瀬	近世
本郷	47	1996	HWK4	医学部附属病院基幹整備共同溝等	事前	1996.6.24 ~ 6.28	5	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 13
									医学部附属病院入院棟 A 地点』所収
									『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 15
									医学部附属病院看護職員等宿舎1号棟地点・臨
					-1- 1/				床試験棟地点·看護職員等宿舎3号棟地点(1)』
本郷	48	1996	HN II	看護職員等宿舎3号棟[看護婦宿舎Ⅱ期]	爭丽	1996.11.5 ~ 1997.1.31	525	原·大成	『東京大学埋蔵文化財調查室発掘調查報告書 19
									医学部附属病院看護職員等宿舎 5 号棟地点
1. (100				I I beauty blis -	1. 4				看護職員等宿舎 3 号棟地点 (2)』 所収
本郷	49	1997	_	外灯整備 1	_	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	50	1997	_	外灯整備 2	_	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	51	1997	_	外灯整備3	_	1997.4.13 ~ 30	-	原	近世
本郷	52	1997	_	農学部(21世紀館)木質ホール	試掘	1997.7.14 ~ 18	50	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2所収
本郷	53	1998	AF IV	工学部風環境シミュレーション風洞実験室	事前	1999.1.7 ~ 25	300	原	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9
-1-7442	- 00	1330	711 11	上 1 日 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3-110	1000.1.1 20	000	1/4	浅野地区I』
-4 ôm	F.4	1000	TIECOO	が 対 24年 かわり 4本	4.44	1000 5 04 11 0	1000	提出 海川	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 18
本郷	54	1999	HES99	経済学研究科棟	争削	1999.5.24 ~ 11.2	1026	堀内・追川	経済学研究科棟地点』
1. (****			(- !)	- W 1000 - 100 - 100 - 100 - 100	-1- 1/	1999.10.12 ~ 2000.2.25,		成瀬・原・	Sharp with the same of the sam
本郷	55	1999	HHC299 (2 中)	医学部附属病院第2中央診療棟	事前	2001.7.23 ~ 2002.12.19	4017	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	56	1999	_	文系 4 研究所等暫定建物	試掘	1999.12.16 ~ 17	16	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』3所収
本郷	57	1999	_	環境安全センター		2000.1.17	-	成瀬	遺構・遺物なし
				10000					『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 12
本郷	58	1999	YM	医学部附属病院受変電設備棟Ⅱ期	事前	2000.2.5 ~ 3.31	300	原	医学部附属病院受変電設備棟地点』
						2000.7.3 ~ 7.12, 10.11 ~			区于即附两州优文交电政师休起点。
本郷	59	2000	KK	工学部基幹整備共同溝	事前	10.14, 2001.2.21 ~ 2.28	900	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
-4- 5mr	CO	2000	HIMIZC	医类如则 民產時世級的 蛛月神经乳体	古公		200	成瀬・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	60	2000	HWK6	医学部附属病院基幹整備外構施設等	事前	$2000.9.21 \sim 11.14$ $2001.6.4 \sim 8.7$	200	成個 垣川	『東京大学博內遺跡調査切先平報』4所収 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9
本郷	61	2001	TS	工学部武田先端知ビル	事前		740	原	
1 from					-l- V	2001.11.28 ~ 12.28		-	浅野地区I』
本郷	62	2001	NSK01	農学部生命科学総合研究棟		2001.9.21 ~ 10.19	1800	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
本郷	63	2001		薬学部暫定建物	_	2002.2.5 ~ 6	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	64	2001	-	情報学環暫定建物	_	2002.2.7	-	成瀬	近世
本郷	65	2002	LS03	法学系総合研究棟	争削	2003.2.17 ~ 4.18	946	成瀬·大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
	66 – 1	2002	(YGS02)	薬学系総合研究棟		2002.8.1 ~ 2003.2.28	1260		『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷			YGS	(薬学系総合研究棟1期)	事前			原	
	66 – 2	2004	(YGS04)	薬学系総合研究棟		2004.7.26 ~ 8.4,	540		『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
	00 2	2001	(10001)	(薬学系総合研究棟2期)		2004.11.17 ~ 2005.2.4	0.10		
本郷	67	2002	-	地震研究所総合研究棟		2002.5.9 ~ 17	32	堀内	縄文·弥生·古墳·近世·近代
本郷	68	2002	INC	インキュベーション施設	*	2003.3.6 ~ 6.7	1051	堀内·追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』4所収
本郷	69	2002	-	地震研仮設建物	_	2002.5.14 ~ 16	-	堀内	遺構・遺物なし
本郷	70	2002	_	工学系総合研究棟	_	2003.2.28	-	堀内	遺構・遺物なし
本郷	71	2004	HEQ04	地震研究所総合研究棟	_	2004.8.30 ~ 2005.2.28	1474	追川·大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
本郷	72	2004	SC1	理学部1号館前	事前	2004.11.29 ~ 12.3	32	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5 所収
本郷	73	2004	_	クリニカルリサーチセンター A 棟I期	計堀	2004.11.29 ~ 12.1	24	成瀬	古墳·近世
1 SAME		2001		[疾患生命研究センター]	14- 43/171			22 N F F F F F F F F F F F F F F F F F F	
									『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 19
本郷	74	2008	HHN308	医学部附属病院看護職員等宿舎5号棟	事前	2008.4.1 ~ 8.1	550	堀内	医学部附属病院看護職員等宿舎5号棟地点
									看護職員等宿舎 3 号棟地点(2)』所収
本郷	75	2005	KOS05	工学系総合研究棟立坑	事前	2005.9.13 ~ 14	17	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
本郷	76	2005	HVP06	ベンチャープラザ	_	2006.3.6 ~ 5.16	760	追川·堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
本郷	77	2005	-	農学部弥生講堂アネックス		2006.1.12	5	大成	近世
						2006.6.5 ~ 12.8, 2007.2.5		大成·成瀬·	
本郷	78	2006	HJF06	情報学環・福武ホール	事前	~ 23	1766	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
本郷	79	2006	_	農学部コイトトロン温室	ウム	2007.1.16	_	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	80	2006	_	展子部コイトロン温至 工学部もの作り実験工房	_	2007.1.16	_	成瀬	遺構・遺物なし
~1~7KP)	00	2000		ユナロP℧▽ハトリ天際.上 <i>万</i>	ユエズ	2007.2.22 2008.3.17 ~ 7.11, 9.11 ~	_	水本作用	JETHY JETM/よし
本郷	81	2007	HEA07	経済学研究科学術交流棟	事前		451	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
A_Arm	00	0005	11173 407	क्रिक्ट देश गा	古一	24, 2009.2.2 ~ 10	0.4	提出	『古七上兴林市地味研え77かをおしままで
本郷	82	2007	HKM07	懐徳門		2007.6.20 ~ 7.20	34	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収
本郷	83	2007		向ヶ丘ファカルティハウス	武畑	$2007.10.22 \sim 25$	50	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	84	1984	NK84	農学部共同溝	事前	1984.7.9 ~ 23	50	今村啓爾	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
本郷	85	2007	10101	薬学部東法面階段設置		2008.3.14	-	成瀬	遺構・遺物なし
に郷		_	_			2009.2.2 ~ 16	_		
珊	86	2008	_	雨水管改修	业会		_	成瀬	遺構・遺物なし
郷	07	2008	TITCOO	市方超工业发	事前	$2008.12.7 \sim 12.25$	20	原	『市京十学掛力等所調本研究左起』14 正何
/抑	87	2008	HTG08	東京都下水道	争則	2009.11.27 ~ 12.8	39	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
	88 – 1	2008				2008.11.19, 11.20	26		『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
foots	00 1	2000		The Table of the State of the S			20	ł	[未苏八于悟门夏盼啊且明九十秋] 7 // K
郷	88 – 2	2009	_	耐震対策事業ガス管改修	立会	$2009.5.11 \sim 13, 15, 23,$	_	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
	00 2	2009				31, 6.18, 8.27			[未永八十倍广] 园助啊且明九十叔。 0 // / / / /
郷	89	2008	_	弥生地区屋外ガス配管改修	立今	2008.11.25 ~ 12.17	193	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
郷	90	2009	_			2009.4.16	10	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
		_		薬学部研究実験棟					
郷	91	2009	HHP09	医学部附属病院立体駐車場	*	2009.12.13 ~ 2010.2.25	3034	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
郷	92	2009	HGG09	学生支援センター	事前	2009.7.21 ~ 7.30	440	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
						$2009.7.30 \sim 2010.2.12, 5.17$			
- Arntr		0000	115100	四世 回腹 兴华 丁丁 00 1 2 4	+	501 0011 501 00	1710	ulb Nec 1 ulb	『主士」、光井山東は四十四次と相」。正四
郷	93	2009	H7I09	伊藤国際学術研究センター	事前	$\sim 5.31, 2011.7.21 \sim 26,$	1710	成瀬·大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
						$9.16 \sim 10.28$			
						2010.1.25 ~ 3.31,			
郷	94	2009	HNS09	分生研·農学部総合研究棟	事前		1731	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
						2010.7.28 ~ 8.11			
郷	95	2009	_	農学生命科学研究科フードサイエンス棟	立会	2009.10.22, 11.2	_	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
郷	96	2009	_			2009.12.14 ~ 12.17	64	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
- 42		2009		基幹整備(流域®排水)A区	n. x 2/14	2010.3.3 ~ 3.19	26		TAJ U//14
郷	97 – 1	_	HKS09		事前			原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収
	97 – 2	2010		基幹整備(流域®排水)B区		2010.11.27 ~ 12.6	42		
郷	98	2010		原子動力実験棟	試掘	2010.4.9	16	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
	99 - 1	0	(HLS10-1)			2010.7.20 ~ 8.23	60	追川	First toward the second toward to the second toward toward to the second toward toward to the second toward
郷	99 – 2	2010	HLS10 (HLS10-2)	-	車前	2011.1.18 ~ 26	268	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
Δψ		00	<u> </u>	(公丁申3 7周智木	于刑				『古士上兴株古典が四十四からかり。~~~
	99 – 3	2011	(HLS10-3)		ļ	2011.5.16 ~ 7.26	406	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
郷	100	2010	HK311	工学部新 3 号館	事前	2011.1.4 ~ 10.11	4595	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
				医学部附属病院ドナルド・マクドナルド・					
郷	101	2010	HMH10		事前	2010.12.9 ~ 2011.1.26	30	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
		-		ハウス地点				12.111	Shall by Mr. I.
郷	102	2010	_	本郷通り囲障改修	立会	2010.12.2、12.13	_	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
郷	103	2011	HKK11	春日門横教育研究棟	事前	2011.12.1 ~ 2012.7.20	949	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8、9所収
郷	104	2010	_	防犯用ネットワークカメラ賃貸借	立会	2010.7.30 ~ 8.11	_	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
郷	105	2010	_	弥生地区屋外ガス配管改修		2010.8.31 ~ 9.11	_	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
·炸p	105	2010	_		五五		_	原	宋尔八子傳內退跡調宜明九十報』 6 門 収
細	106	2010	_	薬学ゲート前舗装改修	立会	$2011.2.7$, 9, $15 \sim 16$,	_	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
~7EP	100	2010		来子/ Trin	쓰ㅈ	18, 21 ~ 22	_		[
郷	107	2011	_	総合図書館前クスノキ移植	立会	2011.6.9 ~ 15	-	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
_		_	_		_				
郷	108	2011		旧原子力センター別館改修		2011.6.22	16	堀内	遺構・遺物なし
郷	109	2011	_	仮設キュービクル設置	立会	2011.9.1	18	大成	遺構・遺物なし
郷	110	2011	_	クリニカルリサーチセンター A 棟II期	試掘	2011.11.29 ~ 12.2	6	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
郷	111	2011	_	総合図書館西側道路構造調査	立会	2011.10.18	4	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
郷	112	2011	_	クリニカルリサーチセンター B 棟	試掘	2011.11.29 ~ 12.2	25	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
*714P	112	2011		JANATA JEST BIK	D1/1/17		20	旭川	[本东八于悟門短跡啊且明九十代] 5/月代
						$2012.3.1 \sim 11.30$		成瀬・香取・	
郷	113	2011	HHWB12	医学部附属病院入院棟Ⅱ期	事前	$2013.8.19 \sim 10.3$	4391		『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
						2014.2.5 ~ 2015.2.19		小川	
front				The state of the s					Note that we will be a
郷	114	2010	_	下水本管改修	立会	2010.6.17、21	-	原	遺構・遺物なし
郷	115	2012	HTP12	図書館前クスノキ移植	事前	2012.5.7 ~ 6.18	60	追川	近世
郷	116	2011	_	旧原子力研究総合センター別館電気設備	立会	2011.9.20, 10.25	_	原	遺構・遺物なし
郷	117	2011	_	農学部 3 号館西側舗装改修		2011.12.14 ~ 2012.1.13	14	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収
		_							
郷	118	2011	_	ガス管改修		2011.9.5 ~ 9.19	18	原	遺構・遺物なし
郷	119	2011	HNS09	分生研·農学部総合研究棟	事前	2011.7.26 ~ 27	7	原	遺物のみ
						2011.9.10 ~ 17, 11.20 ~			
郷	120	2011	_	分生研·農学部総合研究棟基幹整備	試掘	21	9	原	遺構・遺物なし
	***	0011		m 26 49 1	J. ^		-	l res	DIS (I).
	121	2012	_	農学部1号館北側舗装改修		2012.7.10 ~ 14	2	原	近代
郷	122	2012	_	伊藤国際舗装改修	立会	2012.7.14	1	原	遺構・遺物なし
_	122	2012	_	春日門門扉やりかえ		2012.9.4、10	5	大成	遺構・遺物なし
郷		~10	_	農学生命科学研究科閉鎖系温室		2012.9.26 ~ 27	31	原	
郷郷	123	2012	_	辰十工叩竹子明九竹闭鋇求価至		$2012.9.26 \sim 27$ $2012.12.17 \sim 2014.9.12$			遺構・遺物なし
郷郷	123 124	2012	1100	F11-1-0-1111		DOLUTE 12 17 ~ 2014 0 19		追川・小川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
郷郷郷郷	123 124 125 – 1	2012	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A 棟I期			3341		
郷郷郷郷	123 124	_	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A 棟I期 原子力別館北側雨水配管改修		$2012.12.17 \sim 2014.5.12$ $2012.12.17 \sim 20$	21	原	遺構・遺物なし
:郷 :郷 :郷 :郷 :郷	123 124 125 – 1 126	2012		原子力別館北側雨水配管改修	立会	2012.12.17 ~ 20			
郷郷郷郷郷	123 124 125 – 1	2012 2012	_		立会試掘	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20	21	原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
:郷 :	123 124 125 – 1 126	2012 2012	_	原子力別館北側雨水配管改修	立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7,	21	原原	
郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 – 1 126 127	2012 2012 2012	-	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修	立会試掘	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19	21 10	原原	遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 – 1 126 127 128	2012 2012 2012 2012	-	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修	立会試掘立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7,	21 10 2750	原原原	遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 – 1 126 127	2012 2012 2012	-	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修	立会試掘	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26,	21 10	原原原	遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128	2012 2012 2012 2012 2012		原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修	立会試掘立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3	21 10 2750	原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 – 1 126 127 128	2012 2012 2012 2012 2012 2012		原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備(ガス)	立会 試掘 立会 立会 事前	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2012.11.5, 13	21 10 2750	原原原	遺構・遺物なし遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128	2012 2012 2012 2012 2012		原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修	立会 試掘 立会 立会 事前	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3	21 10 2750	原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129	2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備(ガス)	立会 試掘 立会 立会 事前 立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2012.11.5, 13 2013.3.25	21 10 2750 1000 -	原原原原原成瀬・堀内	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修	立会 試掘 立会 立会 事前 立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2012.11.5, 13 2013.3.25 2013.4.8	21 10 2750 1000 - 11 16	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント	立会 試掘 立会 立会 事前 立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 37, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2012.11.5, 13 2013.3.25 2013.4.8 2013.4.10	21 10 2750 1000 - 11	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原成瀬・堀内追川	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修	立会 試掘 立会 立会 事前 立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 3.7, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2012.11.5, 13 2013.3.25 2013.4.8	21 10 2750 1000 - 11 16	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代・遺物なし
(網) (編) (編) (編) (編) (編) (編) (編) (編) (編) (編	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修	立会 試掘 立会 立会 事前 立会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 37, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2013.1.21, 13 2013.25 2013.4.8 2013.4.10 2013.3.18, 27, 4.1, 8 ~	21 10 2750 1000 - 11 16	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備(ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修	立会 試掘 立 立 事 立 立 立 立 会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 37, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2013.1.21, 13 2013.3.25 2013.4.8 2013.4.10 2013.3.18, 27, 4.1, 8 ~ 10, 22, 23, 30, 5.1, 9,	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012	- - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修	立会 試掘 立 立 事 立 立 立 立 会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 37, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2013.1.21, 13 2013.25 2013.4.8 2013.4.10 2013.3.18, 27, 4.1, 8 ~	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備(ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修	立会 試掘 立 立 事 立 立 立 立 会	2012.12.17 ~ 20 2012.2.20 2013.1.21, 2.1, 20, 37, 11, 12, 14, 15, 18, 19 2012.12.25, 26, 2013.1.21, 2.1, 3 2013.1.21, 13 2013.3.25 2013.4.8 2013.4.10 2013.3.18, 27, 4.1, 8 ~ 10, 22, 23, 30, 5.1, 9,	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備(ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修	立会 試掘 立 立 事 立 立 立 立 会	$\begin{array}{c} 2012.12.17 \sim 20 \\ 2012.2.20 \\ 2013.1.21, \ 2.1, \ 20, \ 37, \\ 11, \ 12, \ 14, \ 15, \ 18, \ 19 \\ 2012.12.25, \ 26, \\ 2013.1.21, \ 2.1, \ 3 \\ 2012.11.5, \ 13 \\ 2013.3.25 \\ 2013.4.8 \\ 2013.4.10 \\ 2013.3.18, \ 27, \ 4.1, \ 8 \sim \\ 10, \ 22, \ 23, \ 30, \ 5.1, \ 9, \\ 10, \ 13, \ 14, \ 21 \sim 23, \ 6.15, \\ 17, \ 18, \ 24 \sim 26, \ 28, \ 7.1 \\ \end{array}$	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修	立試 立 立 事立立立 事	$\begin{array}{c} 2012.12.17 \sim 20 \\ 2012.220 \\ 2013.1.21, \ 21, \ 20, \ 37, \\ 11, \ 12, \ 14, \ 15, \ 18, \ 19 \\ 2012.12.25, \ 26, \\ 2013.1.21, \ 21, \ 3 \\ 2012.11.5, \ 13 \\ 2013.215 \\ 2013.48 \\ 2013.4.10 \\ 2013.3.18, \ 27, \ 41, \ 8 \sim \\ 10, \ 22, \ 23, \ 30, \ 51, \ 9, \\ 10, \ 13, \ 14, \ 21 \sim 23, 6.15, \\ 17, \ 18, \ 24 \sim 26, \ 28, \ 7.1 \\ \sim 3, \ 5 \end{array}$	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原成進川原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133 134	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (下水他) 農学部水田取設	立	$\begin{array}{c} 2012.12.17 \sim 20 \\ 2012.2.20 \\ 2013.1.21, \ 21, \ 20, \ 37, \\ 11, \ 12, \ 14, \ 15, \ 18, \ 19 \\ 2012.12.25, \ 26, \\ 2013.1.21, \ 21, \ 3 \\ 2012.11.5, \ 13 \\ 2013.3.25 \\ 2013.4.8 \\ 2013.4.10 \\ 2013.3.18, \ 27, \ 4.1, \ 8 \sim \\ 10, \ 22, \ 23, \ 30, \ 5.1, \ 9, \\ 10, \ 13, \ 14, \ 21 \sim 23, 6.15, \\ 17, \ 18, \ 24 \sim 26, \ 28, \ 7.1 \\ \sim 3, \ 5 \\ 2013.64, \ 5, \ 7, \ 8, \ 10 \end{array}$	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原成進川原原原城地内原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 道構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし
郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷郷	123 124 125 - 1 126 127 128 129 130 131 132 133	2012 2012 2012 2012 2012 2012 2012 2013 2013	- - - - - - -	原子力別館北側雨水配管改修 工学部 4 号館屋外排水管改修 農学部 1 号館北側他舗装改修 理学部 2 号館舗装改修 工学部 3 号館施設整備 (ガス) 医学部モニュメント タンデム加速器研究棟北側側溝改修 工学部 9 号館西側舗装改修	立	$\begin{array}{c} 2012.12.17 \sim 20 \\ 2012.220 \\ 2013.1.21, \ 21, \ 20, \ 37, \\ 11, \ 12, \ 14, \ 15, \ 18, \ 19 \\ 2012.12.25, \ 26, \\ 2013.1.21, \ 21, \ 3 \\ 2012.11.5, \ 13 \\ 2013.215 \\ 2013.48 \\ 2013.4.10 \\ 2013.3.18, \ 27, \ 41, \ 8 \sim \\ 10, \ 22, \ 23, \ 30, \ 51, \ 9, \\ 10, \ 13, \ 14, \ 21 \sim 23, 6.15, \\ 17, \ 18, \ 24 \sim 26, \ 28, \ 7.1 \\ \sim 3, \ 5 \end{array}$	21 10 2750 1000 - 11 16 23	原原原原原原原原原成進川原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原原	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 近代 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷 本郷	138 139	2013 2013	-	工学部 3 号館施設整備 (雨水) 保育園前歩道植栽	_	2013.7.22、26、31 2013.8.4	41 42	堀内	近世遺構面確認遺構・遺物なし
本郷	140	2013	-	春日門総合研究棟外構	立会	2013.7.29、31、8.1、5、 2014.1.29、2.4	107	大成	近世遺構面確認
本郷	141	2013	_	工学部 3 号館施設整備 (下水 2)	立会	2013.8.24	-	堀内	遺構・遺物なし
本郷	142	2013	-	農学部東側外構	試掘	2013.9.10	7	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
						2013.9.26, 10.21 ~ 25, 11.5, 11, 12.12, 13,			
本郷	143	2013	HKO13	講堂改修	事前	16, 2014.11.11, 13 ~ 15, 18, 19, 27, 28, 12.5, 9, 11, 13, 15, 17	539	原·清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10 所収
本郷	144	2013		看護職員等宿舎5号棟擁壁	計掘	2013.9.2, 3	13	香取	近世·近代整地層
本郷	145	2013	_	医学部中央総合館前誘導ブロック設置	_	2013.9.27	-	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	146	2013	HAC13	アカデミックコモンズ	_	2013.9.10 ~ 2014.3.31	1200	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	147	2013	-	国際科学イノベーション総括棟	試掘	2013.7.23 ~ 7.26	48	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	148	2013	HIN14	国際科学イノベーション総括棟	事前	$2014.1.14 \sim 7.23$, $2014.8.18 \sim 8.21$	1480	大成·香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	149	2013	_	(弥生) テニスコート夜間照明設置	立会	2013.12.20	4	大成	遺構・遺物なし、時期不明硬化面
本郷	150	2013	_	農学部正門舗装改修	立会	2014.1.29、2.3、16~18	510	原	遺構・遺物なし
本郷	151	2013	_	農学生命科学研究科閉鎖系温室	_	2014.1.29	18	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	152	2013		地震研究所北側囲障改修	_	2014.2.13、17、21	40	原油水	遺構・遺物なし
本郷	153	2014		理学部1号館		2014.5.16、19	21	原・清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷本郷	154 155	2013		保育園前漏水 懐徳門舗装	_	2014.1.10、14 2014.1.29、2.5、2.10	1 277	堀内 堀内	遺構・遺物なし遺構・遺物なし
本郷	156	2013		博物館 AMSラボ電気改修	_	2014.1.29、2.3、2.10	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	157	2013	_	第2本部棟外構	_	2014.2.22 ~ 23	4	堀内	遺構・遺物なし
本郷	158	2013	_	街灯整備	_	2014.3.11 ~ 14	46	堀内	遺構・遺物なし
本郷	159	2014	-	弓道場脇フェンス	立会	2014.4.7	5	堀内	遺構・遺物なし
本郷	160	2014	_	文系総合研究棟	試掘	2014.4.9 ~ 11	27	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	161	2014	_	懐徳館庭園給水引き込み		2014.4.22 2014.6.23、27、7.3、4、	-	原・清水	遺構・遺物なし
本郷	162	2014		工学部 4 号館改修 法文 2 号館給水管改修	試掘	10、8.12 2014.6.4	47	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』 10 所収 遺構・遺物なし
本郷	164	2014	_	イノベーション棟現場事務所	_	2014.6.5	-	追川	遺構・遺物なし
本郷	165	2014	_	弓道場テント基礎移設	_	2014.7.3	1	清水	遺構・遺物なし
本郷	166	2014	-	農学部門衛所漏水対応	立会	2014.7.15	-	原	遺構・遺物なし
本郷	167	2014	_	安田講堂花壇漏水対応	立会	2014.7.30	1	小川	遺構・遺物なし
本郷	168	2014	-	アカデミックコモンズ2次調査	事前	2014.8.13 ~ 10.31, 11.25, 12.10, 12	475	堀内·清水	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	169	2014	HEK14	文系総合研究棟	事前	2014.10.14 ~ 11.5	180	堀内·香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』10所収
本郷	170	2014	-	七德堂改修外構	立会	2014.11.21、2015.1.13、 14	130	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	171	2014	-	図書館横仮設建物建設に伴う舗装石除去	立会	2014.9.4	930	堀内	遺構・遺物なし
本郷	172	2014	_	第二食堂前カーゲート付近舗装改修	_	2014.11.21	78	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	173	2014	-	医学部附属病院第二中央診療棟前車道 バリカー設置	立会	2014.12.19	1	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	174	2014	-	本郷キャンパスバリアフリー関係整備	立会	2014.12.22、2015.1.20、 21	169	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	175	2014	_	図書館仮設キュービクル設置	立会	2014.11.26	8	清水	遺構・遺物なし
本郷	176	2014	_	ネットワーク監視カメラ設置	_	2014.12.2	5	清水	遺構なし、近世磁器1点
本郷	177	2014	-	工学部1号館前広場シダレザクラ移植	_	2015.1.6、7	5	香取	近世遺構・遺物
本郷	178	2014	HN614	農学部6号館改修	事前	2015.1.7 ~ 9, 4.27, 28	38	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	179	2014		安田講堂前広場の整備生物環境ガラス温室	_	2015.1.6、7、2.18	405	香取 原	近現代
本郷 本郷	180 181	2014		生物境境カラス温至 農学部グランド門扉改修	_	2015.1.16 2015.1.21、2.3	3	香取	遺構・遺物なし 近世
本郷	182	2014	HCRG15	医学部附属病院 CRC 棟ほか外構	_	2015.1.21、2.3 2015.3.16 ~ 9.25	162	追川	近世
本郷	183	2014	-	地震研究所北側囲障改修	_	2015.2.6	153	原	遺構・遺物なし
本郷	184	2014	_	上野英三郎博士とハチ公(仮)台座	_	2015.2.6	3	原	遺構・遺物なし
本郷	185	2014	_	バス通り誘導ブロック整備		2015.2.20、23、24	25	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	186	2014	_	薬学本館埋設配管		2015.2.23、24	14	小川	遺構・遺物なし
本郷	187	2014		工学部船舶運動性能試験水槽埋設配管		2015.3.16	5	清水	遺構・遺物なし
本郷	188	2015	_	総合研究棟(理学系)	_	2015.4.7、9、10	36	原原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	189 190	2015		上野英三郎博士とハチ公(仮)解説板 農学部正門守衛所	_	2015.5.11 2015.5.1	5	原原	遺構・遺物なし遺構・遺物なし
本郷	190	2015		展子部正门寸解所 情報学環・福武ホール漏水補修	_	2015.5.1	3	清水	遺構なし、近世磁器1点
本郷	192	2015	_	安田講堂監視カメラ	_	2015.5.25	52	原	遺構・遺物なし
本郷	193	2015	_	中央食堂第二購買部散水栓修理		2015.6.28	0.3	原	遺構・遺物なし
本郷	194	2015	_	理学部1号館新営に伴う支障排水管盛替	_	2015.6.25	4	原	遺構・遺物なし
本郷	195	2015	-	農学部東別館漏水補修	_	2015.5.4	1	香取	遺構・遺物なし
本郷	196	2015	_	総合研究博物館裏街灯取替	_	2015.6.8	2	小川	遺構・遺物なし
本郷本郷	197 198	2015	- HR115	文系総合研究棟仮設電気 理学部1号館		$2015.7.15 \sim 7.17$ $2015.8.17 \sim 12.9$	530	平石·香取 原·小川·	遺構・遺物なし 『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	199	2015	-	御殿下グラウンド北側チェーンゲート取設			9	平石 原	遺構・遺物なし
本郷	200	2015	_	農学部1号館西側外構	立会	2015.9.1、15	20	原	遺構・遺物なし

					===		I+		18±1±5-4
構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (m²)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
-L- Artit	001	0015		\4 u7 A- lor de fit		0015.0.5	` '	-15-10-4	
本郷	201	2015		浅野街灯整備 安田講堂マンホール		2015.9.7 2015.11.27	2	香取 原	遺構・遺物なし
本郷	202	2015		国際科学イノベーション総括棟外構	_	2015.12.14	82	大成	遺構・遺物なし
本郷	204	2015		農学部漏水	_	2016.1.12	0.6	香取	遺構・遺物なし
本郷	205	2015	_	理学系総合研究棟仮設電気		2016.1.19	0.6	小川	遺構・遺物なし
1 200	200	2010		2.77(00 ti 017 ti 17 ti		2016.1.19, 22, 25, 28,	0.0	771	211 21000
本郷	206	2015	HR115	理学部1号館外構	事前	2016.2.12, 16, 17, 19	175	小川・平石	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	207	2015	HMK16	各門サイン設置	事前	2016.2.1 ~ 3	8	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	208	2015	-	工学部 3 号館外周道路舗装部補修	-	2016.2.19	36	平石	遺構・遺物なし
本郷	209	2015	_	医学部総合中央館西側駐車場改修		2016.3.4	218	平石	遺構・遺物なし
本郷	210	2015	-	環境安全研究センター漏水	立会	2016.2.10	0.5	堀内	遺構・遺物なし
-k- (n)	911	2015	_	以 以 以 以 以 は の ま な の ま な の も の は の も の は の の も の る る る る る る る る る る る る る	立会	2016.1.6、9、2.15、16、2.29	01	注业	で世界の名が (事業人)
本郷	211	2015	_	附属図書館(教育学部等)改修	五云	~ 3.2	81	清水	近世陶器数点。遺構なし
本郷	212	2015	_	安田講堂南側舗装改修	立会	2016.3.1、8	38	香取	遺構・遺物なし
本郷	213	2015	_	理学部2号館前生垣	立会	2016.3.14	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	214	2016		低温センター A004 室アース	立会	2016.4.19	3	原	遺構・遺物なし
本郷	215	2016		第一研究棟西側圃場整備	立会	2016.6.3	21	平石	遺構・遺物なし
本郷	125 - 2	2015	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A 棟Ⅱ期 (13区)	事前	2016.3.28 ~ 4.14	9	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
木郷	125 – 3	2016	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A 棟Ⅲ期	立会	2016.4.26	31	追川	遺構・遺物なし
/ 1	123 3	2010	HCKAIZ	(ガス配管)	11. Z	2010.4.20	31	旭川	通悟 通物なじ
	125 – 4	2016	HCD 419	クリニカルリサーチセンター A 棟II期	車並	2016 2 26 0 2	194	2色 111	『市方十学機力書班調本四次年報』 11 元四
平畑	120 - 4	2010	HCRA12	(14 区)	尹削	2016.8.26 ~ 9.2	124	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
-La ferrer	105 5	0016	HCD 4.10	クリニカルリサーチセンター A 棟Ⅱ期	^	0016 5 06	0.4	\6 III	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
平淵	125 – 5	2016	HCRA12	(ガス配管竪坑)	业会	2016.5.26	0.4	追川	遺構・遺物なし
本郷	125 - 6	2016	HCRA12		事前	2016.5.19	23	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	216	2016	-	教育学部機械設備改修	立会	2016.7.4	7	小川	遺構・遺物なし
La Sent	0.15	0010		附属図書館(教育学部等)改修	A	2014222			Note better - Note of C. S. N
本郷	217	2016	_	電気設備	立会	2016.8.29	3	平石	遺構・遺物なし
本郷	218	2016	_	農学部正門ステンレスポール更新	立会	2016.10.19	0.2	原	遺構・遺物なし
本郷	219	2016	_	構内各所サイン設置	立会	2016.11.16 ~ 19, 21	10	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
本郷	220	2016	-	育徳園内倒木樹木の撤去作業	立会	2016.10.22	1	原	遺構・遺物なし
本郷	221	2016	_	安田講堂北側誘導ブロック	立会	2017.1.12、13	8	原	遺構・遺物なし
-k- (n)	999	2016		附属図書館(教育学部等)改修	- ウム	2017 1 11	7	匠	事様、事所れ
本郷	222	2016	_	機械設備	五云	2017.1.11	7	原	遺構・遺物なし
本郷	223	2016	_	朱舜水碑現設置場所	立会	2017.2.7、8、16	86	原	遺構・遺物なし
本郷	224	2016	_	朱舜水碑移転先	立会	2017.2.17、20、25	32	原	遺構・遺物なし
本郷	225	2016		医学部附属病院内駐輪場	立会	2017.2.13	10	追川	遺構・遺物なし
本郷	226	2016		附属図書館ダムウェーター新設		2017.1.24	16	堀内	遺構・遺物なし
本郷	227	2016	_	正門整備		2017.3.9、13、15、16	209	原	遺構・遺物なし
本郷	228	2016		医学部本館脇樹木	_	2017.2.23	0.2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	229	2016	_	農学部サッカー部室		2017.3.1、4.17、8.29	109	堀内·大成	遺構・遺物なし
本郷	230	2016		育徳園柵修理	立会	2017.3.22 ~ 24, 28, 30	(35)	原	遺構・遺物なし
本郷	125 – 7	2017	HCRA12	クリニカルリサーチセンター A 棟Ⅱ期	事前	2017.4.1 ~ 7.28	3621	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12 所収
				(16 ⊠ · 17 ⊠)					
本郷	231	2017	HR115	理学部1号館南側外構		2017.5.10、29	7	原	遺構・遺物なし
本郷		2017		動物センター前土質調査		2017.4.25		原	遺構・遺物なし
本郷	233	2017		アカデミックコモンズ雨水排水管		2017.4.12 · 13	7	堀内	遺構・遺物なし
本郷	234	2017	– UNV	アカデミックコモンズ補給水管盛替え		2017.5.25	11	大成原	遺構・遺物なし
本郷	235 236	2017	HNY -	看護職員等宿舎5号棟擁壁 野球場ブルペン改修		$2017.8.4 \sim 20$ 2017.7.14.15.22.23	53 376	原原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収 遺構・遺物なし
本郷	236	2017		理学部1号館ガス管・配水管	_	2017.7.14.15.22.23	15	原	遺構・遺物なし
本郷	238	2017		第一研究棟中庭排水切り替え		2016.5.19、20	13	追川	近世
本郷	239	2017	_	御殿下グラウンド西側舗装改修		2017.9.16	4.7	清水	遺構・遺物なし
本郷	240	2017	_	工学部6号館北立ち枯れ樹木伐採	_	2017.9.19	8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	241	2017	_	列品館西側舗装改修		2017.9.20	13	原	遺構・遺物なし
本郷	242	2017	_	入院棟B棟東側道路改修	_	2017.9.14	500	追川	遺構・遺物なし
本郷	243	2017	_	中央食堂その他改修 (EV 新設)		2017.12.4	12	原	遺構・遺物なし
			III/C**			2018.3.30 ~ 4.2, 5, 12,	000	Ludb	
本郷	244	2017	HKO18	基幹・環境整備(言問い通り横断管路)	事前	16, 5.10, 16, 17, 12.17	203	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12 所収
本郷	245	2017	HCRB17	クリニカルリサーチセンター B 棟	事前	2018.1.15 ~ 4.4	93	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
本郷	246	2017	_	育徳園石組補修		2017.12.6	0.6	原	近代(裏込から磁器、レンガ)
本郷	247	2017	_	中央食堂改修機械設備	立会	2018.1.18、19	26	原	遺構・遺物なし
本郷	248	2017	_	農学部グラウンド防球フェンス新設	立会	2018.1.16	5	堀内	遺構・遺物なし
本郷	249	2017	_	医学部総合中央館1階改修・既設管接続	立会	2018.2.15	4	大成	遺構・遺物なし
本郷	250	2017	_	山上会館龍岡門別館東側及び広報	立ム	2018.3.20	8	香取	遺構・遺物なし
~T+21D	200	2011		センター東側実生木伐採・抜根作業	~ X	2010.0.20	O	11 TA	
本郷	251	2017	_	医学部総合中央館中庭照明改修	_	2018.3.22	1	香取	遺構・遺物なし
本郷	252	2017	-	旧東大出版会北側植栽整備		2018.3.23	3	堀内	遺構・遺物なし
本郷	253	2017	_	外来診療棟西側配管	_	2018.3.23 ~ 24	6	小川	遺構・遺物なし
本郷	254	2017	_	育徳園低木撤去植替え		2018.3.27	50	大成	遺構・遺物なし
本郷	255	2018	_	外来診療棟南側こいのぼり基礎	_	2018.4.6	0.6	小川	遺構・遺物なし
本郷	256	2018		医学部附属病院バス停渡り配管		2018.5.2	10	小川	遺構・遺物なし
本郷	257	2018		学生第二食堂横広場整備		2018.5.10	15	大成	遺構・遺物なし
本郷	258	2018 2018		学生第二食堂前外構	_	2018.6.22		大成	遺構・遺物なし
本郷	259		_	医学部附属病院南研究棟外構	ロブ会	2018.7.23	5.3	追川	遺構・遺物なし

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	260	2018	_	農学部7号館西側道路漏水	立会	2018.10.9	2	堀内	遺構・遺物なし
本郷	261	2018	_	工学部 11 号館南側ハンドホール補修	立会	2018.10.22	0.2	小川	遺構・遺物なし
本郷	262	2018	_	プレハブ研究A棟案内表示板設置	_	2018.10.25	0.5	小川	遺構・遺物なし
本郷	263	2018		育徳園倒木		2018.10.1、16、17	7	原	近代盛土、遺物なし
本郷	264	2018		向ヶ丘ファカルティハウス中庭整備	立会	2018.11.5	96	香取	遺構・遺物なし
本郷	265	2018	_	最先端臨床研究センター西側喫煙所 衝立設置	立会	2018.121	3	香取	遺構・遺物なし
本郷	266	2018	HKD18	基幹·環境整備(電気管路)	事前	$2018.12.17 \sim 21$, $2019.1.28 \sim 2.5$	57	大成	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	267	2018	_	東御長屋井戸跡サイン板設置	立会	2019.1.24	0.5	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	268	2018	-	育徳園路等補修	立会	2019.1.21、22、23、25、 28、29、30、31、2.1	-	原	池底確認、遺物なし。一段目護岸杭列園路側 10.5 m、二段目護岸杭列池側 21 m
本郷	269	2018	-	農学部ファカルティハウス外構プロック塀 補強	立会	2019.1.31、2.1	9	原	遺構・遺物なし
本郷	270	2018	_	野球場防球ネット増設	立会	2019.2.20、21、27	6	香取	遺構・遺物なし
-i- our	071	0010		東洋文化研究所北側外構スロープ手摺	^	0010.0.00	,	J. 101	\mathfrake
本郷	271	2018	_	撤去	五云	2019.2.28	1	小川	遺構・遺物なし
本郷	272	2018	_	野球場フェンス補修	立会	2019.3.6	2	原	遺構・遺物なし
本郷	273	2018	_	第二食堂前植栽带改修		2019.3.8	105	小川	遺構・遺物なし
本郷	274	2018		本郷通り囲障改修		2019.3.20	8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	275	2019		野球場正面入口前マンホール嵩下げ		2019.4.24	3	香取	遺構・遺物なし
本郷	276	2019	-	言問通り横断管路	_	2019.7.8 ~ 8.2	112	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13所収
本郷	277	2019	HWK19	医学部附属病院基幹整備共同溝		2019.8.5 ~ 2021.2.22	281	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	278	2019		農学生命科学図書館他ブロック塀改修		2019.8.2	1	原	遺構・遺物なし
本郷本郷	279 280	2019		第2本部棟系統排水管改修 仮設プレハブ取説		2019.8.3 2019.8.23, 24, 26	2	堀内 香取	遺構・遺物なし遺構・遺物なし
本郷	281	2019		工学部列品館耐震		2019.8.23、24、26	31	大成	
本郷	281	2019		安田講堂サイン設置		2019.10.8	1	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収 遺構・遺物なし
本郷	283	2019		給水管改修		2019.10.18	352	原・香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』13 所収
本郷	284	2019		医学部5号館改修(その1)同(その2)	_		1224	堀内	遺構・遺物なし(レンガ基礎確認)
本郷	285	2019		医学部 2 号館本館耐震改修		2019.12.10	2	追川	遺構・遺物なし
本郷	286	2019	-	農学部1号館耐震改修工事に伴う仮設 建物		2019.12.18、19、2020.2.25		大成	A~D区あり。A区調査必要なし、B区立会、C·D区試掘遺構なし(震災に伴う灰層にパックされた
									レンガ基礎確認)
本郷	287	2019		医学部3号館南西側高圧ケーブル敷設			40	大成	遺構・遺物なし
本郷	288	2019	HYK20	野球場北側擁壁改修		2020.1.9 ~ 11.9 2020.2.3, 2.12 ~ 13, 3.2	387	堀内·香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』16 所収
本郷	289	2019	_	理学部三角広場改修		~ 3, 3.16, 4.1, 4.11, 4.16, 5.22, 6.10, 6.26, 7.14, 8.20	1,341	小川·堀内	遺構・遺物なし
本郷	290	2020		総合研究博物館改修機械設備	_	2020.5.13	3	大成	遺構・遺物なし
本郷	291	2010	_	農学部 3·5 号館間		2010.6.10	16	原	遺構・遺物なし
本郷	292	2010	_	弥生門前掘削	_	2010.6.11	30	原	遺構・遺物なし
本郷	293	2020		農学部1号館電気		2020.5.11	39	堀内	遺構・遺物なし
本郷	294	2019		附属図書館改修IV期	_	2020.3.26、7.20	62	成瀬	遺構・遺物なし
本郷本郷	295 296	2019	_	七徳堂東側樹木樹勢回復作業 浅野地区旧宿舎付近車止め設置		2019.3.26 2020.3.30	5 0.4	大成成瀬	遺構・遺物なし
本郷	297	2020	HOK II 20A HOK II 20Y	基幹・環境整備(言問通り横断管路) II期		2020.4.7、5.7 ~ 7.31		大成·堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	298	2020	HA120	農学部1号館機械設備		2020.6.8 ~ 6.16		堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』14 所収
本郷	299	2020		共同溝東側陥没		2020.9.3 ~ 7	4	追川	遺構・遺物なし
本郷	300	2020		工学部5号館改修電気設備		2020.09.14	4	小川	遺構・遺物なし
本郷	301	2020		赤門前銀杏根系調査		2020.10.6 2020.10.20	5	香取	遺構・遺物なし
本郷本郷	302 303	2020		農学部1号館改修(設備) 弥生キャンパス消火栓改修		2020.10.20 2020.12.19	7 5	堀内 小川	遺構・遺物なし
本郷	304	2020		工学部1号館地下1階部材実験室改修		2020.12.19	2	大成	遺構・遺物なし
本郷	305	2020	_	機械設備中央食堂熱源改修その他	立会	2021.1.26、2.10、4.5	173	小川	遺構・遺物なし
本郷	306	2020	-	情報基盤センター Hub サイト移設に伴う 通信設備改修	立会	2021.2.12	4	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	307	2020		第2期誘導ブロック敷設に伴う雨水枡移設	立会	2021.2.18	2	小川	遺構・遺物なし。※福武ホール前
本郷	308	2020	_	外灯 C-5_C-61 電源改修	事前	2021.3.12	9	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収
本郷	309	2021	_	農学部1号館(2期)配管	立会	2021.6.29	13	小川	遺構・遺物なし
本郷	310	2021	-	文学部アネックス南側囲障改修		2021.6.30	9	大成	遺構なし。硬化面 1 枚。肥前磁器片 1 点、 瀬戸・美濃系プリント碗片 1 点、焼瓦
本郷	311	2021	_	医学部附属病院共同溝給水主管改修	立会	2021.9.24 ~ 29	19	追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収
本郷	312	2021	_	農学部1号館エレベータービット新設	立会	2021.716、7.26	12	堀内	遺構・遺物なし
本郷	313	2021	_	文学部アネックス南側囲障改修2		2021.9.7	12	大成	遺構・遺物なし
本郷	314	2021	-	農学部東側外構ツバキ移植		2021.9.15	4	香取	遺構・遺物なし
本郷	315	2021	_	医学部附属病院管理研究棟耐震改修	立会	2021.11.8	172	追川	遺構・遺物なし
本郷	316	2021	-	医学部附属病院臨床研究棟西改修 電気設備工事		2021.11.11 ~ 12	8	追川	遺構・遺物なし
本郷	317	2021		赤門脇トイレ樹木調査		2021.10.15	4	香取	遺構・遺物なし
本郷	318	2021		工学部5号館(Ⅱ期)改修電気設備	古ム	2021.11.26	1	香取	遺構・遺物なし

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
本郷	319	2021	_	伊藤国際学術研究センター門(仮称) サイン板設置	立会	2021.12.27	2	成瀬	遺構・遺物なし
本郷	320	2021	_	農学部3号館へリウム回収配管改修	立会	2022.1.27	22	小川	遺構・遺物なし
本郷	321	2021	_	医学部本館2号館付近標識修繕	立会	2022.1.28	0.1	山下	遺構・遺物なし
本郷	322	2021	HN121	農学部1号館スロープ等新設	事前	2022.2.8 ~ 15	51	山下	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15所収
本郷	323	2021	_	薬学部本館漏水	立会	2022.1.22	0.8	堀内	遺構・遺物なし
本郷	324	2021	_	医学部附属病院臨床研究棟西改修 鉄骨階段	立会	2022.3.8	11	追川	遺構・遺物なし
本郷	325	2021	_	医学部附属病院臨床研究棟西改修 機械設備	立会	2022.3.16	3	追川	遺構・遺物なし
本郷	326	2021	_	農学第2号館西側バイク駐車場浸透桝 設置	立会	2022.3.15	0.9	小川	遺構・遺物なし
本郷	327	2021	_	本郷通り囲障改修 (その2)	立会	2022.2.28、3.4	52	堀内	遺構・遺物なし
本郷	328	2022	_	工学部5号館(Ⅱ期)改修その他	立会	2022.3.30、4.15	276	堀内	遺構・遺物なし
本郷	329	2022	-	附属病院内科動物舎取壊しに伴うガス 配管撤去	立会	2022.5.13	0.1	追川	遺構・遺物なし
本郷	330	2022	_	環境安全研究センターバグフィルター跡地 土間撤去	立会	2022.0722	30	香取	遺構・遺物なし
本郷	331	2022	_	薬学系総合研究棟前グレーチング整備	立会	2022.073	12	小川	遺構・遺物なし
本郷	332	2022	_	山上会館本館1階汚水配管更新	立会	2022.8.24,26	19.5	追川	遺構なし・瓦片1点
本郷	333	2022	_	赤門耐震基礎診断	立会	2022.11.28 ~ 11.30	1.7	堀内	赤門基礎構造を確認
本郷	334	2022	_	弥生宿舎撤去作業他	立会	2023.1.11 ~ 12	2.5	小川	遺構・遺物なし
本郷	335	2022	_	本郷通り囲障掘削	立会	2023.1.24、30	2.9	小川	遺構・遺物なし
本郷	336	2023	_	ダイバーシティ & インクルージョン -B 棟	試掘	2023.5.18 ~ 26	24	小川	遺構 18 基、縄文·近世遺物出土
本郷	337	2023	_	文学部アネックス解体	立会	2023.6.26、7.12	301	小川	遺構・遺物なし、砂礫層を確認
本郷	338	2023	_	赤門脇トイレ新営工事および守衛所新営 その他	事前	2023.8.7 ~ 11.21	691	大成・小川	遺構 52 基(未調査 +7 基)、遺物 16 箱(サンプル含)
本郷	339	2023	_	非危険物倉庫解体	立会	2023.10.27	44	追川	遺構・遺物なし
本郷	340	2023		工学部10号館改修	立会	2023.12.26	6	大成	遺構・遺物なし
本郷	341	2023	_	定量生命科学研究所改修電気設備	立会	2024.1.24	3	堀内·湯沢	遺構・遺物なし
本郷	342	2023	_	本郷通り囲障耐震改修	立会	2024.2.13、2.28	14	堀内·湯沢	近世遺構·遺物
本郷	343	2023	_	環境安全研究センタースロープ増設	立会	2024.2.15	34	香取	遺構・遺物なし

駒場 I 地区調査一覧

					調査	-m-t-48.00	面積	100.11.00	掲載書名
地区	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	種別	調査期間	(m²)	担当者	遺構・遺物の年代
駒I	1	1991	_	教養学部保健センター		1992.3.19	28	武藤	遺構・遺物なし
駒I	2	1993	FGE	教養学部情報教育棟	事前	1993.8.10 ~ 10.20	940	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	3	1993	_	数理科学研究科棟	試掘	1993.5.8 ~ 15	350	堀内	縄文
駒I	4	1994	_	数理科学研究科棟擁壁	立会	1995.1.20 ~ 27	_	武藤	近代
駒I	5	1994	-	数理科学研究科棟関連東電マンホール 増設・管路新設	立会	1995.1.24 ~ 4.12	-	武藤	縄文・平安
駒I	6	1995	_	教養学部伝統文化活動施設	試掘	1995.9.11	8	武藤	遺構・遺物なし
駒I	7	1995	_	教養学部学生用浴室・シャワー施設	試掘	1995.9.11	8	武藤	遺構・遺物なし
駒I	8	1995	-	数理科学研究科棟ガス・水道管埋設	立会	1995.5.17 ~ 18, 6.27 ~ 28	-	武藤	遺構・遺物なし
駒I	9	1996	数理	数理科学研究科Ⅱ期棟	事前	1996.12.12 ~ 1997.2.6	1160	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』2所収
駒I	10	1997	-	教養学部キャンパス・プラザ	試掘	1997.4.24	41	武藤	遺構・遺物なし
駒I	11	1999	_	教養学部総合研究棟	試掘	1999.7.26 ~ 8.3	130	原	遺構・遺物なし
駒I	12	2000	KL	駒場図書館	事前	2000.7.27 ~ 8.30	1778	大成・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
駒I	13	2001	-	教養学部総合研究棟	試掘	2001.10.24 ~ 25	60	堀内	遺物・遺構なし
駒I	14	2001	_	教養学部総合研究棟	試掘	2002.3.25 ~ 26	53	大成	遺物・遺構なし
駒I	15	2005	KCP	コミュニケーションプラザ	事前	2005.4.22 ~ 7.21	4327	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12 所収
駒I	16	2003	KGK	国際学術交流棟	事前	2003.5.16 ~ 7.9	620	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
駒I	17	2005	-	教養学部5号館他改修	立会	2005.8.10、17、19	300	大成	遺構・遺物なし
駒I	18	2006	-	教養学部8号館エレベーター敷設	立会	2006.10.20	_	堀内	遺構・遺物なし
駒I	19	2006	-	教養学部ロッカー棟	試掘	2006.11.13 ~ 16	21	堀内	遺構・遺物なし
駒I	20	2007	-	初年次活動センター新築	立会	2007.12.20	85	追川	遺構・遺物なし
駒I	21	2009	_	基幹整備 (排水)	立会	2010.1.14、21、28	34	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	22	2009	_	理想の教育棟	試掘	2010.2.1 ~ 5	220	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
駒I	23	2011	_	巻藁練習場	立会	2012.1.23	12	成瀬	遺構・遺物なし
駒I	28	2014	-	教養学部並木通り根上り対策	立会	2014.9.4、8、10	64	大成	遺構・遺物なし
駒I	29	2014	_	電話交換機設備更新	立会	2014.11.29	7	堀内	遺構・遺物なし
駒I	30	2014	-	教養学部並木通り舗装改修	立会	2015.2.3、12、23、3.10	77	大成	遺構・遺物なし
駒I	31	2015	-	6 号館改修に伴う埋設管敷設	立会	2015.7.23	4	小川・平石	遺構・遺物なし
駒I	32	2015	_	正門前排水改修	立会	2015.8.21、25	50	香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
駒I	33	2015	-	並木通り舗装改修 (II期)	立会	2016.2.4、15、17、22、3.10, 14	824	原	遺構・遺物なし
駒I	34	2016	-	野球場排水改修	立会	2017.2.8、14	121	原	遺構・遺物なし
駒I	35	2016	-	教養学部 5 号館引込幹線	立会	2017.3.6 ~ 8	28	原	遺構・遺物なし
駒I	36	2017	_	並木通り舗装改修 (Ⅲ期)	立会	2018.1.30	481	原	遺構・遺物なし
駒I	37	2017	KKT18	駒場仮設体育館	事前	2018.2.5 ~ 16	376	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	38	2017	_	駒場体育館	試掘	2018.3.5 ~ 3.26	155	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12 所収
駒I	39	2018	_	大隈良典博士ノーベル賞受賞記念碑	立会	2018.4.16	0.4	成瀬	遺構・遺物なし

地区	番号	年度	略称(旧略称)	調査名「旧名称〕	調査	調査期間	面積	担当者	掲載書名
地区	留写	牛皮	阳谷小 (1口阳谷小)	調直石 [旧石称]	種別	洞直州目	(m²)	担ヨ有	遺構・遺物の年代
駒I	40	2018	_	駒場体育館新営に伴う電気配管掘削	立会	$2018.5.3 \sim 5, 15, 21, 6,6,$ 7, 22, 25 ~ 27, 7,26	183	原	遺構・遺物なし
駒I	41	2018	KKT18	駒場仮設体育館外構	立会	2018.6.6、6.8	38	堀内	遺構・遺物なし
駒I	42	2018	KTS18	駒場体育館新営に伴う機械設備切廻	事前	2018.6.28、7.2、3、18	25	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	43	2018	KTK18	駒場体育館	事前	2018.7.2 ~ 8.27	430	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	44	2018	-	7号館西側排水管破損修理	立会	2018.10.18	22	小川	緊急対応遺構・遺物なし
駒I	45	2018	-	テニスコート夜間照明設置	立会	2018.11.30	36	大成	遺構・遺物なし
駒I	46	2018	-	野外トイレ解体	立会	2018.12.20、21、25、 2019.2 .4、4.24	90	原	遺構・遺物なし
駒I	47	2018	-	駒場体育館	立会	2019.2.27、3.8、4.5	416	原	遺構・遺物なし
駒I	48	2018	-	第一グランド改修	立会	2019.2.6	1	香取	遺構・遺物なし
駒I	49	2019	-	東京電力ケーブル等撤去	立会	2019.12.6、12、13、18	47	堀内	遺構・遺物なし
駒I	50	2019	-	駒場体育館雨水浸透	立会	2020.2.27	20	堀内	遺構・遺物なし
駒I	51	2019	-	駒場体育館周辺	立会	2020.3.2、4、13	84	堀内	遺構・遺物なし
駒I	52	2019	-	駒場Iブロック塀対策	立会	2020.1.31、2.6、17、27	86	堀内	『東京大学構内遺跡調査研究年報』12所収
駒I	53	2020	-	美術博物館学際交流展示室空調設備 改修	立会	2020.6.2、7.13、9.3、9.14	17	小川	遺構・遺物なし
駒I	54	2020	-	トレーニング体育館下の土壌汚染調査	立会	2020.9.3、4	0.3	香取	遺構・遺物なし
駒I	55	2021	-	5号館他教室コンセント増設その他	立会	2022.2.2	49	小川	遺構・遺物なし、煉瓦基礎あり
駒I	56	2022	-	裏門防犯カメラ用ポール設置	立会	2022.7.25	0.8	香取	煉瓦基礎、遺構?プランあり
駒I	57	2022	-	講義棟給水管等切廻	立会	2022.8.31、10.13	184	追川	遺構・遺物なし
駒I	58	2022	-	駒場講義棟	試掘	2022.10.17 ~ 21	65	追川	近代·近世
駒I	59	2022		駒場講義棟	事前	2023.2.1 ~ 8.5	1246	追川	旧石器、中世
駒I	60	2022	-	北側テニスコート照明増設	立会	2023.2.16	1.3	追川	遺構・遺物なし
駒I	61	2022	-	北側テニスコート南側での苗圃整備	立会	2023.2.16	25	追川	遺構・遺物なし
駒I	62	2023	-	駒場図書館(Ⅲ期)整備事業等	試掘	2023.7.3 ~ 7.14	36	追川·香取	縄文時代遺物包含層
駒I	63	2023	_	講義棟新営(設備配管)	立会	2023.12.4 ~ 15,2024.2.27 · 28	20	追川·香取	中世
駒I	64	2023	-	防犯カメラ設置に伴う配線他	立会	2023.11.13、14、12.14	40	香取	遺構・遺物なし

駒場Ⅱ地区調査一覧

地区	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査 種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	遺構・遺物の年代
駒Ⅱ	1	1996	-	生産技術研究所校舎	試掘	1996.5.14	25	武藤	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	2	1996	_	先端科学技術研究センター校舎 4 号館	試掘	$1996.5.15 \sim 17$	92	武藤	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	3	1996	-	生産技術研究所校舎	試掘	1996.10.24 ~ 25	20	武藤	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	4	1998	-	設備センター	試掘	1998.4.27	13	武藤	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	5	1998	-	国際・産学共同研究センター	試掘	1998.8.5	90	原	縄文
駒Ⅱ	6	1998	_	生産技術研究所事務図書棟暫定施設	試掘	$1998.12.13 \sim 15$	50	大成	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	7	2002	-	駒場オープンラボラトリー	試掘	2002.12.5	55	成瀬	縄文土器(阿玉台)
駒Ⅱ	8	2003	_	総合研究実験棟	試掘	2003.8.6	34	追川	遺構・遺物なし
駒Ⅱ	9	2008	-	保育施設	立会	2008.7.9 ~ 14	-	大成	遺構・遺物なし

白山構内調査一覧

構内	番号	年度	略称 (旧略称)	調査名「旧名称	調査	調査期間	面積	担当者	掲載書名
伸內	省 万	平 及	帕尔 (旧帕尔)	調宜石 [旧石你]	種別	神里州目	(m²)	担ヨ有	遺構・遺物の年代
白山	1	1991	-	理学部附属植物園研究温室I期 (原町遺跡)	試掘	1991.7.24 ~ 25	5	武藤	縄文
白山	2	1992	KO	理学部附属植物園研究温室II期 (原町遺跡)		1992.5.25 ~ 6.6	200	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』5所収
白山	3	2000	KI	総合研究博物館小石川分館増築	事前	$2000.11.27 \sim 12.4$	70	成瀬・追川	『東京大学構内遺跡調査研究年報』6所収
白山	4	2002	KNK	農学生命科学研究科附属小石川 樹木園 · 根圈観察室	事前	2002.9.24 ~ 10.7	91	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
白山	5	2007	BGY07	理学系研究科附属植物園·医学部創設 150周年記念(小石川養生所復元) 建物	試掘	2007.9.3 ~ 4	43	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収
白山	6	2010	KBG10	理学系研究科附属植物園本園・下水・ 電源ケーブル埋設枡・埋設溝	事前	2010.9.6 ~ 15	102	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収
白山	7	2010	-	理学系研究科附属植物園本園 · 旧小石川養生所井戸柵改修	立会	2011.1.17	-	成瀬	『東京大学構内遺跡調査研究年報』8所収
白山	8	2011	-	農学生命科学研究科小石川樹木園 · 万年塀改修	立会	2011.4.1	30	成瀬	遺構・遺物なし
白山	9	2016	B-KSH-H28	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第1地点	事前	2016.9.24 ~ 2018.1.31	2,715	成瀬·香取· 小川·平石	文京区支援事業 縄文・近世・近代・現代
白山	10	2017	B-KSH-3T	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第3地点	試掘	2018.1.22 ~ 2.2	111	成瀬・香取・小川	文京区支援事業 近世·近代·現代
白山	11	2019	B-KSH-3	国指定名勝及び史跡 小石川植物園 (御薬園跡及び養生所跡) 第3地点	事前	2019.5.21 ~ 11.29	526	成瀬・小川	文京区支援事業。 縄文・近世・近代・現代

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
白山	12	2022		チェコ共和国 EU 議長国事業 ウクライナ連帯支援桜植樹		2022.11.22	0.28 成瀬		縄文
白山	13	2022	-	チェロ共和国 EU 議長国事業 ウクライナ連帯支援桜 説明プレート、 ローブ柵設置	立会	2023.2.27	0.37	成瀬	文京区支援事業、縄文

白金台構内調査一覧

構内	番号	年度	略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査種別	調査期間	面積 (㎡)	担当者	掲載書名 遺構・遺物の年代
白金台	1	1992	-	医科学研究所看護師宿舎		1992.7.1	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	2	1994	-	医科学研究所 MRI - CT 棟装置棟	試掘	1995.3.9	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	3	1995	-	医科学研究所ヒトゲノム解析センター棟	試掘	1995.7.11	8	武藤	遺構・遺物なし
白金台	4	2000	-	医科学研究所附属病院診療棟·総合 研究棟新営	試掘	2000.7.5 ~ 7	53	追川	江戸
白金台	5	2000	SBS00	医科学研究所附属病院診療棟·総合 研究棟	事前	2000.10.27 ~ 2001.3.9	4280	堀内·大成	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 17 医科学研究所附属病院 A 棟地点』所収
白金台	6	2021	SY21	白金台囲障改修	事前	2020.2.3、6.3、2021.2.1 ~ 2.10、2.24 ~ 6.21	589	堀内·香取	『東京大学構内遺跡調査研究年報』15 所収
白金台	7	2022	_	NTT 電柱	立会	2022.9.16	0.3	香取	遺構・遺物なし
白金台	8	2022	_	医科学研究所3号館(Ⅱ期)改修	立会	2022.11.29、11.30、12.20	31	香取	遺構・遺物なし
白金台	9	2022	_	合同ラボ棟改修	立会	2023.2.2	79.6	堀内	遺構・遺物なし

その他の構内調査一覧

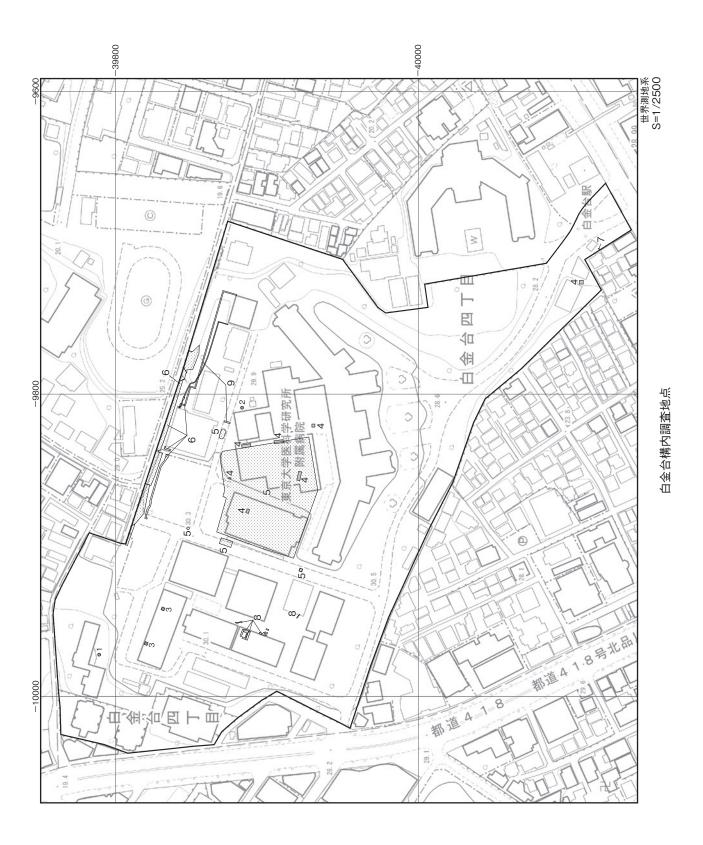
₹ U.	が他の構内調査一覧											
構内	行政区 年度		略称(旧略称)	調査名[旧名称]	調査	調査期間	面積	担当者	掲載書名			
1#9 1 3	1100区	十尺	MD137 (1HMD137)	刷显石 [[口石1]]	種別	IPI 上	(m²)	1531	遺構・遺物の年代			
他	文京区	1991	-	追分学寮	試掘	1991.8.23 ~ 24	16	成瀬	近世			
他	豊島区	1991	-	豊島学寮	試掘	1991.8.26 ~ 30	29	武藤	遺構・遺物なし			
他	三鷹市	1991	-	井の頭学寮	試掘	$1991.9.30 \sim 10.15$	20	成瀬	遺構・遺物なし			
他	港区	1991	_	白金学寮	試掘	1991.11.25 ~ 26	10	武藤	近世			
他	三鷹市	1992	三广1	三鷹国際交流会館(長嶋遺跡)I期	事前	1992.6.29 ~ 9.19	2100	堀内·成瀬	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書8 長嶋遺跡』			
他	三浦市	1992	MMBS	理学部附属臨海実験所新研究棟 (新井城)	事前	1992.7.20 ~ 9.25	1700	武藤・寺島	『東京大学構内遺跡調査研究年報』1所収			
他	三浦市	1993	_	理学部附属臨海実験所新研究棟関連 電機·水道管路新設	立会	1993.4.20 ~ 23	-	武藤	中世			
他	三浦市	1993	-	理学部附属臨海実験所新研究棟関連 海水循環水路新築	立会	1993.5.7 ~ 8	-	武藤	中世			
他	三鷹市	1993	三广 2	三鷹国際交流会館(長嶋遺跡)Ⅲ期	事前	1993.5.28 ~ 11.8	3280	堀内	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 8 長嶋遺跡』			
他	三鷹市	1994	三广 3	三鷹国際交流会館(長嶋遺跡)Ⅲ期	事前	1994.5.13 ~ 8.17	1950	堀内·鮫島	『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書8 長嶋遺跡』			
他	千葉市	1994	GMB	検見川運動場体育セミナーハウス (玄藩所遺跡)	事前	1994.7.19 ~ 8.21	496	武藤	『東京大学構内遺跡調査研究年報』9所収			
他	柏市	1996	_	柏キャンパス校舎	試掘	1996.10.28 ~ 29	125	武藤	遺構・遺物なし			
他	文京区	2007	-	追分国際学生宿舎	事前	2007.12.3 ~ 2008.3.25	776	原	『東京大学構内遺跡調査研究年報』7所収			
他	文京区	2016	メジロ 15	目白台国際宿舎	事前	2016.6.17、21、 2016.7.20 ~ 2017.4.4	9373	大成·小川 平石	『東京大学構内遺跡調査研究年報』11 所収			
他	文京区	2018	-	目白台国際宿舎·外構樹木	立会	2018.9.26	15	大成	遺構・遺物なし			
他	文京区	2019	-	目白台国際宿舎・外構整備その2	立会	2019.4.3、4、25、5.16	_	大成	遺構・遺物なし			
他	中野区	2023	-	教育学部附属中学校防球ネット増設	立会	2024.2.27	16	堀内・湯沢	遺構・遺物なし			

本郷構内調査地点(1)事前調査

本郷構内調査地点(2)試掘·立会調査







第 I 章 埋蔵文化財調査の概要(事前・試掘・立会)

2023 年度は、本郷構内、駒場 I 地区、中野構内において、下記の調査を室員 6 名で対応した。

本郷構内では事前調査2件、試掘調査1件、立会調査6件を実施した。駒場I地区では試掘調査1件と立会調査2件、中野構内では立会調査1件を実施した。なお2024年度にかけて継続中である、目白台の(仮称)文京区目白台3丁目計画の事前調査と、本郷構内のダイバーシティ&インクルージョン棟B棟(DIB23)の事前調査は、実施年度を2024年度として扱う。

本郷構内

〈事前調査〉2件

2023 年 8 月 7 日~ 11 月 21 日 本郷 338 赤門脇トイレ 新営工事および守衛所新営その他 (HAG23) (担当:大成・ 小川)

2024年1月9日~ 本郷 345 ダイバーシティ&インクルージョン棟 B 棟 (DIB23) (担当:追川・湯沢・小川) 〈試掘調査〉1件

2023 年 5 月 18 ~ 26 日 本郷 336 ダイバーシティ&インクルージョン棟 B 棟(担当:小川)

〈立会調査〉6件

2023年6月26日、7月12日 本郷 337 文学部アネックス解体(担当:小川)

2023 年 10 月 27 日 本郷 339 非危険物倉庫解体(担当: 追川)

2023 年 12 月 26 日 本郷 340 工学部 10 号館改修 (担当: 大成)

2024年1月24日 本郷341定量生命科学研究所改修電気設備(担当:堀内·湯沢)

2024 年 2 月 13、28 日 本郷 342 本郷通り囲障耐震改修 (担当: 堀内・湯沢)

2024年2月15日 本郷343環境安全研究センタースロープ増設(担当:香取)

駒場 I 地区

<試掘調査>1件

2023 年 7 月 3 \sim 14 日 駒 I 62 駒場図書館(II 期)整備事業等(担当:追川・香取)

<立会調査>2件

2023 年 12 月 4 \sim 15 日、2024 年 2 月 27、28 日 駒 I 63 講義棟新営(設備配管)(担当:追川・香取)

2023年11月13、14日、12月14日 駒I64 防犯カ

メラ設置に伴う配線他(担当:香取)

中野構内

<立会調査>1件

2024年2月27日 他28教育学部附属中学校防球ネット増設(担当:堀内・湯沢)

第1節 本郷構内の事前調査

本郷 338 赤門脇トイレ新営工事および守衛所新営その他地点

所 在 地 東京都文京区本郷 7-3-1 (文京区 No.47 本郷台遺跡群内)

調査期間 2023年8月4日~11月21日

調査面積 69.1 ㎡

調查担当 大成可乃、小川祐司

1. 調査の経緯と経過

東京大学では、文京区本郷7丁目に所在する本郷キャ ンパス内の赤門周辺にてトイレ、守衛所等の新営工事を 計画している(1、2図)。本地点は文京区遺跡番号47「本 郷台遺跡群」として周知の遺跡の範囲内にある。調査 地点は西側の赤門脇トイレ地点(3回、以下A区)と、 東側の守衛所新営地点(3図、以下B区)に分かれる。 いずれも小面積ではあるが、A区は情報学環・福武ホー ル地点(1図 78地点)や伊藤国際学術研究センター地 点(1図 93地点)において検出された加賀藩邸前の境 溝の延長線上に位置している。またB区は周辺の調査 から近世期の赤門所在地と推定される。

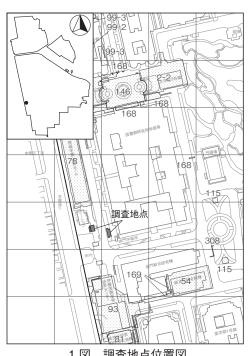
なお本地点の建築計画にあたり、赤門前イチョウ根系 調査に伴う立会調査(301地点:2020)、赤門脇トイレ樹 木調査に伴う立会調査を実施し(317地点:2021年)、前 者からは近世期と推定される硬化面が確認されている。 これらのことから、本地点は建築工事に先立って発掘調 査を上記期間に行うこととなった。

調査は2023年8月4日~同年11月21日の実働62日

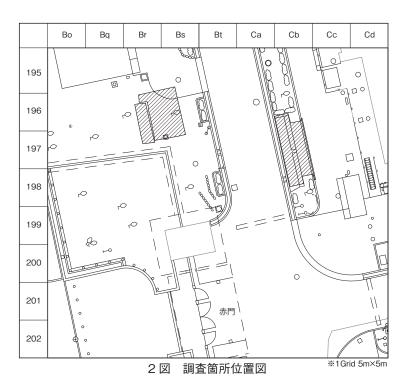
間で、調査は埋蔵文化財調査室大成可乃、小川祐司が担 当した。

2. 調査の経過

A区は2023年8月4日から9月1日まで調査を行っ た。北側にあるコミュニケーションセンターに付帯する ウッドデッキ下のコンクリートや、そのスロープ縁石の 撤去工事を行った。なお NTT 管は調査期間中に撤去の 目途が立たず、最終的にはそのまま埋め戻されている。 なお8月22日には近世遺構群と後述する石組溝 (SD2) が良好な状態で検出された。この石組溝については8月 24日に大学施設部と協議を行った結果、記録保存より も現地保存が望ましいこととなった。9月1日には現地 保存を前提とした記録作業が終了し、9月5~7日に A 区での発掘作業を一般公開した。9月15日には遺構の 現地保存公開を視野に入れ、建築計画をすることで合意 した。あらためて10月13日に遺跡見学会を開催すこと となった。11月13~21日にかけて簡易的な保護を施 して仮の埋め戻しを行い(4図)、調査終了とした。



1 図 調査地点位置図



B区は2023年9月11日より人力で表土掘削を開始し、11月7日まで調査を行った。埋め戻しは11月8~9日である。確認面が7面と多く、狭い面積に深い遺構が密集して検出された。A区とは異なり、保存対象となりうる遺構が検出されなかったため、掘削深度までの遺構は全て記録保存を行った。

3. 調査の概要

本地点の略称は「HAG23」である。グリッドは北側にある情報学環・福武ホール地点(78 地点:2006 年)との関連を踏まえ、法学系総合研究棟(65 地点:2003 年)で設定されたグリッド(日本測地系第IX系)を用いた(3図)。

本地点は、赤門袖塀と加賀藩邸の境となる石組溝の検出が想定されていた(11 図)。このため両遺構が廃絶したとみられる明治期までを調査対象としている。検出された遺構はA、B区合わせて近世27基、近代25基である。近世の内訳は、石組溝1基、溝状遺構2基、焼土溜1基、土坑12基、小穴10基、植栽1基である。近代は建物基礎7基、石組溝1基、溝状遺構1基、土坑5基、小穴7基、不明4基である。このほかA区では平面プランの近世遺構(未調査)7基を確認している。出土遺物は収納コンテナにして16箱(土壌サンプル等含む)が出土した。B区SK31やSK33などは比較的出土遺物が多く、18世紀後半頃の日常生活で用いられる食器類を中心とする。

3-1.A 区の調査 (5 ~ 7、12 ~ 19 図)

もともと植樹帯として利用されていた A 区は、西側の浅い A1 区 (8.35㎡)と東側の A2 区 (30.99㎡)を合わせて、総面積 39.34㎡である。 A1 区は T.P.23.5m まで、A2区は T.P.22.3m までが建築により失われる計画になっており、ここまでに検出された遺構を調査対象とした。 A1 区は近代とみられる盛土層が確認されたのみで、対象となる遺構は確認されていない。 A2 区の確認面は 2 面である。第1面は T.P.22.7m 前後に広がる硬化面で、石組遺構 (SD1)を調査した。第2面は T.P.22.5m で自然堆積層 (ソフトローム層)である。石組溝 (SD2)など遺構 8 基を調査し、近世の遺構 (未調査)平面プラン7基を確認した。

なお A 区は上位の大半を撹乱されていたため、B 区に比べて近代期の遺構は少ない。また石組溝(SD2)が最も新しい時期の遺構のため、基本的にこれと重複するものは未調査である。SU6 や SK7 など石組溝(SD2)より古く、また西側に位置している遺構群は、情報学環・福武ホール地点の成果から文政 10(1827)年に御住居建設に伴い火除地となった区画に相当し、これ以前は本

郷六丁目の町屋に伴うものと考えられる。

以下は特徴的な遺構を列記する。

SD1 (5、17 図)

第1面L43~44グリッドで確認した石組遺構で、丸石、 角礫などが不規則に列をなす。下位にあるSD2の範囲 内に収まるため上位裏込石の可能性も否定できないが、 以下の異なる点があるため別遺構としている。ひとつは 加賀藩邸側にしか遺存しておらず、溝側に間知石を伴わ ないこと。ふたつめは裏込石の密度がSD2よりも少な いことである。このことから後述するSD2が埋没した 後に、何らかの手を加えられていると考えられる。引き 続き検討を要するが、SD2の一部を再利用もしくは廃 棄した可能性があり、構築当初の原位置を維持していな い部分が多いと思われる。出土遺物はごく僅かである。 SD2(5、6、18図)

第2面L43~44グリッドで確認した南北に延びる石組溝である。長さ6.4mにわたって検出し、両端は調査区外へと続く。最大幅は2.6mである。両側には1段のみであるが間知石を配し、丸石、角礫などを裏込に用いている。溝の幅は1.2m程度で、溝底上面に漆喰が貼られているのが特徴的である。

北東側は一部近現代に撹乱されているものの、加賀藩 邸側(東側)、本郷通り側(西側)が良好な状態で確認 されている。

本遺構は東西列で、石組の構成に微妙な差異がある。まず間知石は藩邸側が幅35cm、長さ40cm、高さ30cm程度と、通り側より5~10cm程度大きいものが使用されている。裏込に使われている石も同様に藩邸側のほうが大きい傾向にある。なお藩邸側は裏込石に干渉する部分は斫っているようで、上面形は三角でない石が多くみられる点は興味深い。

一方で共通点としては、間知石の正面は細かな調整が 共に認められる。また裏込めに陶磁器、瓦等がほとんど 混入しない点も挙げられる。

未調査のため下部構造や土層は不明であるが、確認された範囲において溝内は 10 cm 前後の玉石を多く含む土層の上に、漆喰を貼っている。大半は劣化により玉石部分が露出しているが、部分的に平滑な面が両端部に残る。厚さは $2 \sim 5 \text{cm}$ 程度である。

SU6 (5、7、15 図)

第2面L44グリッドで確認した。調査区南西隅のため、壁面と平面のみの確認である。規模は長軸1.1m以上、短軸0.7m以上、深さは1m以上に及ぶとみられる。土層に破砕した貝を含むのが特徴である。このため第1面直下で検出したものの、平面形は不整であったため遺

構として認識できなかった。

第2面まで下げたところで四角形に類するプランとなり、地下室などの開口部と推測した。SD2との重複は撹乱などのため不明瞭であるが、これより古いと考えたい。SK7(5、19図)

第2面 L43 グリッドで確認した。幅0.9m 程度の長方形土坑で、L44 グリッドまで延びて長軸は3.7m 程度と思われる。第2面で確認したSD2 と重複しており、新旧確認のため半截したが不明瞭であった。

藩邸境となる石組溝に隣接して土坑を掘削するとは考えがたいため、本遺構が古いと考えておきたい。

確認面から 0.6m まで調査したが、重複する SD2 の裏込石が不安定となったため、以下の掘削は断念した。深さは 1.0m を超えると思われる。覆土はローム土を多く含む暗褐色土で、しまりは東側は総じて強く、西側は弱い。東側下層には鉄釘が出土していることから、木枠などがあった可能性も考慮しておきたい。壁面は垂直に近いが、東側は一部スロープ状を呈する。別遺構などの可能性もあるが、不明瞭である。

3-2.B 区の調査 (8 ~ 10、20 ~ 48 図)

守衛所新営地点(以下 B 区)は、もともと植樹帯のなかに掲示板が立っていた場所である。南北の浅い B1 区 (15.73㎡)と、中央の B2 区 (14.03㎡)に分かれ、総面積 29.76㎡である。B1 区は T.P.23.1m まで、B2 区は T.P.21.3m までが建築により失われる計画になっており、ここまでに検出された遺構を調査対象とした。なお赤門は明治 36 年に現在の場所に移設されているが、本地点が近世期における絵図上の推定地である。このため、近代期の遺構も数多く調査している。

B1 区は近現代で2面を確認した。B2 区の確認面は最終掘削深度まで含めて7面を確認したが、これは東側で確認した硬化面を基準として設定したためである。後述する溝状遺構(SD20)の版築層の一部であったため、実際には第2、3、4、5面の4面が遺構構築面と考えられる。また調査区の狭さに加えて、盛土層は中央から北側にかけて傾斜し、北側に厚く堆積する。さらには下位の近世遺構の沈降により東壁北側では断層も認められるなど、遺構構築面は検討の余地がある。

第1面は現代とみられる部分的な硬化面で、T.P.23.2m 程度で確認した。SB10 (煉瓦基礎) 掘方と石綿セメント 管 (エタニット管) を検出した。第2面は近代もしくは現 代の硬化面で、T.P.23.1m 程度で確認した。遺構はSB11、 SK12、SB17 の3基を確認した。第3面は近代もしくは現 代の硬化面で、T.P.23.0m 程度で確認した。遺構はSD13、 SX14、SB15 など5基を確認した。

第4面はT.P.22.6m程度で確認した硬化面である。 SD20 はこの面で溝状遺構として把握した。このほか近 現代とみられるSK23、SX28、SP21、SP22、SP25 など 5遺構を検出した。SX28の範囲は不明瞭であり、下位の SK32 が陥没した際に堆積した痕跡と考えられる。この土 層のずれは、東壁北側でも見ることができる(図9空隙付 近)。第5面は T.P.22.6m 程度で、自然堆積層(漸移層~ 立川ロームⅢ層)上面である。SD20掘方ほか、近代期の SB24、SK26、SP27、SX29、SP30 など 5 遺構を検出した。 上位面ではプランが不明瞭であったため、第6面は10cm ほど下げた T.P.22.5m 程度で確認した。すべて近世期で 20 基を検出した。内訳は溝1基、土坑10基、小穴8基、 植栽1基である。なおSK31~SK35の土坑は掘り込みが 深く、安全対策上すべてを掘削していない。建築深度にあ たる T.P.21.3m を便宜上第7面とした。おおむね立川ロー ムⅣ層上面である。遺構、遺物は検出されていない。 以下は特徴的な遺構を列記する。

SB10 (8、20、21 図)

第1面 P43~45 グリッドで確認した煉瓦、コンクリート基礎で、下部の栗石には角礫や煉瓦片を用いている。長さ7.2m 以上、幅は25cm 程度、コンクリート厚は10cm 程度である。上の煉瓦は小口積み1段のみで、破損したものも再利用されている。煉瓦の大半は機械成形であるが、数点手抜き成形も混じる。東側の調査区外に構造物は延びないため、幅はこの程度とみられる。南北は調査区外へと続き、現況の歩道と平行していることから、縁石基礎などを考えておきたい。

SD13 (9、30、31 図)

第3面 O44 ~ P45 グリッドで確認した溝状遺構である。 東側に電気ケーブルを埋設した U 字溝と西側の石組列から構成される。長さ 4.3m 以上、幅 0.84m、深さは 0.6m 程度である。U 字溝は陶製の角形で、石蓋が付く。石組列は切石を縦に据え、間に砂利石を積めているが乱雑かつ不規則で、石のない箇所も多い。底面には敷石をしているものの、まばらである。覆土には砂利石が多く、コンクリート塊も僅かに含まれる。U 字溝と石組列が別時期の可能性も否定できないが、明瞭には確認できなかった。石組列は縁石等の可能性を考えておきたい。

SX14 (9、34 図)

第3面で確認した瓦廃棄土坑である。大半が調査区外のため推定も含まれるが、長軸1.3m、短軸0.7m、深さ0.5m程度の隅丸方形であろう。瓦の出土量が多く、青海波文瓦、三葉葵紋瓦、熨斗瓦など、赤門に使用されているものが確認できる。三葉葵紋瓦については、モルタルもしくはコンクリートにて葵紋を埋めている瓦も出土している。明

治 36 (1903) 年の移設、または大正 15 (1926) 年の修繕、昭和 35 (1960) 年の赤門保存修理に伴う廃棄と考えたい。 SD20 (9、10、27、36 \sim 39 図)

第4、5面で確認した溝状遺構で、長さ4.2m以上、幅0.58m以上、深さは0.8m程度である。西側立ち上がりの一部のみを確認しており、全容は不明である。なお平面ではほとんど確認できなかったが、覆土上位に2基のピットを伴う(P1, P2)。間隔は1.8mである。

土層はしまりの強い版築層を中心とする。中位のローム 土層を境に上下で大きく異なり、上は厚い灰褐色土層となり、玉石を多く含む。下は暗褐色土層で、玉石はほとんど 含まない。なお中位のローム土層は第4面により一部を パックされている。この面では幅20cm、深さ18cm程度 の小さい溝状部分を検出している。この覆土も暗褐色土で 玉石を全く含まない。

これら中位のローム土層より上位は2面盛土層とも酷似していることから、どこまでを本遺構の範囲とするかは判断が難しい。玉石を多く含む厚い層は検出面から近代期と考えられ、廃絶後に再堆積した土層である可能性も否定できない。なおこの場合、P1、P2は本遺構より新しい時期となる。

確認範囲が限定的だが、遺構は強固な版築層から何らかの建築物の下部構造を想起される。下位にある集石を伴う SK32、SK35と関連するかは今後も検討を要するが、大規模な構造物である可能性も考えておきたい。

SP22、SP25 (9、23 図)

第4面で確認した近代期のピットで、南北1.9m間隔で並ぶ。両者は長軸0.4m、短軸0.35mの方形状を呈する深さ15cm程度の浅いピットで、形態や覆土が類似している。 SP25からは板ガラスが出土している。

なお北側の SP21 とも平面形は類似するが、距離は 1.5m 程度と近く、深さも異なる。なお東側にある SD20P1、P2 とは対応する可能性もあるが、間隔は 1.1m 程度である。 SK31 (9、40、41 図)

第6面で確認した近世の土坑もしくは地下室である。長軸 1.9m以上、短軸 1.5m以上、深さは 1m以上を測る。なお T.P.21.5m 程度まで調査を行ったが、下位と調査区壁際は安全面から未調査のため、規模は推定である。SX34、SP38、39より新しく、SD13、SX14より古い。なお覆土中から検出された SF37 からは火床が検出されず、埋没中の一時的な燃焼痕跡とみられる。

壁面調整や覆土の特徴から3基程度が重複しているとみられ、東壁面は工具痕が多数顕著に残る一方で、北西壁は垂直で調整も丁寧である。平面形は東、南に張り出すような形状なことから、地下室と2つの土坑が重複している可

能性がある。覆土には一部焼土が多く含まれる層も確認されている。

本地点では遺物の出土量が多く、18世紀後半頃の日常 的な飲食器類と、貝類を中心とした多数の食物残滓が出土 している。

SK33 (9、45、46 図)

第6面で確認した近世の土坑と思われる。大半が調査区外へと延びるため全容は明らかではないが、長軸1.6m以上、短軸0.7m以上、深さは0.9m以上を測る。なおT.P.21.5m程度まで確認したが、下位と調査区壁際は安全面から未調査である。SK32より新しく、SP21、SX29より古い。

遺物は一定量出土しており、18世紀中頃の日常的な飲食器類が中心である。

SK32、SK35 (9、42~44 図)

第6面で確認した近世の土坑状の遺構で、形態や覆土が類似している。SD20より古く、SK36より新しい。調査区外へ続く部分が多いが、長軸1m以上、深さは0.8m以上の隅丸長方形状を呈するとみられ、SK32はSK35よりも一回り大きい感がある。なおT.P.21.4m程度まで確認したが、下位は安全面から未調査である。壁面は垂直に立ち上がり、調整がみられる。

覆土は東西で顕著に異なることが特徴的で、西側は混入物の少ない灰褐色粘質土が厚く堆積する。

一方、東側は 20 ~ 30cm 前後の角礫、丸礫が集中する。 礫集中部は SD20 の直下に堆積しており、上位遺構との関 連性もうかがえる。

SK44 (9、47、48 図)

第6面で確認した近世の土坑状の遺構で、SD20、SX34、SK35より古い。平面形は南北に延びる隅丸長方形、もしくは溝状を呈すると思われる。長軸1.4m以上、短軸0.7m、深さ0.7mを測り、南側は調査区外へと続く。根撹乱の影響も著しいが、底面、壁面とも調整はなく、細かな起伏が多い。壁面は若干内湾しながら立ち上がり、上位はやや外傾するとみられる。覆土は灰色味が強い暗褐色土で、全体的にしまりが強い。下層は焼土やローム土がやや多い傾向がある。

4. 位置の比定と変遷(11 図)

最後に近世期における位置比定を試みるが、本地点は小面積のため単独では難しい。このため検出された SD2 と同様の石組溝が検出され、接続すると考えられる情報学環・福武ホール地点(78 地点)や伊藤国際学術研究センター地点(93 地点)の成果を援用したい。両地点において、これらの石組溝(78 地点:SD50、93 地点:SD60 ほか)は藩邸と本郷町屋の境と推定されており、西側へとL字状

に折れ曲がる部分 (78 地点:SD8) も確認されている。さらに赤門袖塀に対応する礎石列 (93 地点:SB3) も検出されており、これらを基に絵図における位置の比定が行われている (東京大学埋蔵文化財調査室 2008、同 2012、東京大学総合研究博物館 2017)。これに基づき本地点の近世期の位置を比定したものが 11 図である。この絵図は 1840 年代に作成された「江戸御上屋敷惣御絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)をトレースしたものである。前出の 2 地点の成果から、本地点は赤門の北隣に比定される。この位置は、藩邸と本郷通りを隔てる境溝である SD2 の検出からも首肯できよう。

B区はSD20が赤門袖塀の位置に比定され、その強固な版築層からは布掘状の建物基礎である可能性が強く示唆される。また重複関係からは18世紀後半以後の構築で、近代期に廃絶したことが覆土からうかがえる。これは文政10年に興入れした溶姫のために建築され、明治36年に現在の位置へと移設された赤門の経緯と整合する。一方で、SD20は調査区外へと続くため不明な部分も多く、下位のSK32、SK35との関連も掘削深度の制限から完掘できず、全容を明らかにできなかった。また伊藤国際学術研究センター地点で確認された袖塀に対応する礎石列(93地点:SB3)と構造が全く異なる点もあり、考古学的な検討は今後も要しよう。

B区においては、「腰掛」とある範囲には SK45、SK46、SK47 などが検出されている。これらはいずれも幅 30cm、深さ 20cm 程度の溝状を呈する遺構で、覆土などは類似している。礎石や柱痕などは確認されていないものの、直角に展開する点は絵図と一致していることは注目される。これらが「腰掛」の一部かは、今後の調査の蓄積を待って検討したい。

他方、19世紀以前の絵図おいて本地点付近はいずれも空白で、建物などは描かれていない。B区で検出された18世紀代の遺物や食物残滓を多く含む大型遺構は、御守殿の建築以前(19世紀前半)における御殿空間、しかも表に近い場所の土地利用を考えるうえで、今後の手がかりのひとつになり得よう。

5. 調査の成果と課題

70㎡に満たない小さな調査区であったが、数多くの成果を得られた。特筆すべきは、A区において確認された間知石を伴う石組溝(SD2)である。藩邸側と本郷町屋側の両側が遺存し、溝底上面には漆喰が貼られたままの良好な状態で確認されたことは大きい。

またB区は中央付近を境に、東西で遺構の様相が異なることは興味深い。近世期にあたる第6面では、東側に

大形栗石を含む SK32、SK35 が展開する。西側も同規模の土坑が展開するが、SK31、SK33 は遺物を多く含む点で異なる。これを時間軸で追うと、第5面では中央付近の SP27、SP30 を境に東側は版築された溝状遺構である SD20 が延びる。第4面も中央付近に SP22、SP25 がそれぞれ南北に並ぶ。第3面ではやや西寄りに SD13、第1、2面ではさらに西側へと寄った位置にエタニット管が検出されるなど、境界を示す遺構が次第に西側へと移っていることがうかがえる。こうした境界の変遷は、赤門前の火除地を大学用地へと組み込んでいき、西側へと拡張していった過程を示していると考えられよう。

一方、小さな調査区では全容の把握が困難なため課題も多い。赤門前イチョウ根系調査にともなう立会調査報告(301 地点)でも指摘されているように、B区は絵図上、赤門袖塀の位置に推定されているが、明確な根拠を得ることはできなかった。特にB区における近世期の位置比定や遺構の評価は、前述したように今後も継続的な検討が必要である。

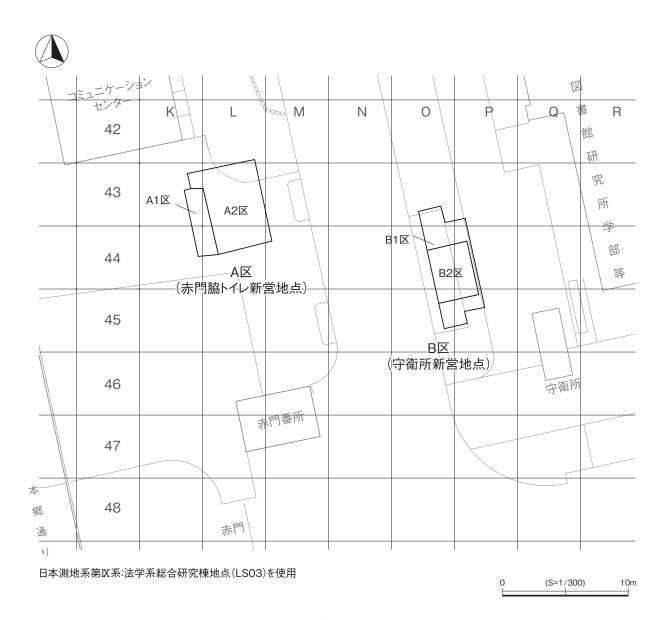
自然堆積層については、TP22.6~7m程度で漸移層と みられる土層を確認しており、赤門耐震基礎診断に伴う試 掘調査(333地点)とおおむね整合する成果を得られた。 また近代期の地表面については、A区第1面でT.P.22.7m 前後、B区第2面で T.P.23.1m 程度で硬化面を確認してお り、これは明治16(1883)年の「五千分一東京図測量原 図」における赤門付近の標高 23.1 ~ 2m とおおむね一致 することが確認された。他方、近世期の地表面については 課題を残した。A区をみれば、藩邸境となるSD2の間知 石が1段であるとは考え難いため、T.P.22.5m (第2面:自 然堆積層上面)よりも高いことが推測できよう。仮に間知 石が3段積みであれば、両側の間知石の高さが異なること から、藩邸側は T.P.23.2m 程度、本郷通り側は T.P.23.0m 程度が近世期の地表面となる。これは上記の近代期の標高 23.1~2mに近い値を示しており、藩邸の内外で比高差が あったことが想定できよう (小川)。

参考文献

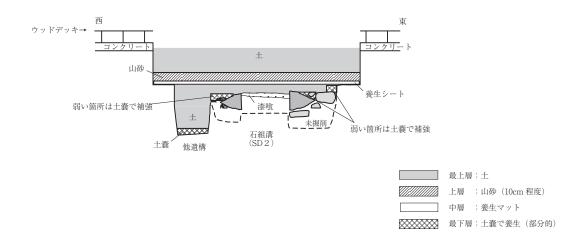
東京大学埋蔵文化財調査室 2008『東京大学構内遺跡調査研究年報6』

東京大学埋蔵文化財調査室 2012『東京大学構内遺跡調査研究年報8』

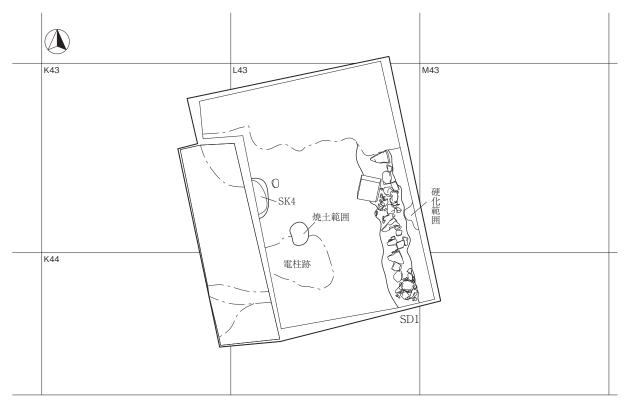
堀内秀樹、西秋良宏編 2017『赤門 - 溶姫御殿から東京大学へ』 京大学総合研究博物館



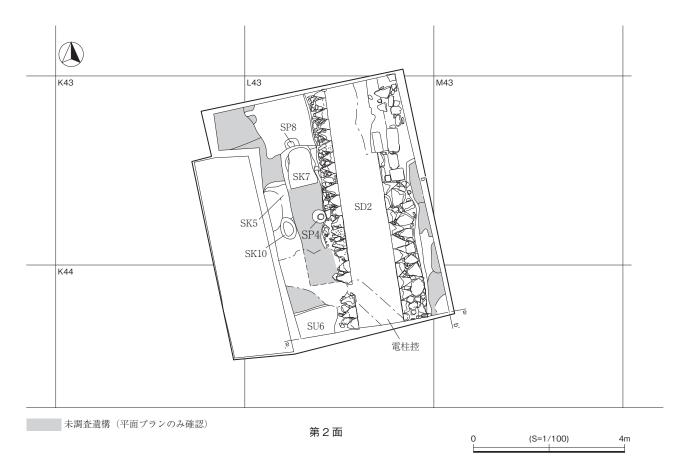
3図 グリッド配置図



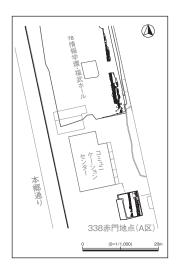
4図 A区埋め戻し模式図

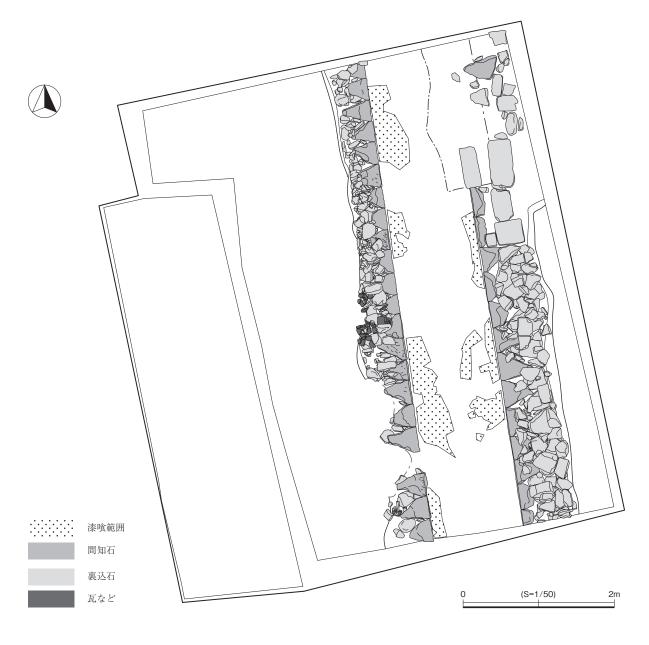


第1面

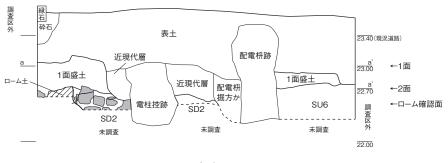


5 図 A 区全体図

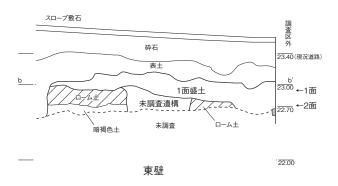




6図 SD2

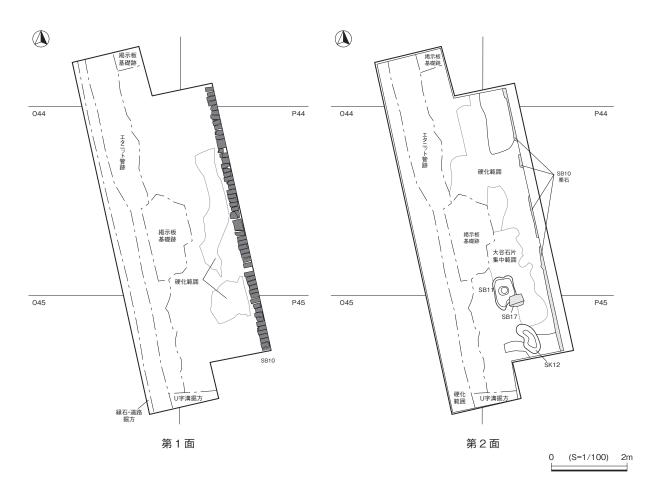


南壁

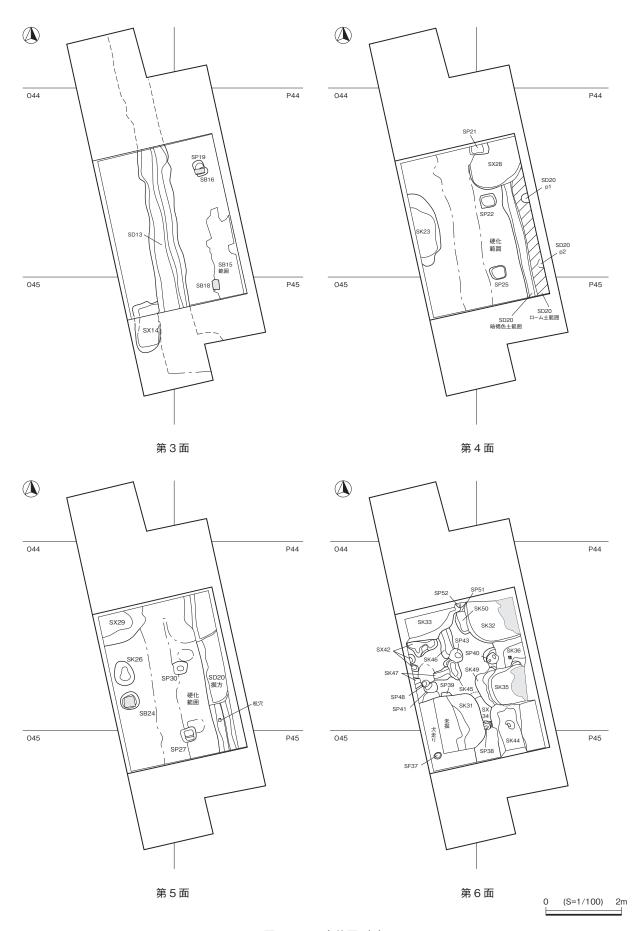


(S=1/50) 1_m

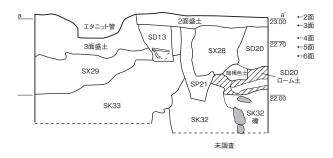
7 図 A 区基本層序



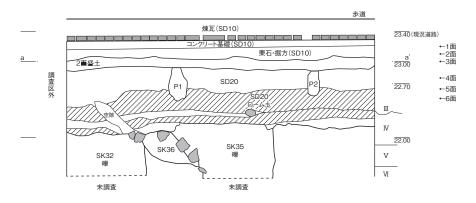
8 図 B 区 全体図(1)



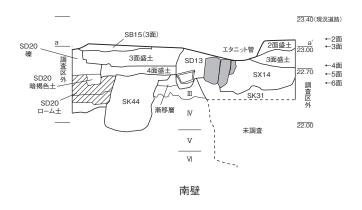
9 図 B区 全体図(2)

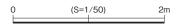


北壁

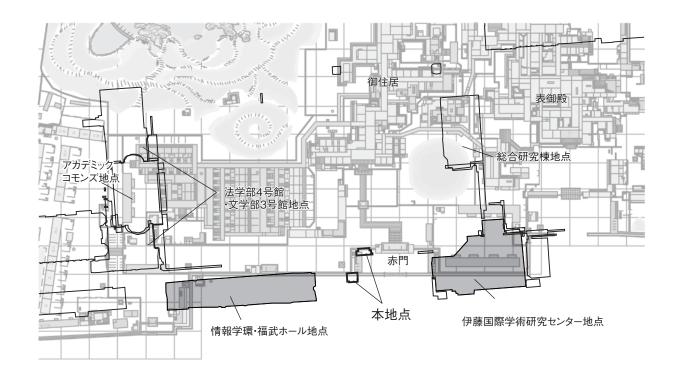


東壁

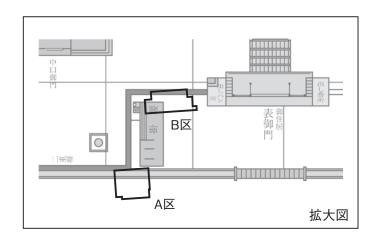




10 図 B 区基本層序



「江戸御上屋敷惣御絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)をトレース



11 図 赤門周辺の既調査地点と位置比定



12図 A2区第1面全景 北から



14図 A2区東壁(南側)土層堆積 西から



16図 A1区全景 北から



18図 SD2検出 南から



13図 A2区第2面全景 北から



15図 A2区南壁土層堆積 北から



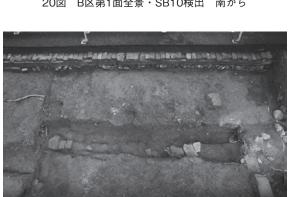
17図 SD1検出 南から



19図 SK7土層断面 北から



20図 B区第1面全景・SB10検出 南から



22図 B区第3面全景 西から



24図 B区第5面全景 西から



26図 B区第7面(建築深度)全景 西から



21図 B区第2面全景 西から



23図 B区第4面全景 西から



25図 B区第6面全景 西から



27図 B区東壁(SD20)土層堆積 西から



28図 B区南壁土層堆積 北から



30図 SD13石検出 北から



32図 SX14瓦検出 東から



34図 SX14出土 熨斗瓦



29図 B区北壁土層堆積 南から



31図 SD13南端上層 石検出 東から



33図 SX14出土 青海波文瓦



35図 SX14出土 三葉葵紋瓦



36図 SD20溝完掘(第4面) 南から



37図 SD20掘方完掘(第5面) 南から



38図 SD20土層断面 南から



39図 SD20土層断面 西から



40図 SK31完掘 東から



41図 SK31土層断面 北から



42図 SK32土層断面 東から



43図 SK35土層断面 東から



44図 SK32・SK35完掘 東から





46図 SK33土層断面 南から



47図 SK44完掘 南から



48図 SK44土層断面 北から

第2節 本郷構内の試掘調査

本郷 336 ダイバーシティ & インクルージョン棟 B 棟地点

所 在 地 東京都文京区本郷 7-3-1 (文京区 No.47 本郷台遺跡群内)

調査期間 2023年5月18~26日

調査面積 24.0 m² 調查担当 小川祐司

1. 調査の経緯と経過

東京大学は、本郷キャンパスの学生第二食堂横広場に 建物(ダイバーシティ&インクルージョン棟B棟)の 建築を計画している (1、2図)。本地点に東隣する工学 系総合研究棟立坑で本調査が行われており、小面積なが らも地下室・井戸のほか、焼土を含む土層などが確認 されている(本郷75:2005年)。またテニスコートから 広場へと整備する過程では立会調査がなされているが、 掘削深度は浅く、遺跡は確認されていない(本郷257・ 258:2018年)。

付近は不忍池を臨む台地の縁辺にあたり、自然地形の 傾斜や、これを均すための盛土がなされている可能性が 十分に考えられた。また本地点の来歴からは建物がほと んどなく、地下には遺跡が良好に遺存していることも想 定された。これらを確認するため、試掘調査を行った。

調査は2023年5月18~26日の実働6日間で、23日 は雨天のため中止とした。調査は埋蔵文化財調査室小川 祐司が担当し、加藤建設(株)がこれを支援した。

2. 調査の概要

3箇所にトレンチを設定し、北から順に1・2・3と付 した (3 図)。東西 4.0m、南北 2.0m の長方形で、解放面 積の合計は24.0mである。構内基準点3-8(T.P.=16.268m) を使用し、各トレンチの地表面の標高はおおむね 16.70m 程度である。

掘削にはいずれも重機を用いた。遺跡の遺存状態は良 好で、トレンチ2を除いて撹乱による隠滅は少ない。な お第3面の遺構については、平面確認に留めている。

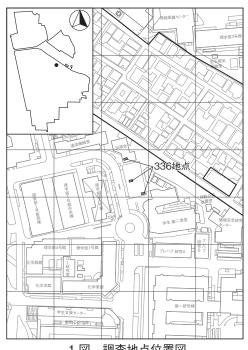
記録作業後、確認面上に土嚢を置き目印として埋め戻 し、インターロッキング等を復旧して調査終了とした。

3. 各トレンチの様相

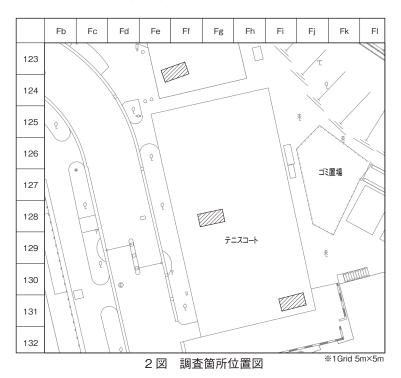
トレンチ 1 $(4, 5, 10 \sim 13 図)$

北端に設定したトレンチである。旧東大出版会建物の 直下にあたるが、良好に遺存している。第2面以下は、 南側半分を掘削して調査を行った。

第1面では近代期のピット4基を検出し、簡易記録を 行った (10 図)。第2面の遺構は、SP1~3を検出・調



1 図 調査地点位置図



査した。SP1では「中」と墨書されたかわらけが出土している(21図)。第3面では細い溝状遺構のほか、土坑・植栽痕・ピットなど6基を確認した。また上面で縄文・弥生土器片が出土している(26、27図)。

なお SP2 は、壁面の堆積状況では第2面よりも高い 位置にあるローム盛土層から構築されている。調査では 平面的な確認を行わなかったが、建物などの構築面であ る可能性も考慮しておきたい。

トレンチ 2 $(6, 14 \sim 16 \boxtimes)$

中央西側に設定したトレンチである。GL-50cm 程度で縁石とみられる4段積みの煉瓦構造物を検出している。土層堆積状態から、この構造物より西側は道路面であると推測される(16 図)。

本トレンチは全体的に大きく撹乱されていたうえ、遺 構構築面上が他ほど硬化していなかった。このため、自 然堆積層上面まで掘削したのち遺構を確認している。検 出遺構は4基で、いずれも第2面が構築面と考えられる。 撹乱により検出範囲が狭く、遺構の性格は特定し難い。 比較的規模が大きく直線的な平面形の2基は、地下室を 想定しておきたい。

トレンチ3 (7、8、17~20、22、23 図)

南端東側に設定したトレンチである。第1面は遺構はなく、煉瓦構造物2基のみを検出している。

第2面は地下室開口部(SU5:22、23図)とピットの計2基を確認した。なおSU5は開口部分の調査に留めている。第3面は6基の遺構を確認した。溝状遺構と思われる2基のほかは不明瞭な平面形で、植栽痕などの可能性が高い。

4. 基本層序・確認面(5、6、8、13、15、20図)

GL-70cm 前後までは、旧クレイコート跡や現広場の盛土層(I層)である。本郷257、258 などの立会調査で確認しているのも本層と思われる。これ以下が近世盛土層(II層)と考えられる。第1面を構成する土層は20cm程度とやや厚いが、これ以外の層厚は10cm程度のものが多く、全体的に締まりが強い傾向にある。ローム盛土層はトレンチ1で顕著にみられるが、他トレンチでは確認されない。他方、自然堆積層直上の黒褐色土層は、トレンチ3のみで確認されるなど、堆積土層にバリエーションが認められる。

いずれのトレンチでも3つの遺構構築面を確認し、第 1・2面の上面は堅く硬化している。第3面は自然堆積 層上面である。

・第1面: 焼土を多く含む暗褐色土層。GL-80cm (T.P15.90m 前後)

- ・第2面:灰褐色もしくは、暗褐色土層。GL-1.0m (T.P15.70m 前後)
- ・第3面:自然堆積層(ソフトローム)。GL-1.3cm (T.P15.50m 前後)

第1面の上面は硬化している。検出遺構は少なく、いずれも近代以降である。しかし盛土層中に近代遺物は含まれないことから、構築時期は近世となる可能性もある。

第2面は焼土を含む暗褐色土層で上面は硬化しているが、トレンチ2では硬化していない。近世遺構の構築面とみられ、トレンチ2、3においては地下室を検出している。

第3面は自然堆積層で、いずれもソフトローム層である。トレンチ1は、より上位の漸移層が僅かに遺存しており、旧地形が北側に傾斜している可能性が示唆される。

5. 調査の結果

確認された近世遺構は計18基である。内訳は地下室3、 溝状遺構3、土坑2、植栽痕4、ピット4、不明2である。 このほか近代期のピット4基、煉瓦構造物3基(縁石1、 建物1、枡1)がある。遺物は18~19世紀の陶磁器類 が中心であるが、僅かに17世紀代の熱を受けた製品が 混在する。また縄文・弥生土器がトレンチ1から出土し ており、該期の遺構が近在することをうかがわせる。

遺構確認面は、いずれのトレンチからも3面が検出された。遺構・遺物の様相から、第1面は幕末~近代期、第2面は御徒組長屋期、第3面は天和期以前と考えられる。

第1面は焼土を多く含む土層が全体的にみられ、上面 はいずれも硬化している。検出した遺構は全て近代期で 僅かであるが、層中の遺物は近世期であるため、明治初 年の火災による整地層である可能性も考えられる。

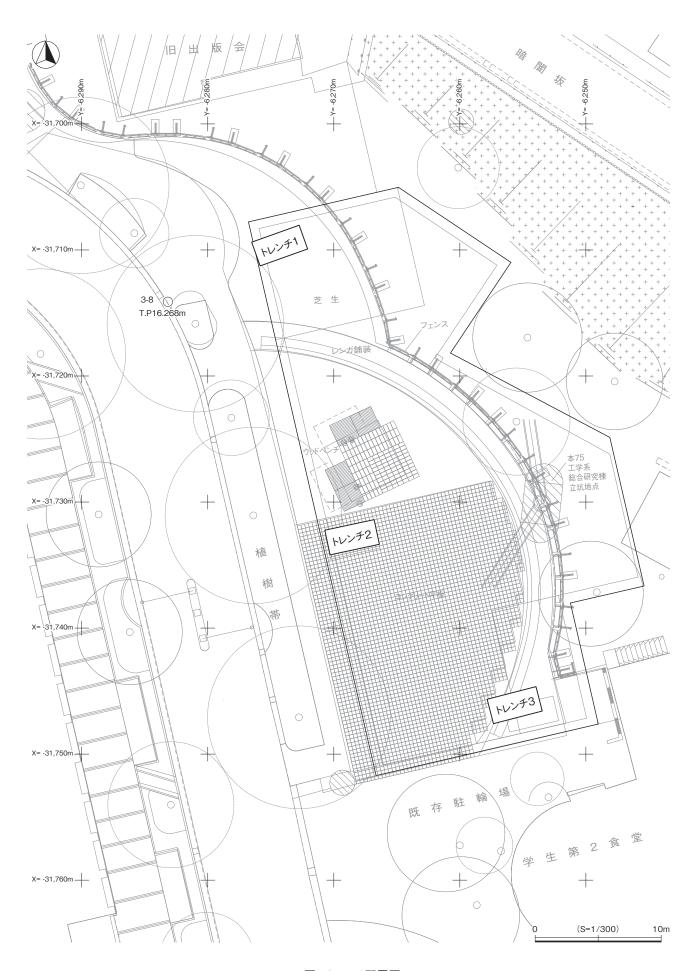
第2面は盛土層は締まりが強く上面が硬化した層が目立つ。トレンチ1、3においては比較的薄く堆積していることから、人の往来が多い居住域などであることが想起される。また遺構はやや希薄な感があるが、トレンチ2では地下室とみられる大形プランが2基確認できるなど、遺構分布に疎密があることが推測される。

第3面の遺構は植栽痕などが目立ち、一転して生活感は乏しい。ただし本地点に東隣する工学系総合研究棟立坑(本郷75:2005年)では小面積ながらも、地下室・井戸のほか焼土を含む土層などが確認されているほか、近在の理学部7号館地点(本郷5:1984年)や同1号館地点(本郷198:2015年)では、天和期以前の大型廃棄土坑なども確認されている。本地点でも天和期以前の被熱した陶

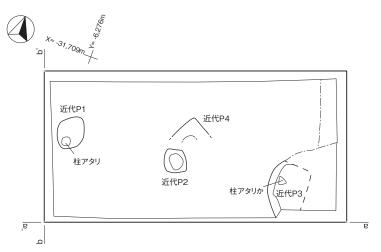
磁器類も僅かながら出土しており、該期の遺構の存在を示唆しているといえよう。

盛土層の堆積は各トレンチで若干異なるものの、遺構構築面はおおむね平坦といえる(9図)。また自然堆積層(ソフトローム)上面も同様に平坦であることから、第2面形成時に大幅な削平が行われていることが推測できる。ただし調査では敷地内の塀により台地際まで掘削できなかったため、末端までフラットな堆積かは不明と言わざるを得ず、原地形については改めて精査する必要がある。

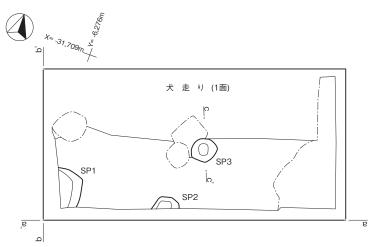
本試掘調査では、遺跡が良好な状態で遺存していることが明らかとなった。本調査では御徒組長屋期や、これ以前の藩邸縁辺部の利用状況の解明が期待される。



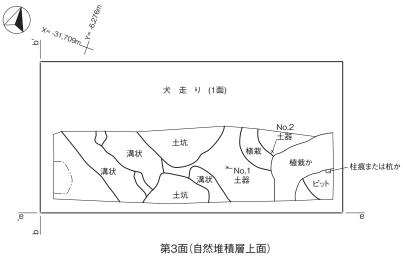
3図 トレンチ配置図



第1面(幕末~近代盛土層上面)

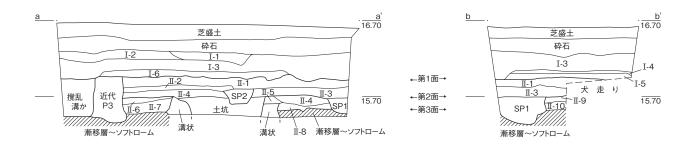


第2面(近世盛土層上面)





4図 トレンチ1 平面図



南壁土層断面 西壁土層断面

トレンチ1

(炭化物少含、粘性弱) (ローム粒やや多、玉石少、焼土ブロック微含、しまり強、粘性弱) (ローム粒やや多、玉石少、炭化物微含、しまり強、粘性弱) (焼土粒少、炭化物・玉石微含、しまり強、粘性弱) (焼土粒・ローム粒少、炭化物微含、しまり強、粘性弱) (焼土粒・ローム粒少、炭化物微含、しまり強、粘性弱)上位の一部に砂層あり I-1 黒褐色土 I-2 暗灰褐色土 I-3 灰褐色土 I-4 灰褐色土

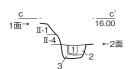
I-5 黒灰色土 I-6 灰褐色土

Ⅱ-1 暗褐色土

Ⅱ-2 暗褐色土 Ⅱ-3 暗褐色土 Ⅱ-4 ローム主体層

(焼土粒やや多、炭化物少、ローム粒微含、しまり強、粘性やや弱)第1面(焼土粒多、ローム粒・炭化物微含、しまり強、粘性やや弱)(灰色粘土・焼土粒少、ローム粒・炭化物微含、しまりやや強)(暗褐色土・焼土粒微含、しまり強)(ローム粒・黒褐色土少含、しまりやや強)(灰色粘土・ローム粒微含、しまりかや強、粘性やや弱)(焼土粒・ローム粒・炭化物微含、しまりやや強)(ロームブロック粒やや多、ローム粒・焼土粒少、炭化物微含、しまり強)(ロームブロック粒やや多、ローム粒・焼土粒少、炭化物微含、しまり強)(ロームだ・炭化物・焼土粒微含) Ⅱ-5 暗灰色土 Ⅱ-6 灰褐色土 II-7 黒灰色土 II-8 暗褐色土 II-9 暗灰色土

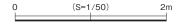
Ⅱ-10 暗褐色土



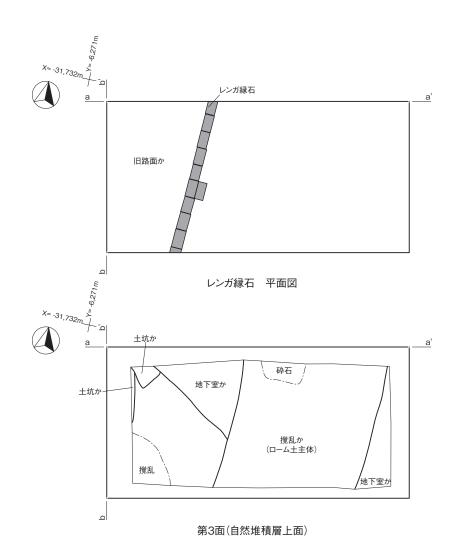
SP3

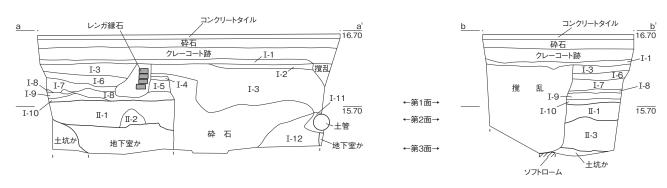
黒褐色土 (しまりなし、粘性なし)柱痕 暗褐色土 (ローム粒少含) 暗褐色土 (ローム粒・焼土粒少、玉石微量含、しまりやや今日、粘性やや弱)

SP3 (第2面検出)



5図 トレンチ1土層断面





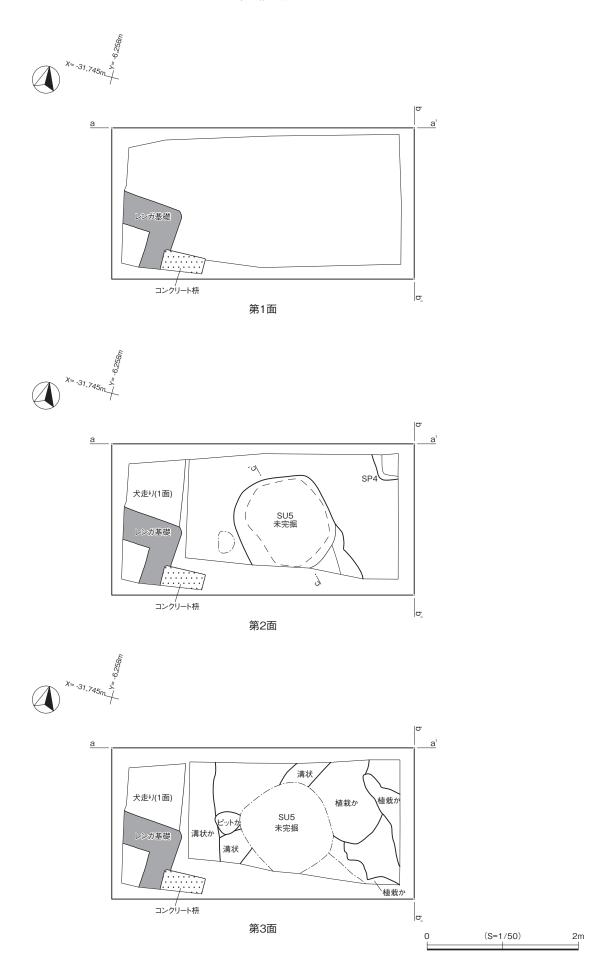
西壁土層断面

(S=1/50)

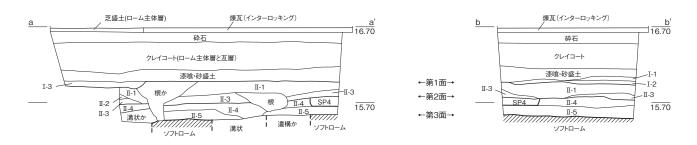
2m

北壁土層断面

6図 トレンチ2 平面図・土層断面図



7図 トレンチ3平面図



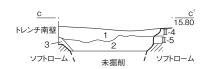
北壁土層断面 東壁土層断面

トレンチ3 I-1 暗褐色土 I-2 暗灰褐色土 (焼土粒少、玉石・炭化物・ローム粒微含、しまり強、粘性弱) (玉石やや多、焼土粒微含、しまり極強、粘性弱)近代路面か (玉石やや多、焼土粒・ローム粒微含、しまり強、粘性弱)近代路面か I-3 暗灰褐色土

Ⅱ-1 暗褐色土 Ⅱ-2 ローム主体層 Ⅱ-3 暗褐色土

(焼土粒やや多、炭化物・ローム粒・玉石微含、しまり強、粘性やや弱)第1面 (灰褐色土少、炭化物微・焼土粒含、しまり強) (ローム粒やや多、黒褐色土少、炭化物微含、しまり強、粘性やや弱) (ローム粒やや多、黒褐色土少、ロームブロック・炭化物・焼土粒微含、しまり強、粘性やや弱)第2面か (ローム粒・ロームブロック微含、しまりや強、粘性やや弱) Ⅱ-4 暗褐色土

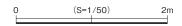
Ⅱ-5 黒褐色土



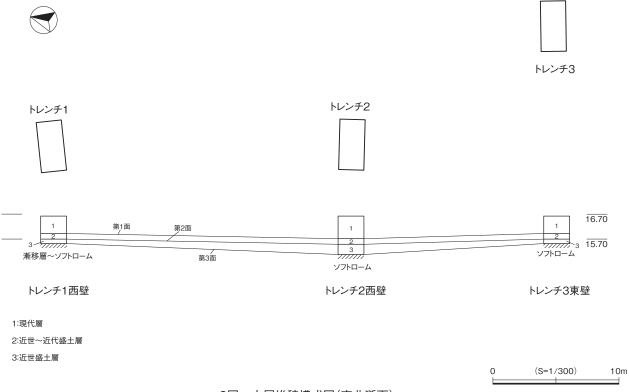
SU5

暗褐色土 (ローム粒・焼土粒微含、しまりやや強) 暗褐色土 (ローム粒微含、粘性やや弱) 黒褐色土 (ローム粒少、ロームブロック微含、粘性やや弱)

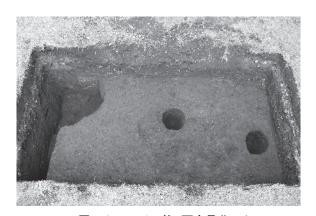
SU5



8図 トレンチ3土層断面



9図 土層堆積模式図(南北断面)



10図 トレンチ1 第1面全景北から



12図 トレンチ1 第3面全景南から



14図 トレンチ2 全景南から



16図 トレンチ2 近代縁石か西から



11図 トレンチ1 第2面全景北から



13図 トレンチ1 南壁sec 北から



15図 トレンチ2 北壁sec 南から



17図 トレンチ3 第1面全景北から



18図 トレンチ3 第2面全景北から



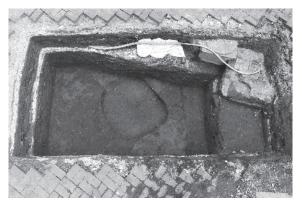
20図 トレンチ3 北壁sec 南から



22図 トレンチ3 SU5開口部完掘南から



24図 トレンチ1 SP1 出土遺物



19図 トレンチ3 第3面全景北から



21図 トレンチ1 SP1かわらけ検出西から



23図 トレンチ3 SU5土層断面東から



25図 トレンチ3 SU5出土遺物



26図 写真17 トレンチ1 ローム上面縄文土器



29図 調査地点遠景南西から



27図 トレンチ1 ローム上面弥生土器か

第3節 本郷構内の立会調査

本郷342 本郷通り用障耐震改修地点

所 在 地 東京都文京区本郷 7-3-1 (文京区 No.47 本郷台遺跡群内)

調査期間 2023年2月13、28日

調査面積 14.04㎡

調查担当 堀内秀樹、湯沢丈

1. 調査の経緯と経過

東京大学は、本郷キャンパスの囲障の内、正門から言問通り間の改修を計画している。改修は正門から北に向けて進める工事計画に沿って予定され、2019年3月(本郷274)、2022年2月(本郷327)、2023年1月(本郷335)から引き続き立会調査を行ってきた。本調査は4回目に当たり、柱番号2・4・6・8・10・15について立会調査を行った(3図)。なお2019年3月調査範囲(本郷274)と一部重複しており、その際には本地点付近は厚く盛土されていることが判明している。これらのことから遺跡が確認される可能性は低いと考えられたため、立会調査で対応することとなった。

本調査は2024年2月13日・28日の2日間で、調査 は埋蔵文化財調査室が行い、堀内秀樹と湯沢丈が担当した。

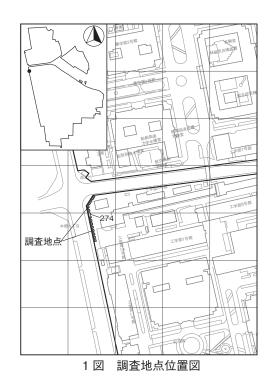
2. 調査の概要

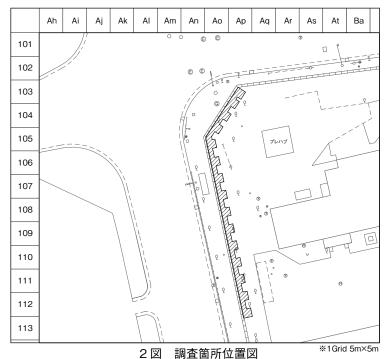
掘削計画は、囲障に沿って柱部分が長辺 1.8m、短辺 1.3m の長方形(各 2.34㎡)で、深さは柱の基礎上面か

ら 2.0m 程度(構外 GL より約 0.2m 低い)、法面部分が 短辺に幅 0.6m であった。1 箇所の面積は 3.42㎡である (1 図)。柱間の床付けは囲障から幅 1.0m、深さ約 1.0m であった。立会調査は 3 図で示した 6 箇所で行った(合 計 14.04㎡)。なお調査地点周辺は盛土されており、令和 2 年 3 月の測量図では標高が 23.7 ~ 23.9m と、構外の本 郷通りと比べて約 3m 高くなっている。調査地点の詳細 は、以下の通りである。

2番柱地点では、北東部の壁面付近からガス管が確認された。壁面の観察では、掘削底面(柱基礎から-2.1m)から約 0.2m の厚さで、立川ローム皿層が確認された。ローム上、厚さ約 0.35m の暗褐色土が堆積し、これは近世盛土と考えられる。その上には厚さ約 0.3m の茶褐色土と厚さ約 0.55m の褐色土層が認められ、どちらも近代盛土と考えられる。その上の現地表面までの約 0.7m は黒褐色土で、コンクリート等を含み現代盛土と考えられる。また同地点では、肥前産の染付端反碗の口縁部片が採集された(2、9~12 図)。

4番地点では、近代以降の盛土・撹乱が確認された (13、14 図)。





6番柱地点では、近世と考えられる掘削下面に落ち込みが1箇所確認され、覆土は暗褐色土で、ローム・炭化物・灰および瀬戸・美濃産の褐釉陶器壺・甕の底部片が出土した。また北壁面では常滑産の甕が出土し、口縁部の破片を採集した。その他、同地点では連珠三つ巴文の軒丸瓦、常滑産の甕等が採集された(5、15~17 図)。

8番柱地点では、常滑産の甕が正位の状態で出土し、掘削下面では近世と思われる落ち込み1箇所、南壁では近世の盛土等が確認された。落ち込みの覆土は、暗褐色土で、ロームと炭化物が混じる。東側は法面にかかり、平面形は不詳である。南壁面の観察では、掘削底面(柱基礎から-2.1m)から約0.4mの厚さで立川ローム層が認められ、ローム上、厚さ約0.6mで茶褐色土が堆積し、これは近世盛土と考えられる。その上に厚さ約0.2mの暗褐色土と約2.4mの暗褐色土が認められ、これらは近代以降の盛土と考えられる。同地点では常滑産の甕、堺産の擂鉢、瀬戸・美濃産の壺・甕、剣梅鉢文の軒丸瓦、近代以降の染付碗・皿、貝殻・動物骨等が出土した(6、18~21 図)。

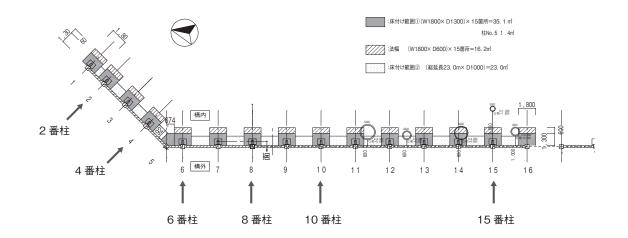
10 番柱地点では、掘削下面で近世と考えられる落ち込みが2箇所、北壁では近世盛土が確認された。北側の落ち込み①の覆土は茶褐色土で、ローム粒を多く含む。南側②の落ち込みの覆土は、暗褐色土で骨・貝を多く含む。北壁の観察では、掘削底面から厚さ約0.2mで立川ローム層が認められ、その上に約0.6mの厚さで茶褐色土が堆積し、これは近世盛土と考えられる。そこから現地表面まで約1.7mの厚さで暗褐色土が堆積し、近現代の盛土と考えられる。同地点では、貝殻、レンガ、近代陶磁器等が出土した(7、22~24 図)。

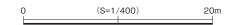
15 番柱地点では、南壁面で土層の堆積状態の観察を行った。掘削底面(柱基礎 -2.1m)からは立川ローム層が確認された。すなわち、下から順に、立川ロームIV層(厚さ約 0.4m)、同皿層(厚さ約 0.2m)、立川ロームII d層(厚さ約 0.1m)である。これらは遺構①によって大きく削られ、明確ではないが同レベルで近代盛土あるいは落ち込みが認められた。その上から約 1.85m の厚さで、コンクリートやセメントを含む褐色土の撹乱が堆積していた。同地点では、常滑産の甕、肥前産の染付碗、近代磁器、急須等が出土した(8、25、26 図)。

3. 調査結果

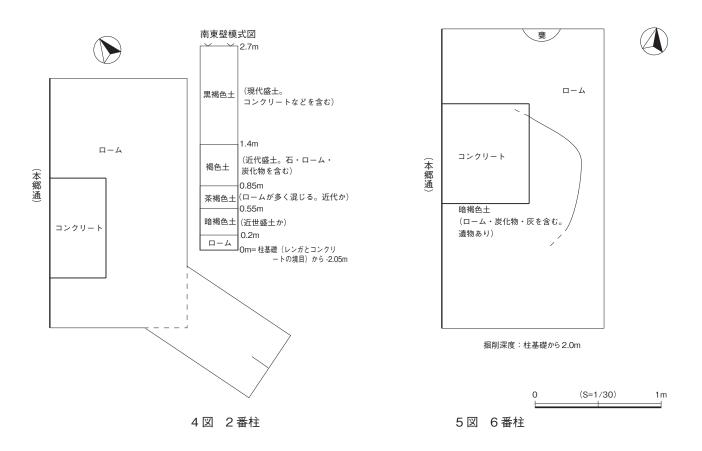
本立会調査 6 箇所では全体的に近代以降の盛土・撹乱が確認された。 $2\cdot6\cdot8\cdot10\cdot15$ 番柱地点では、現表面(盛土)から約 2m 前後の深さで、近世以前の堆積が確認され、更に $0.5\sim1m$ 前後の深さで立川ロームに到達した。

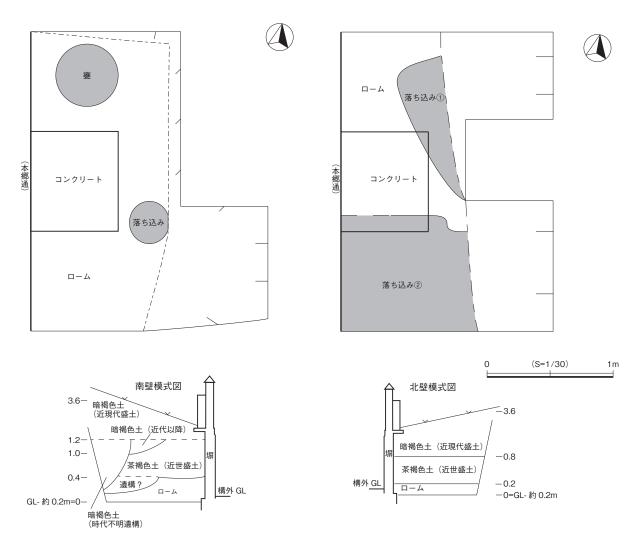
現表面より 3m 前後の掘削下面では近世と考えられる落ち込みが複数確認された。





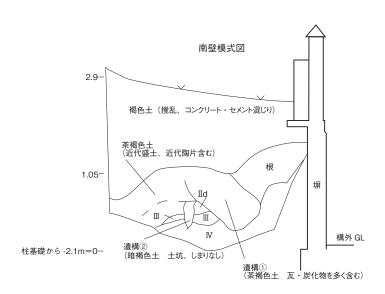
3図 掘削範囲





6図 8番柱

7図 10番柱



8図 15番柱



9 図 2番柱掘削状況(北西から)



10 図 2番柱掘削状況(北西から)



11 図 2番柱掘南東壁(下部)



12 図 2番柱掘南東壁(上部)



13 図 4番柱掘削状況(北西から)



14 図 4番柱掘削状況(北西から)



15 図 6番柱掘削状況(東から)



16図 6番柱掘削状況(南から)



17 図 6番柱甕出土状況(南から)



18 図 8番柱掘削地点(東から)







20 図 8番柱南壁



21 図 8番甕出土状況



22 図 10 番柱掘削地点



23 図 10 番柱掘削状況



24 図 10 番柱北壁



25 図15 番柱掘削状況(北から)



26 図 15 番柱南壁

第4節 駒場構内の事前調査

駒 I 59 駒場講義棟地点

所 在 地 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学駒場構内

目黒区埋蔵文化財包蔵地番号1東京大学駒場構内遺跡範囲内

調査期間 2023年2月1日~8月5日

調査面積 1,246㎡ **調査担当** 追川吉生

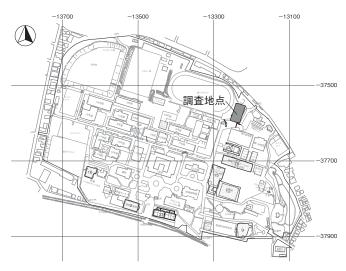
1. 調査の経緯と経過

東京大学では駒場 I キャンパスにおいて、トレーニン グ体育館跡地に新たに講義棟を新営することになった(1 図)。

本キャンパスは全域が旧石器時代、縄文時代、江戸時代を含む東京大学駒場構内遺跡(目黒区 No.1)となっている。調査地点の南側のコミュニケーションプラザ地点では、立川ローム層 V層と W層でナイフ形石器を伴うブロックを検出している(東京大学埋蔵文化財調査室2019a)。また調査地点に隣接した駒場体育館地点ではローム層中からの遺物の出土はみられなかったが、縄文時代の土器片と有茎尖頭器が1点出土している(東京大学埋蔵文化財調査室2019b)。

こうした周囲の状況を踏まえ、2022年10月17日~21日にかけて試掘調査を実施した。その結果、旧体育館の基礎部分は立川ローム層IX層相当の深度まで破壊されていたが、それ以外の遺存状況は良好で、漸移層からⅢ層上面にかけて近世から近代に帰属する畝溝や、縄文時代の柱穴を確認した。そこで2023年2月1日~8月5日にかけて事前調査を実施した。

発掘調査は建設工事の予定範囲全体について、掘削 工事が及ぶ標高 34m までを対象に実施した。これは調



1 図 調査地点(1/10000)

査地では立川ローム VI 層または VI 層に相当する(2 図)。調査区全体の表土掘削を行った結果、旧体育館の解体作業ではフーチングの存在した部分以外にも、理由と経緯は不明ながら、ローム層が大きく掘削されていたことが明らかになった。その掘削範囲は $D7 \cdot 8$ グリッド~ H6 グリッド、 $H6 \cdot K5$ グリッド~ $J11 \cdot L9$ グリッドにかけて L 字状に及んでおり、工事で予定された掘削深度よりも深くまで及んでいた(2 図)。この掘削工事によって、中世の溝や旧石器時代の石器ブロックの多くが破壊されていることが遺構・遺物の分布状況からうかがえる。

2. 遺跡の立地

本遺跡のある東京大学駒場 I キャンパスは、目黒川と神田川とに挟まれた淀橋台に立地しており、キャンパスは空川の左岸に位置している。キャンパス内には空川へ合流する支谷の湧水点が 2 箇所認められ、複雑な地形を形成している。調査地点は空川の湧水点の一つである駒場池の北西約 180m に位置している。現状では西側に隣接する第一グラウンドにかけて平坦であるが、調査の結果、調査区南端に埋没谷を検出し、谷に向かう傾斜が下5 グリッド~ I9 グリッド付近からみられるようになる。この埋没谷は南東方向に続いている(2 図②・③)。第一高等学校の配置図では、1927 年まで現在の大学共同利用施設と駒場第一・第二体育館との間に駒場池へ続く谷が描かれていることから、この埋没谷は駒場池へ向かう開析谷の一部であると推測される。

またキャンパス北東側の宇田川は、現状では山手通り 以東から谷への傾斜が顕著になる。しかし2図®-⑦-⑥が示すとおり、宇田川へ続く傾斜は調査区北東から始 まっていることが明らかになった。このように本地点は 空川と宇田川とに挟まれた馬の背状の平坦地に立地して いる。

1表 検出遺構数

種別	遺構数	1 面	2面	3面
SB	4	5		
SK	32	16	10	6
SD	24	8	16	
SF	3	3		
SF SX	11	2	9	
SP	199	32	93	74

3. 調査の結果

(1) 旧石器時代

旧石器時代の遺物は石器・剥片類・礫が 381 点出土した(3 図、7~10 図)。 Ⅲ層からの出土も一部あるものの、多くが \mathbb{N} 中~下層からの出土である。 \mathbb{G} ~ \mathbb{I} 6~ \mathbb{G} 7 \mathbb{G} 9 \mathbb{G} 7 \mathbb{G} 7 \mathbb{G} 8 \mathbb{G} 9 \mathbb{G} 7 \mathbb{G} 9 $\mathbb{G$

(2) 3面

ローム層検出面である(4 図)。78 基の遺構を検出したが、遺物を伴う遺構はない(1 表)。覆土の堆積状況から、縄文時代に帰属すると推測される遺構は43 基認められた。SK110 と SK113 は風倒木痕である。ピットの中には、SP267、SP275 のように、覆土に柱の痕跡が認められるものもある。

縄文土器の破片が少量出土している。

(3) 2面

漸移層上面で検出した遺構である(5 図)。165 基の遺構のうち溝が53 基を占める(1 表)。溝は主軸を北西 - 南東とするものと、北東 - 南西とするものとがあるが、さらに下記の4つに分けられる。

1 群 N-30 \sim 45 $^{\circ}$ -W:SD034、SD085、SD027、SD028、SD033 など

2 群 N-70°-W:SD238a~v

3 群 N-50°-E:SD078

4 群 N-25~30°-E:SD240a~q

SD034 は幅 2.5m、深さ 1.0m。埋没谷を掘り込んで構築されており、駒場池へ向かう (11 図)。SD085 は幅 1.0m、深さ 0.7m。SD034 とほぼ平行する。このように 1 群とした溝はいずれも駒場池に向かって伸びており、開析谷を意識した境界施設であったことが推測される。時期を明確にする遺物は伴わないが、遺構の形状から中世に帰属するものかもしれない。また 1 群の溝が複数基あることから、この境界が造り替えられながら一定期間維持されていたことがうかがえる。

これらの溝の周囲にはピットを多く検出しており、その一部はピット列になる可能性が高い。おそらく境界として構築された溝に伴った塀や柵と考えられる。SP069、SP084、SP101、SP103、SP115 などは SD085 の南側を壊して構築されていることから、SD034 に伴うピット列であることが推測できる。その場合、境界施設としての溝は SD085 から SD034 へと造り替えられたことが考えられる。

SD238 (2 群) は 22 条の溝からなるが、いずれも幅が $0.3 \sim 0.4$ m、深さ 0.1m 程度の規模で、部分的に切り合うように隣接して構築されている(12 図)。SD240(3 群)も 17 条の小規模な溝からなり、それぞれ $0.2 \sim 0.5$ m、深さ $0.04 \sim 0.1$ m である。これらは遺構の形態から畝間溝であると考えられる。遺物は出土していない。

E8・F9・G10 グリッドには土坑とピットが集中する。 これらが建物遺構になるかについては今後の検討課題である。

(4) 1面

表土直下で検出した生活面である。64 基の遺構を検出した(1表)。出土遺物は近代に帰属する陶磁器類が主体で、レンガ、ガラス瓶も含む。基本的に農学校および第一高等学校段階の生活面である(6 図)。

調査区北西端に北西から南東へ伸びる二条の溝がある。SD012の主軸は $N-47^{\circ}$ -W で幅 1.0m、深さ 0.08m (13図)。SD013の主軸は $N-39^{\circ}$ -W で、幅 0.7m、深さ 0.2m。 どちらも C8 グリッド以東は撹乱によって壊されており、溝の続きを検出するに至らなかった。

これらの溝を切って、礎石列 SB005・SB006(N-32°-E)、SB007a \sim c(N-28°-E)が北東から南西方向に並ぶ(14 図)。これらの溝や礎石列は何らかの境界施設であったことが推測される。敷地を南北に区画する溝を壊した上で、東西に区画する礎石列が構築されているので、ある段階で土地の利用状況が大きく変化したことがうかがえる。

SD012、SD013以南では植栽痕を多く検出した。共伴遺物から旧体育館建設まで当地に植わっていた樹木の痕跡である。

SK008 は南北 2.0m、東西 0.7m、深さ 1.3m の土坑である (15 図)。南側はロームを掘り込んだ 5 段の階段を有し、北側は方形に掘り込まれている。その中央部には桶が埋設されていた。桶内の堆積はロームブロックと黒色土からなる。土坑の壁面には柱穴痕が認められるので、本来は上屋を伴うものだったと考えられる。

F9 グリッド、G8・9 グリッドでは 6 基の柱穴と 1 基の炉跡を検出した。SF011 は径 0.6m、深さ 0.1m の円形

土坑で、覆土に焼土と炭化物を多く含む炉跡である。柱穴 群との関係は現段階では不明であるが、周囲に硬化面が拡 がっていたことから何らかの施設が存在した可能性があ る。

調 査 区 南 東 隅 で 検 出 し た SD090、SD091、SD092、SD093、SD094、SD104 は、幅 0.6m、深さ 0.3m の溝である。 遺構の主軸は N-27°-E である。 それぞれの溝の立ち上がりがほぼ失われるほど切り合いが著しい。こうした状況から畝立てが繰り返された畝間溝であることが推測される。

4. 調査のまとめ

これまでの駒場構内遺跡の調査では、国際学術交流棟地点やコミュニケーションプラザ地点において旧石器時代の遺物が出土している。国際学術交流棟地点ではIX層~X層で石器が出土しており、コミュニケーションプラザ地点でもV層~VI層にかけて5点の剥片からなる小規模なブロックが認められるものの、石器群の中心はVI層だった。本地点ではIV層からナイフ形石器や剥片・残核を伴う石器ブロックや礫群が出土した。剥片と残核には打面転移を頻繁に行う砂川型石刃技法が認められる。石器は少ないものの、今後の分析によって空川流域の旧石器時代の様相に新しい知見が加わったものと考えられる。

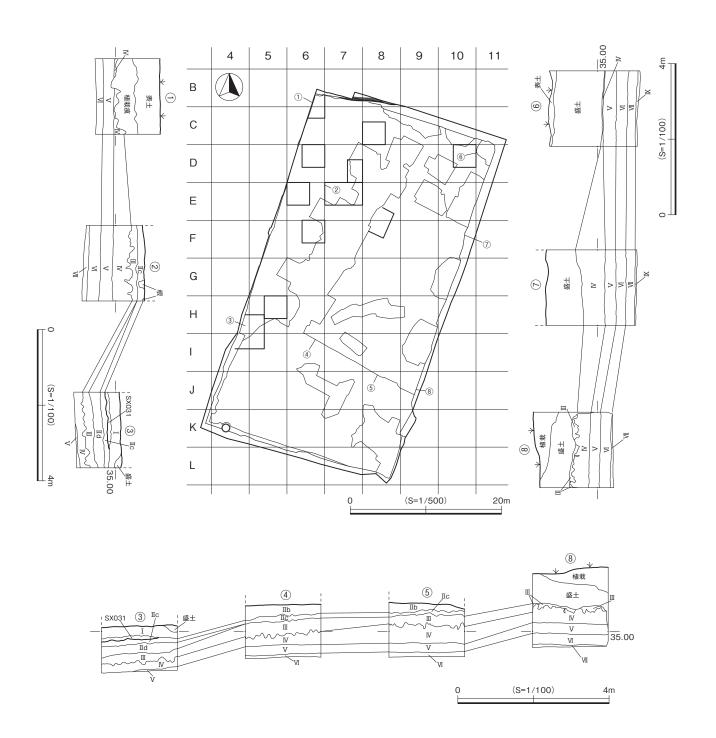
また2面では出土遺物の検討は未着手ながら、中世に帰属する可能性の高い溝を検出した。複数回に及ぶ造り替えが想定され、その一つであるSD034は幅2.5m、深さ1.0mに達する堀と呼びうるものであった。これらは駒場池へのびる開析谷にほぼ沿うように構築されているが、こうした境界のあり方は中世の居館である宇津木台遺跡でもみることができる。遺構分布については今後なお検討を要するものの、溝周辺で検出したピット群は溝の北側に伴う傾向がみられる。溝とそれに伴う柵や塀という組合せを考えた時、この境界が囲っていたのは溝の南側であることが推測される。駒場構内で中世に帰属する遺構の検出は今回が初めてだが、今後行われる調査では、特に溝の内側で該期の遺構や遺物が発見される可能性が高い。

2面ではこうした境界をなす区画溝の他にも、畑の跡も 検出した。同様の遺構は1面でも認められる。駒場キャン パス一帯は、江戸時代には目黒筋鷹場と呼ばれる幕府管 理の鷹場だった。この地に農学校が開校したのは1878年 (明治11) である。農科大学構内の配置図をみると、本調 査地点は圃場として利用されており、現在の裏門の西側に あった官舎の一部も含まれている。鷹場だった頃の駒場の 実態は不明な点が多く、1面~2面にかけて検出した畑や 建物遺構の分析から、鷹場から農学校への駒場一帯の土地 利用の変遷が明らかになることが期待される。

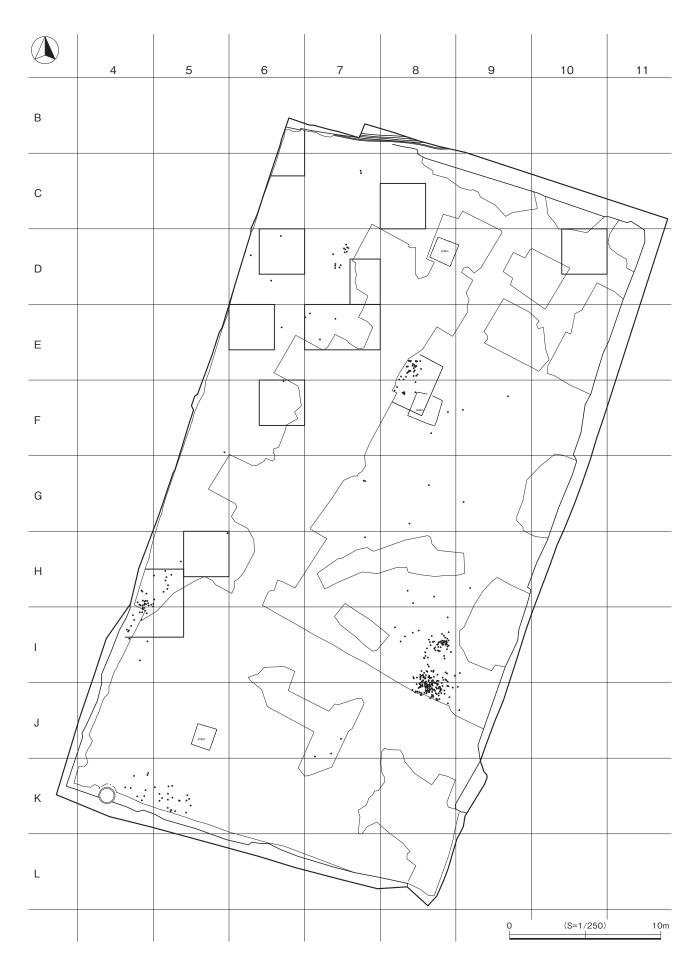
参考文献

東京大学埋蔵文化財調査室 2019a 『東京大学駒場 I 構内の遺跡 駒場コミュニケーションプラザ地点発掘調査報告』(『東京大 学構内遺跡調査研究年報』12 所収』

東京大学埋蔵文化財調査室 2019b 「駒場新体育館新営 (KSK18)」『東京大学構內遺跡調査研究年報』12 pp.60-69

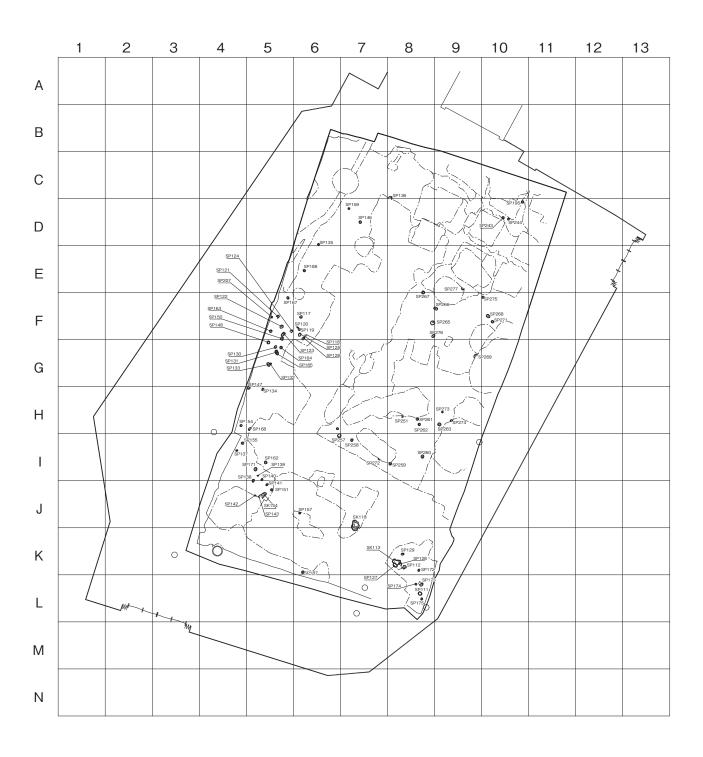


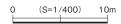
2図 調査区と堆積状況



3図 石器・剥片・礫出土状況

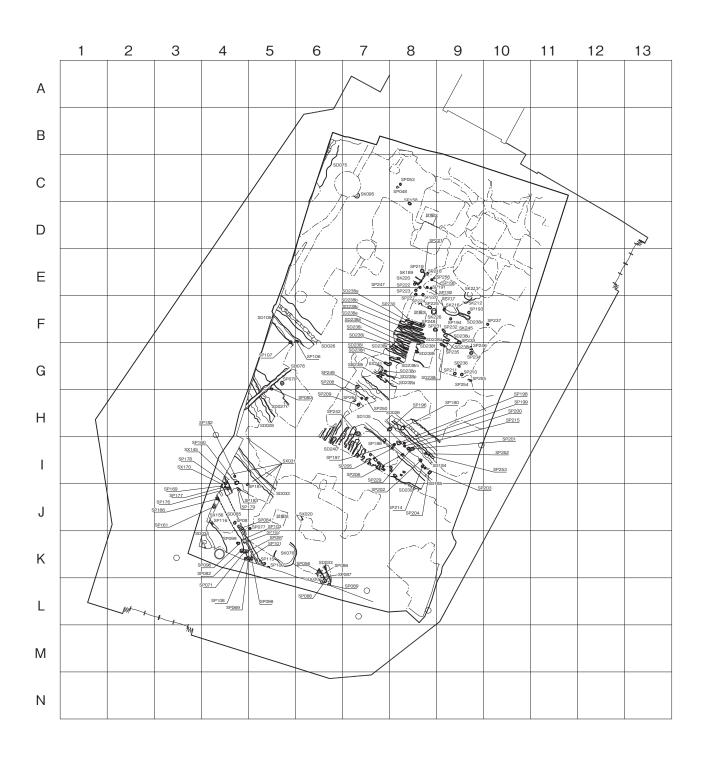


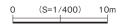




4図 3面遺構分布

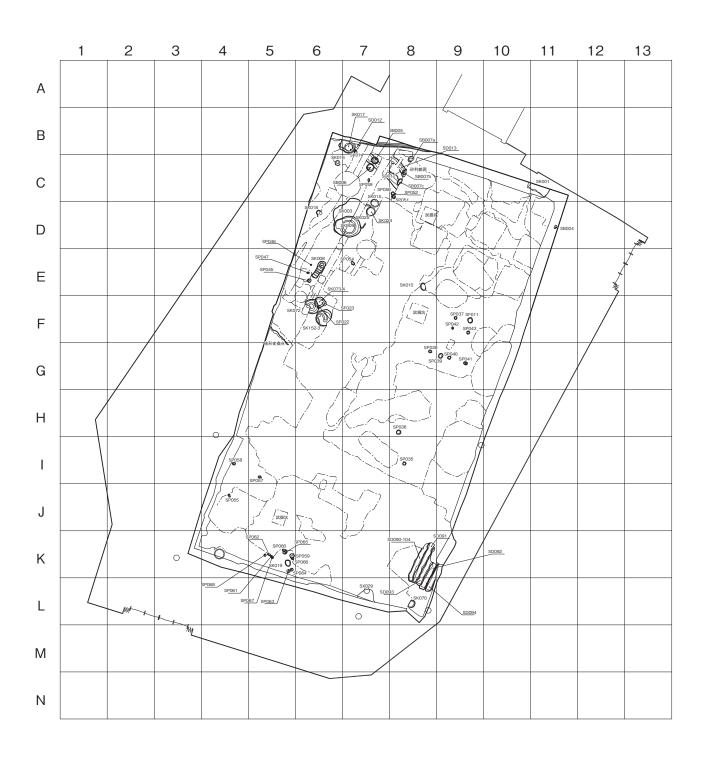


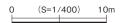




5図 2面遺構分布







6 図 1 面遺構分布



7 図 石器集中部 2 (G~I-6~9 グリッド・IV層)



8 図 石器集中部 2 (G~I-6~9 グリッド・V層)



9図 石器集中部1 (E~F-8~9グリッド・Ⅳ層)



10図 石器集中部1(I4グリッド・Ⅲ層)



11 図 SD034(東から)



12図 SD238(東から)



13図 SD012 (東から)



14 図 SB007a~c(東から)



15 図 SK008(西から)



16 図 SD090 ~ 094・104(南から)

第5節 駒場構内の試掘調査

駒 I 62 駒場図書館(Ⅱ期)整備事業等地点

所 在 地 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学駒場構内

目黒区埋蔵文化財包蔵地番号1東京大学駒場構内遺跡範囲内

調査期間 2023年7月3~14日

調査面積 35.7 m²

調查担当 追川吉生、香取祐一

1. 調査の経緯と経過

東京大学は目黒区駒場 I キャンパス南東部に、図書館 (Ⅱ期) 整備事業等を予定している。

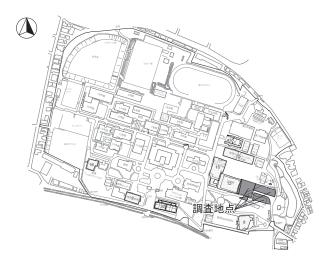
整備事業等を行う地点は、目黒区埋蔵文化財包蔵地番号1「東京大学駒場構内遺跡」として、周知の遺跡に登録されており(1図)、掘削を行うにあたっては、埋蔵文化財の対応が必要であっため、7月3~14日に試掘調査を行った。調査面積は35.7㎡である。調査は埋蔵文化財調査室が行い、追川吉生、香取祐一が担当した。

2. 調査の概要

事業計画は図書館の増設および周辺の整備、また道路 の新設で、合計 3,795㎡の掘削が予定されている (2 図)。

掘削深度は工事内容によって異なり、A 区は T.P.27.60m、B \sim D 区は T.P.33.00m までの掘削が予定 されている。

事業計画範囲の西側は、2002年に図書館(I期)新営の際に調査を行っており、計画範囲は埋没谷を含む複雑な自然地形を有していることが予想された。そこでA区に3箇所のトレンチ、B区、D区には各1箇所のトレンチを設定した。



1 図 調査地点(1/10000)

$A \boxtimes$

図書館(II 期)の新営箇所である。掘削深度は T.P.27.60m が予定されている。現在の A 区は北側が約 35~36m、南西側の道路付近は32m 前後で比高差を有 する。

トレンチ1 (3、8~12、34図)

短軸 1.1m ×長軸 8m の矩形を設定した。基本的に GL - 2m までの掘削を行ったが、東端は 2.6m まで深掘りを行った。表層以下は暗褐色土で、ロームブロック、コンクリートガラ、レンガ片、人頭大の円礫、プラスティックゴミを含む現代の盛土で、しまりは弱い。統制番号が付される碗が出土している(34 図)。

トレンチ2(4、13~16、35図)

短軸 1.1m ×長軸 8m の矩形を設定した。基本的に GL - 2m までの掘削を行った。表層以下はトレンチ 1 同様に暗褐色土で、ロームブロック、コンクリートガラ、レンガ片、小円礫含む現代の盛土であったが、西端から約 0.8m までの範囲では、GL - 1.6m に近代と思われる暗褐色土の硬化面が遺存していた。硬化面直下の堆積状況は、木根が多く遺存していたため、不明であるが GL - 1.9m で凝灰岩と思われる切石状の石材が検出され、石材以下には暗褐色土層、ロームブロックを含む褐色土層、ロームブロック主体の黄褐色土層が、層厚各約 15cm で堆積しており、版築状を呈している。

黄褐色土以下は、自然堆積と思われるローム土であった。限定された範囲での観察のため不確実ではあるが、しまりや色調から、立川ロームV層に比定される可能性がある。検出標高は約 T.P. 約 33.0m である。

トレンチ3 (5、17~20、36 図)

短軸 1.2m ×長軸 3.7m の矩形で設定した。西端で土間状のコンクリートが、GL -約 0.45m で検出され、中央部でも給水管が検出されたため、北東端のみを掘削した。掘削前には判断できなかったが、トレンチ北東部にコンクリートの排水枡が埋設されていた。この排水枡は一辺 1.4m の方形で、上端から深さ 1.5m で直径約 0.64cmの土管が接続されていた。上部はコンクリートであるが

躯体はレンガを使用しており、構築年代は近代に属する と思われる。

トレンチ 3 の土層堆積状況は、GL-1.2m までが、コンクリートガラ、レンガ片などを含む現代の盛土であった。また排水枡、土管の掘方以外のわずかな部分で堆積状況が確認でき、 $3\sim5$ 層が自然堆積と思われる土層である。特に微細な木質片を含む 4 層は「木本質泥炭層」に類似し、駒場図書館地点、コミュニケーションプラザ地点南区で検出された埋没谷の堆積状況に類似することから、当該区も同谷内に位置すると考えられる。

B区

トレンチ 4 $(7, 21 \sim 30, 37 \sim 39 図)$

短軸 2m、長軸 3m の矩形で設定した。GL - 約 0.8m で礎石状の遺構が 2 基(SB1、SB2)と植裁痕が検出されている(7-1 図)。ともに近代に属すると思われる。SB1、SB2(22、23 図)は 25 ~ 30cm の石が一段で据えられ、平面プランが垂直軸を持つことから、同一建物の礎石の可能性が考えられる。SB1 には方柱状の石が転用されており、「□前」の文字が彫り込まれている(38 図)。

また GL - 約 0.9m 以下には、黒褐色 (5 層) が堆積 しており、いわゆる「黒ボク土」に相当するかと思われ る。5 層上面で遺構精査を行ったが、遺構プランは検出 されなかった。また5 層中の掘削では遺物は検出されて いない。

漸移層上面では西角部にプランを検出し、掘削を行ったが深さは10cm以下で、遺構の性格などは不明である(7-2 図)。漸移層中からは、縄文土器6点、焼礫2点が出土している(39 図)。土器は地点上げしている(7-3 図)。8層はソフトロームに比定される。8層上面では遺構プランは確認されなかった。

D区

トレンチ 5 (6、31 ~ 33 図)

短軸 2m×長軸 4mの矩形を設定した。基本的に 1.1m まで掘削を行った。表層はアスファルト、砕石で 1.1m まで現代に属すると思われる盛土層であった。西側ではアスファルト、コンクリートガラが幾層にも重なって検出されている。南東隅を一部、GL - 2.2m (T.P.約 31.7m) まで深掘りを行ったところ、青灰色シルト、黒色粘土、水成ロームブロックで構成される盛土層が検出された(33 図)。この盛土層は粘性が強く、しまりも極めて強い。

3. 調査の結果

近世以降

今回の調査では、A区トレンチ1、2、3およびD区トレンチ5では、近世以前に属する遺構、遺物は、検出されていない。

隣接した駒場図書館地点の検出状況では、旧駒場学寮中央寮と南寮の間には段差が存在しており、上段東端の標高は T.P.33.8m で、中段東端の標高は T.P.32m であった。トレンチ1は中段の東側延長上に位置しており、坑底の最深部より中段の標高が約 1.2m 深いことから、地山まで到達しなかったと考えられる (40 図)。

トレンチ2では西側にわずかに近代の整地層が遺存しており、検出標高は T.P.33.7~8m であった。トレンチ2の位置は、中央寮、南寮の範囲外であることから、段差の影響を受けていないと考えられるが、比較的近いレベルとなっており、近代面のレベルが T.P.33.8m 前後である可能性も考えられる (40 図)。

トレンチ3は南東側の道路付近に位置し、標高は32m前後である。駒場図書館地点では南寮に大きく撹乱を受けていたが、トレンチ3内では痕跡が看取できなかったことから、わずかに南寮の東側に位置すると思われる。西端で検出された土間状のコンクリートは、厚みが70cm、幅85cmで上部は蓋状を呈し、中空と考えられ共同溝様を呈している。南寮または第一研究棟に付帯する施設の可能性が考えられる(40図)。また3層以下の自然堆積層をT.P.30.1mまで掘削を行ったが、地山は確認できなかった。トレンチ3は、コミュニケーションプラザ地点に谷頭を持ち、駒場図書館地点を通り、さらに東へと続く埋没谷内に位置していると思われる。この埋没谷は明治17年の「駒場農学校」『明治前期勧農事蹟輯録.上巻』(国会図書館デジタルコレクション)にも、当該区を越え南へ抜ける谷として描かれている(41図)。

トレンチ 4 では礎石状の遺構 2 基(SB1、SB2)が検出されている。当該区には昭和 11 年の建物配置図には記載がみられ、平成に入るまで附属室が存在していた(40 図)。ともに上部まで現代層に撹乱されることから、抜き取りが行われた可能性も考えられる。

トレンチ5では、近代以前の様相が判明するような遺構、遺物は検出されなかったが、深掘り底部で青灰色シルトや黒色の粘土等が堅く整地されていたことから、上述の埋没谷が当該区まで及んでいる可能性が考えられる。

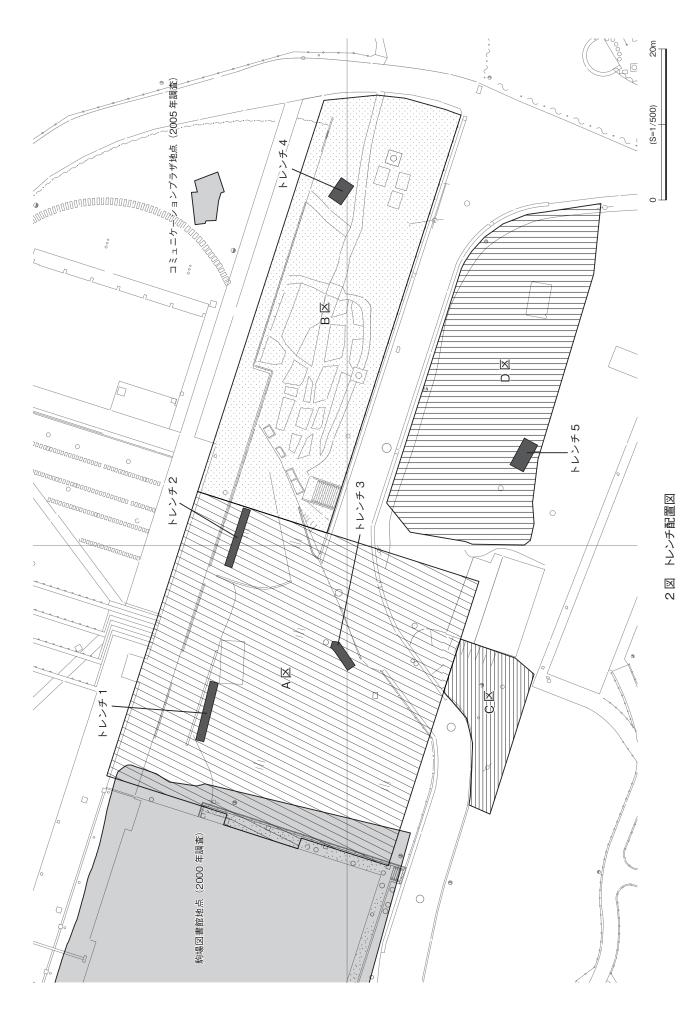
縄文時代

トレンチ4では近代層以下に自然堆積層が潰存してお

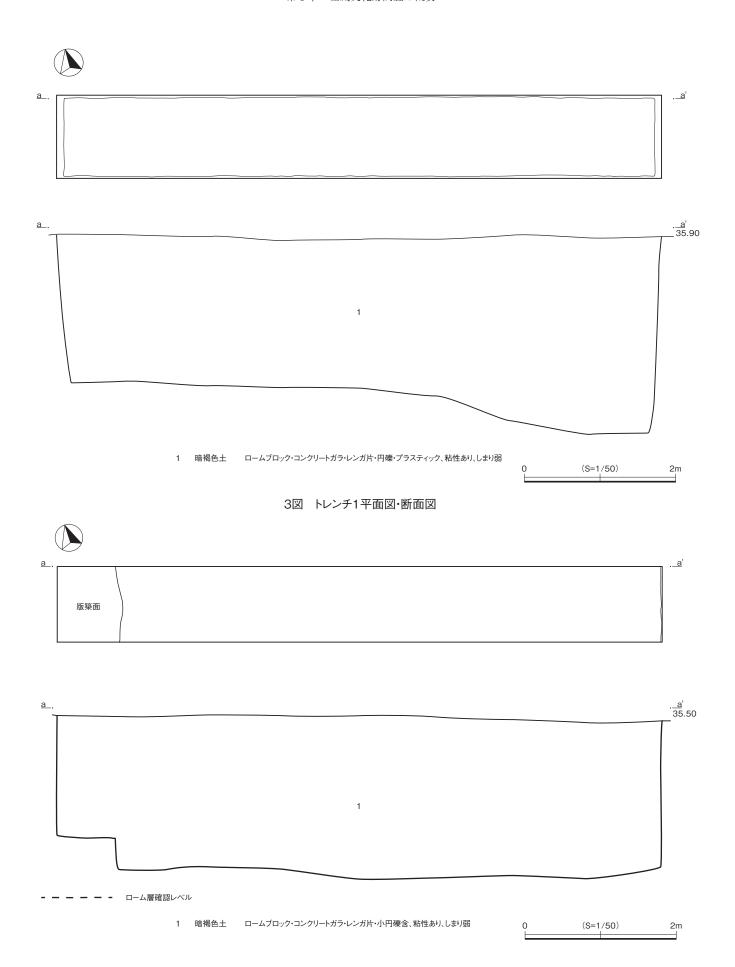
り、漸移層からは縄文土器、焼礫が出土した(39 図)。 ドット遺物 No.1、2、4~6 は同一個体片で、縄文前期 後半諸磯 C 式に属すると思われる。わずかに半截竹管 による施文が見られる。繊維は含んでいない。ドット遺 物 No.3 は半截竹管文が施文される十三菩提式に属する と思われる、くの字状を呈する鉢の口縁部である。近代 層より出土した一括土器は、集合竹管文が施文され、や はり諸磯 C 式に属すると考えられる土器片である。

これまで駒場構内では、早期を中心に遺構、遺物が多く検出されている(42 図)。コミュニケーションプラザ地点では撚糸文土器、数理理学研究棟II地点では条痕文系土器の出土が一定量みられるが、前期の土器が集中して出土した地点はなかった。同一個体が狭い範囲の中に集中するトレンチ4での出土状況は、濃厚な生活の痕跡が周囲に展開している可能性が考えられる。

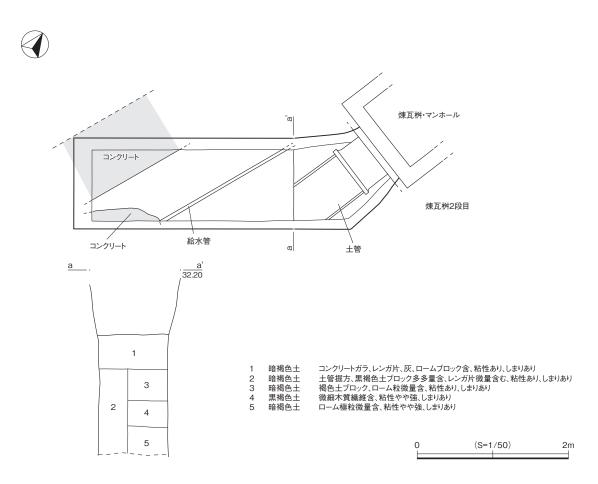
駒場構内の遺跡は冒頭にも述べたように、複数の埋没谷、湧水と考えられる駒場池などを包括する複雑な地形を呈しており、時代の変化に伴い居住区の変遷がたどれる可能性が考えられ、今後の調査によって当該期の生活域が判明する事が期待される。 (香取)



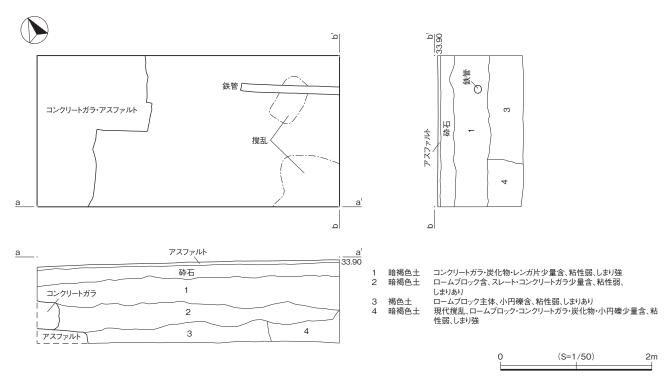
68



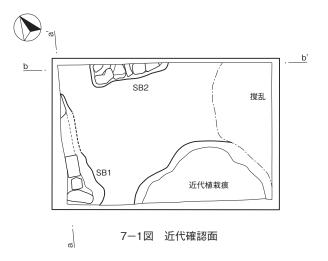
4図 トレンチ2平面図・断面図

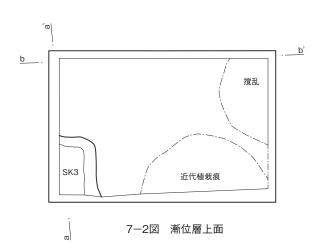


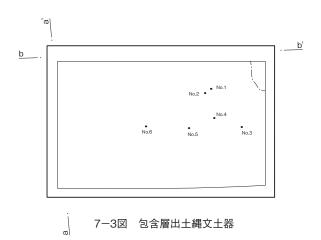
5図 トレンチ3平面図・断面図

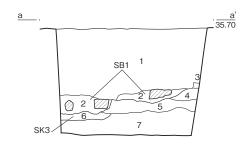


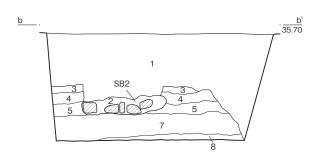
6図 トレンチ5平面図・断面図





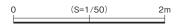






暗褐色土 表土、ロームブロック、コンクリートガラ円礫含、粘性弱、しまりあり 暗褐色土 は ロームブロックを量含、ローム粗粒少量含、粘性弱、しまりやや強 ロームブロック多量含、粘性あり、しまり強 暗褐色土 場色・暗黄褐色塊斑状含、粘性、しまりやや強 黒褐色土 が名置土、褐色土ブロック含、粘性やや弱、しまりあり 神移層、粘性やや弱、しまりやや弱 暗黄褐色土 ソフトローム、黒色、赤色スコリア微量含 粘性、しまりやや強

1 2 3 4 5 6 7 8



7図 トレンチ4平面図・断面図



8図 トレンチ1西側検出状況(東から)



10図 トレンチ1中央・東側検出状況(西から)



12図 トレンチ1東側深掘り堆積状況(北から)



14図 トレンチ2西側包含層検出状況(北から)



9図 トレンチ1西側北壁堆積状況(南から)



11図 トレンチ1中央南壁堆積状況(北から)



13図 トレンチ2西側検出状況(東から)



15図 トレンチ2東側南壁堆積状況(北から)



16図 トレンチ2西側包含層堆積状況(東から)



18図 トレンチ3東側深掘り検出状況(東から)



20図 トレンチ3東側深掘り堆積状況(東から)



22図 トレンチ4 SB1検出状況(西から)



17図 トレンチ3検出状況(東から)



19図 トレンチ3北西枡検出状況(南東から)



21図 トレンチ4近代面検出状況(東から)



23図 トレンチ4 SB2検出状況(北から)



24図 トレンチ4漸移層上面検出状況(西から)



26図 トレンチ4縄文土器出土状況1 (南から)



28図 トレンチ4ソフトローム上面検出状況(南から)



30図 トレンチ4北壁堆積状況(東から)



25図 トレンチ4 SK3完堀出(東から)



27図 トレンチ4縄文土器出土状況2(南から)



29図 トレンチ4西壁堆積状況(東から)



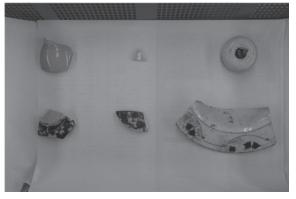
31図 トレンチ5検出状況(東から)



32図 トレンチ5南壁堆積状況(北から)



34図 トレンチ1出土遺物



36図 トレンチ3出土遺物



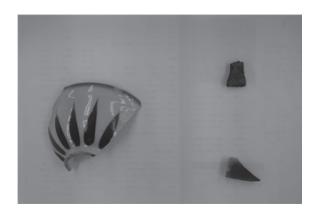
38図 トレンチ4 SB1出土遺物



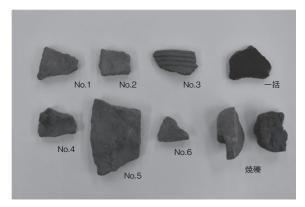
33図 トレンチ5南西隅深掘り検出状況(北から)



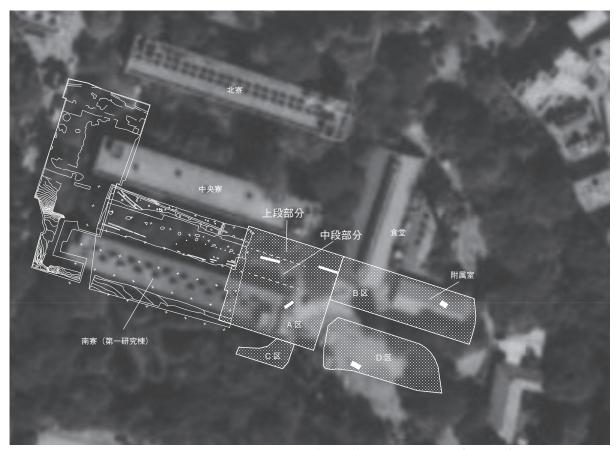
35図 トレンチ2出土遺物



37図 トレンチ4出土遺物



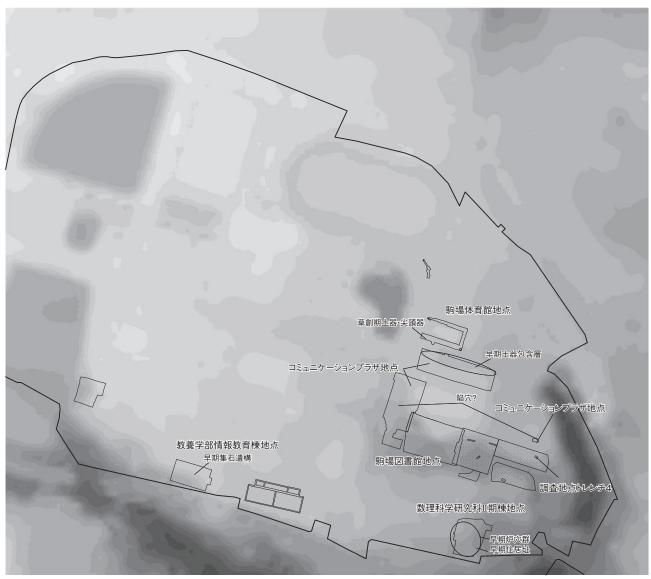
39図 トレンチ4出土縄文時代遺物



40図 調査地点と国土地理院空中写真・衛星画像1988年~1990年(1/1500)



41図 調査地点と「駒場農学校」(明治17年)(1/2000)



42図 駒場構内の縄文遺跡(1/4000)

第6節 駒場構内の立会調査

駒 I 63 講義棟(設備配管)地点

所 在 地 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学駒場構内

目黒区埋蔵文化財包蔵地番号1東京大学駒場構内遺跡範囲内

調査期間 2023年12月4日~15日、2024年2月27日・28日

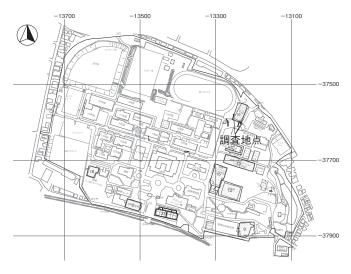
調査面積 20m²

調查担当 追川吉生、香取祐一

1. 調査の経緯と経過

東京大学では駒場 I キャンパスにおいて、トレーニン グ体育館跡地に新たに講義棟を新営することになった。 講義棟の新営に伴い、2023年2月1日から8月5日の 日程で埋蔵文化財調査室が事前調査を実施した(以下、 講義棟地点)。その結果、旧石器時代から近代以降にか けての遺構と遺物が出土した。特に石器ブロックを含む 石器群が出土した旧石器時代(立川ロームIV層段階)と、 53 基の溝を検出した中世の遺構面は駒場構内遺跡では これまで類例がなく、遺跡の様相を捉える上で注目され る (1図)。

講義棟の新営工事では、外構工事の一環として設備配 管と電気配管の工事が計画された。設備配管の工事地点 は講義棟地点の南東側に隣接しており、掘削深度が約1.8 mに及ぶことから、旧石器時代以降の遺跡が遺存してい る可能性が高い。また電気配管工事では、配管工事が行 われる予定地のうち講義棟地点西側に隣接した部分が、 0.34㎡と狭小ながら掘削深度が1.0mとなった。講義棟 地点の調査ではこの周辺で立川ロームⅢ層から礫が出土 しているため、当該地点においても旧石器時代の遺物が 出土する可能性が想定された。そこで設備配管と電気配



1 図 調査地点 (1/10000)

管それぞれの工事において埋蔵文化財調査室が立会調 査を実施した。調査は設備配管を追川が、電気配管を香 取が担当した(2図)。

2. 調査の概要

No.1 (3、4、6 図)

長軸 3.0 m、短軸 2.0m の方形を呈した調査区で、掘 削深度は 1.8m。現地表面から 1.0m の深度で溝 SD01 を 検出した(3、6図)。本地点は立川ロームⅣ層まで掘り 下げたが、旧石器時代の遺物は出土しなかった(4図)。 SD01

遺構の北側は撹乱によって壊され、南側は調査区外へ と続いているため規模は不明。深さは20cm。遺物は出 土していない。SD01の西側の延長線上に講義棟地点 SD032 が位置している。主軸方位もほぼ一致すること から、同一の遺構であると推測される。

SK02

調査区の東端で、SD01を壊して構築されている土坑 で、東側は調査区外へ続いている。瓦片が4点出土して いるが、性格は不明。

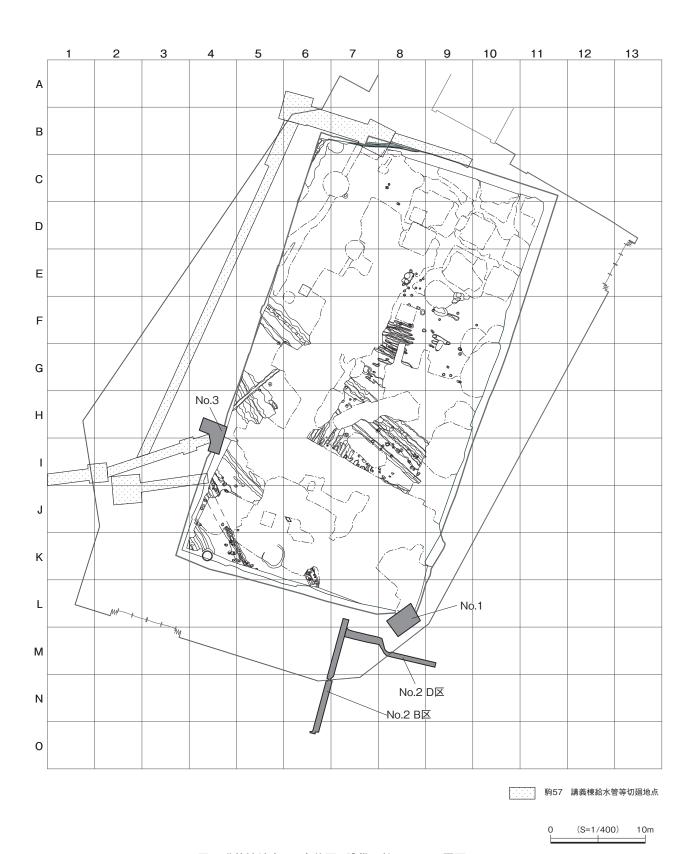
No.2 B \boxtimes (2、7 ~ 10 \boxtimes)

南北 12.7m、東西 0.6m の布掘りを呈す。工事塀を境 に内側と道路部部に分かれる。最大掘削深は工事塀内 側で 0.5m、道路部分では 0.45m である。道路部分の中 央部にはコンクリートスラブ、旧舗装面などが検出さ れ、掘削幅が20cmと狭くなっている。堆積土は表層 部にアスファルト、砕石が約 10cm 堆積し、砕石以下 から坑底まではロームブロック、砂利、コンクリート ガラ、レンガ片を含む現代の盛土層である。工事塀内部・ 道路部分ともに、底部には転圧に伴う硬化が所々にみ られ、工事塀内部では灰を含む黒褐色土が検出される。

No.2 D \boxtimes (2, 11 ~ 15 \boxtimes)

東西 10m、幅 0.5m ~ 0.8 m の布掘り状のトレンチで、 工事塀を境に屈曲を有している。最大掘削深は 0.5m で





2図 講義棟地点2面全体図と設備配管トレンチ配置図

ある。最東端部から幅 34cm のコンクリートが深さ 0.3m で検出されている。これは東側に位置するマンホール躯体の天井部である。

道路部部分の掘削底部までの堆積状況は、表層以下には 10cm 程度のアスファルト、砕石堆積し、下部はロームブロック、ガラ、レンガ片を含む暗褐色土で現代の盛土である。

B区・D区ともに近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

No.3 $(5, 16 \sim 20 \boxtimes)$

No.3 は 2022 年度に立会調査を行った駒 57 講義棟給水管等切廻地点と、駒 59 講義棟地点との間に位置する三角形の範囲が対象となった。掘削予定範囲は 0.16㎡と狭いため、すでに調査済みの講義棟地点へ拡張し、掘削を行った。

調査区形は西側に開いた鉤括弧状を呈し、掘削幅は 1.2 ~ 1.3m で、掘削深度は 1.1m である。 東南側は既調査区のため撹乱されているが、西・北西側には表土下 0.7m より下位にはプライマリーな堆積が確認できた。最下位の層位である 5 層でも、近代と考えられる漆喰片が多く含まれており、確認面は近代に属す堆積土中と考えられる。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されていない。

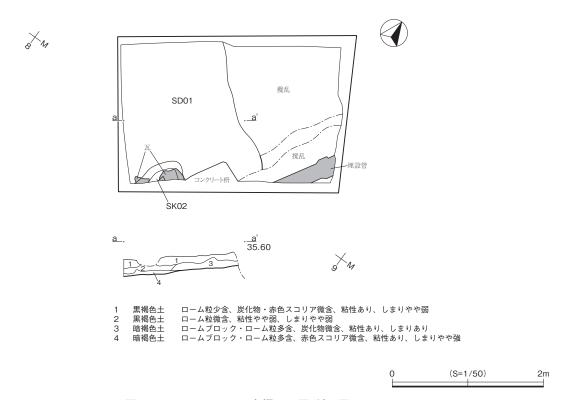
設備配管の敷設工事に伴う調査(No.1)は溝1基、土坑1基を確認した。遺物は出土していないが、溝については講義棟地点SD032と同一である可能性が高く、中世に帰属するものと考えられる。

電気配管の敷設工事に伴う調査(No.2・3)では遺構・ 遺物はみられなかった。

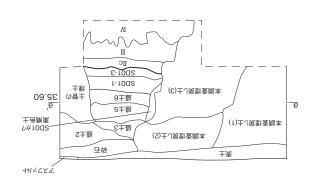
参考文献

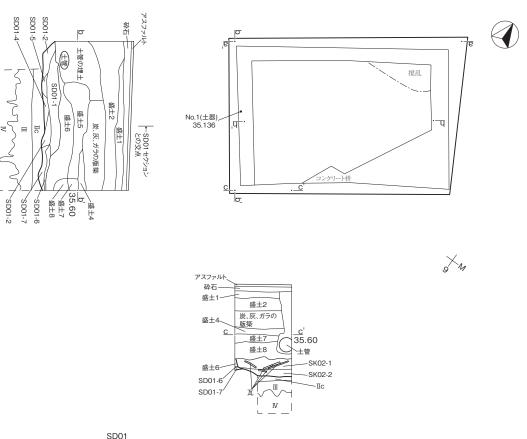
東京大学埋蔵文化財調査室 2019 『駒場コミュニケーション プラザ地点発掘調査報告』(『東京大学構内遺跡調査研究年報』 12 所収

3. 調査の結果



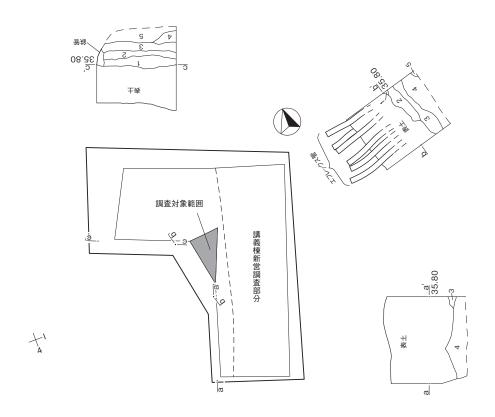
3図 No.1 SD01、SK02完掘平面図·断面図





0 (S=1/50) 2m

4図 No.1 最終面平面図·調査区壁断面図



暗褐色土 ローム粗粒少含、炭化物微含、粘性あり、しまり強 褐色土 ロームブロック主体、暗褐色土少含、粘性あり、しまり強 暗褐色土 漆喰片多含、ローム粗粒含、モルタル片少含、粘性あり、しまりあり 褐色土ブロック、ロームブロック・ローム粗粒含、粘性あり、しまりあり 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック含、漆喰片少含、ローム粗粒微含、粘性あり、しまりあり

1 2 3 4 5

(S=1/50) 2m

5図 No.3 最終面平面図·調査区壁断面図



6図 No.1 SD01、SK02検出状況(西から)



8図 No.2 B区工事塀内南側完掘状況(北から)



10図 No.2 B区道路部分南側完掘(北から)



12図 No.2 D区道路部分完掘(西から)



7図 No.2 B区工事塀内北側完掘状況(南から)



9図 No.2 B区道路部分北側完掘状況(南から)



11図 No.2 D区道路部分完掘(東から)



13図 No.2 D区工事塀内東側完掘状況(西から)



14図 No.2 D区工事塀内西側完掘状況(西から)



16図 No.3 完掘状況(東から)



18図 No.3 西壁堆積状況(東から)



20図 No.3 北壁堆積状況(南から)



15図 No.2 D区工事塀内西側完掘状況(東から)



17図 No.3 完掘状況(北から)



19図 No.3 南壁堆積状況(北から)

第Ⅱ章 調査資料の整理・研究および公開・活用

第1節 調査資料の整理

1. 整理事業概要

本年度は、発掘調査報告書刊行へ向けて以下のような 整理作業を行った。

- ・本郷 48(HN Ⅱ)看護職員等宿舎 3 号棟 縄文時代遺物事実記載、撮影、動物遺存体撮影、遺構図面合わせ、編集
- ・本郷 54(HES99)経済学研究科棟 公開写真のリネイ
- ・本郷 55 (HHC299) 医学部附属病院第2中央診療棟 図面デジタルトレース、遺構図面合わせ
- ・本郷 60 (HWK6) 医学部附属病院基幹整備外構施設等 遺物のカウント、人形玩具分析、石製品実測、副葬品考 察、埋葬容器分類・考察
- · 本郷 65(LS03)法学系総合研究棟 動物遺存体原稿 · 撮影
- ・本郷 66 (YGS) 薬学系総合研究棟 銭拓本、遺物デジ タルトレース
- ·本郷 71 (HEQ04) 地震研究所総合研究棟 遺物分類 ·接合 ·整理 · 実測
- ・本郷74 (HHN308) 医学部附属病院看護師宿舎5号棟 遺構図面合わせ、図面デジタルトレース、遺物図版デジ タルトレース・版組、縄文時代事実記載、古墳時代遺物 実測・デジタルトレース・版組、動物遺存体整理・撮影、 編集
- ・本郷 78 (HJF06) 情報学環・福武ホール 遺物写真撮 影
- ・本郷 81 (HEA07) 経済学研究科学術交流棟 図面レイアウト
- ・本郷 93(H7I09)伊藤国際学術研究センター 遺物撮 影
- ・本郷 100(HK311)工学部新 3 号館 遺物整理・分類・接合
- ・本郷 101(HMH10)医学部附属病院ドナルド・マクド ナルド・ハウス地点 遺物接合・実測・撮影
- ・本郷 115 (HTP12) 図書館前クスノキ移植 遺物接合・ 実測・撮影
- ・本郷 143 (HKO13) 議事堂改修 遺物接合・実測・ 撮影
- ・他23(メジロ15) 目白台国際宿舎遺構図面合わせ

・他 27 (メジロ 22) (仮称) 文京区目白台 3 丁目計画 遺構図面合わせ

2. 外部委託

- · 本郷 54 (HES99) 経済学研究科棟 自然化学分析
- · 本郷 60(HWK6)医学部附属病院基幹整備外構施設等 文献調査、墨書判読
- ・本郷74 (HHN308) 医学部附属病院看護師宿舎5号棟 旧石器実測、縄文石器分析、実測・トレース、事実記載、 表作成
- ·本郷55 (HHC299) 医学部附属病院第2中央診療棟 遺構図版作成
- ・本郷 174(HAC13)アカデミックコモンズ遺物分類・ 接合
- ・その他23 (メジロ15) 目白台国際宿舎 文献調査
- ・その他 27 (メジロ 15、22) (仮称) 文京区目白台三丁目計画 文献調査

第2節 調査・研究成果の公開・活用

1. 報告書・年報

- ・東京大学埋蔵文化財調査室 2024『東京大学埋蔵文化財 調査室発掘調査報告書 19 東京大学本郷構内の遺跡医 学部附属病院看護職員等宿舎 5 号棟地点・看護職員等宿 舎 3 号棟地点号棟地点 (2)』
- ·東京大学埋蔵文化財調査室 2024『東京大学構内遺跡調 査研究年報 16 (2022 年度)』

2. 広報活動

ウェブサイトの刷新に向けて準備を行った。新ウェブ サイトは、2024年4月から公開予定

第3節 教育・普及および地域連携

1. 講座・見学

- ○石川県人会「東京大学本郷地区 埋蔵文化財キャンパ スツアー」9月30日開催(堀内・湯沢)
- ○文京区文化財講座「小石川植物園の近代」11 月 11 日 開催(成瀬)
- ○本郷 338 (HAG23) 赤門脇トイレ新営工事および守衛 所新営その他 見学会
- ·10月13日 見学会 684人来訪

2. 研究会

- ○江戸遺跡研究会特別例会「関東大震災 100 年」7月22日 開催
- ・会場: 本郷キャンパス 国際学術総合研究棟 文学部3番 大教室
- · 主催: 江戸遺跡研究会
- · 共催: 東京大学考古学研究室 · 埋蔵文化財調査室
- ○調査研究プロジェクト8「近・現代遺跡と東京の考古学」 3月17日開催
- ・会場: 本郷キャンパス 国際学術総合研究棟 文学部3番 大教室
- ・発表内容:「近・現代遺跡と東京の考古学(主旨説明)」 追川吉生(東京大学埋蔵文化財調査室)

「近・現代遺物の編年」黒尾和久(国立重監房資料館)・梶 木理央(青山学院大学大学院)

「近・現代遺跡の調査の意義について - 高輪築堤跡等の調査事例から - 」斉藤進(港区埋蔵文化財調査指導員)

「小石川植物園旧温室遺構の保存と活用」成瀬晃司(東京 大学埋蔵文化財調査室)

シンポジウム「近・現代遺跡と東京の考古学」

3. 資料の提供・貸出

貸出先	目的	貸出・掲載内容	貸出・掲載資料
東京国立博物館		平成館考古展示室常設展	1. 色絵大皿片(伊万里·古九谷様式)/HW 地点 1 点 2. 色絵亀甲文皿片(伊万里·古九谷様式)/HW 地点 2 点 3. 染付吹墨鷺図皿片(伊万里)/HHC 地点 6 点 4. 色絵花卉文大皿片(伊万里·柿右衛門様式)/HGS 地点 5. 染付八宝文大皿片(景德鎮窯)/HGS 地点 7 点 6. 白釉鉄絵人物草花文壺片(磁州窯)/HGS、U 地点 7 点 7. 色絵福字鉢片(呉須赤絵)/HGS 地点 1 点 8. 織部脚付平向付片(美濃)/HGS 地点 1 点 8. 織部脚付平向付片(美濃)/HGS 地点 1 点 10. 染付脚付向付片(景德鎮窯)/HGS 地点 1 点 11. 染付八角瓢形徳利片(景德鎮窯)/HGS 地点 1 点 12. 染付水注蓋片(景德鎮窯)/HGS 地点 1 点 13. 色絵皿片(景德鎮窯)/HGS 地点 2 点 14. 黄地縁彩鉢片(大明嘉靖年製)/HW 地点 10 点 15. 色絵壺片/HW、HGS 地点 2 点 16. 色絵大皿片(呉須赤絵)/HGS 地点 1 点 17. 黑釉兎亳斑碗片(建窯)/HN 地点 1 点 18. 染付小杯(五良大甫呉祥瑞造)(景德鎮窯)/HGS 地点 1 点 19. 魚屋茶碗片/HN 地点 1 点 20. 青磁袴腰形香炉片(龍泉窯)/HN 地点 1 点 21. 青磁獅子紐香炉蓋片(龍泉窯)/HN 地点 1 点 22. 青磁算木文瓶片(龍泉窯)/HN 地点 1 点 22. 青磁算木文瓶片(龍泉窯)/HN 地点 1 点 23. イズニク陶器皿片/HW 地点 14 点
国立 歴史民俗博物館		総合展示「都市の時代」資料展示 古博時代の管玉に関する調本研究のため	24. 塩釉水注片 (ドイツ) /HN 地点 1 点 25. デルフト陶器片 /HGS、U 地点 4 点 1. 灰釉碗 (呉器手) /HW 地点 1 点 2. 灰釉鉄絵碗 (京焼風) /HW 地点 1 点 3. 青緑釉輪剥皿 (内野山窯) /HW 地点 1 点 4. 染付皿 (草花文) /HW 地点 1 点 5. 染付皿 (菊文) /HW 地点 1 点 6. 輪剥皿 /HW 地点 1 点 7. 三島手鉢 /HW 地点 1 点 8. 染付大皿 (網干文) /HGS 地点 1 点 9. 染付大皿 (海浜文) /HGS 地点 1 点 10. 染付瓶 (草花文) /HGS 地点 1 点 11. 染付組皿 (草花文) /HGS 地点 5 点 12. かわらけ /HHC 地点 2 点 13. 木製品 (はし) /HHC 地点 2 点 15. 金泥かわらけ /HIKN 地点 2 点
久永 雅宏	閲覧・ 撮影	古墳時代の管玉に関する調査研究のため、 閲覧・撮影 2023年5月22日	HHN308 地点出土管玉
東京都文京区教育委員会総務課	閲覧・	模倣ジェラール瓦の調査研究のため、閲覧・ 撮影 2023 年 5 月 23 日	メジロ 22 地点出土模倣ジェラール瓦

貸出先	目的	貸出・掲載内容	貸出・掲載資料
石川県金沢城調査 研究所	掲載	『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書I』 PDFデータ公開 2023日8月21日~	K14 地点 SK326 出土遺物
溝田 智俊	閲覧・ 撮影	調査研究のため、閲覧・撮影 2023年6 月	SBS00 地点 SU360 出土鉛塊
NHK エデュケーション	借用	放送大学「日本経済の比較史」内での利用、 HPよりインターネット配信 2023年4月1日 から6年間	
古小烏舎	掲載	『縄文の断片から見えてくる』 2023 年 8 月 30 日発行	東京大学構内出土縄文土器片
国立科学博物館	借用	関東大震災 100 年企画「震災からのあゆみ-未来へつなげる科学技術-」にて展示 2023 年 8 月 21 日~ 11 月 26 日	
九州国立博物館	掲載	『鍋島報效会研究助成報告書第 11 号』に て掲載	HW 地点 C2 層出土遺物
福山市鞆の浦歴史民 俗資料館	掲載	企画展「大保命酒展」図録内コラムに掲載 2023年10月13日~12月3日	K14 地点出土人形徳利
練馬区立石神井ふる さと文化館	借用	令和5年第4回ふるさと文化講座「江戸の 人々と土器-発掘された暮らしの道具たち-」 内で使用	

調査地点名 FE1: 工学部 1 号館

HCRA12:クリニカルリサーチセンター A 棟 I 期

HEA07:経済学研究科学術交流棟

HES99:経済学研究科棟

HG: 医学部附属病院外来診療棟

HGS: 御殿下記念館

HHB: 法学部4号館(法)・文学部3号館(文)

HHC: 医学部附属病院中央診療棟 (病中)・設備管理棟 (エネセン)・給水設備棟 (給水)・共同溝 (共同溝)

HHC299: 医学部付属病院第2中央診療棟

HI709:伊藤国際学術研究センター

HIKN: 医学部教育研究棟 HJF06: 情報学環・福武ホール HN: 看護職員等宿舎1号棟 HW: 医学部附属病院入院棟 A

HS7: 理学部7号館 K14: 工学部14号館 NK84: 農学部共同溝 OKS07: 追分国際宿舎

SBS00: 医科学研究所附属病院 A 棟

SK:教育学部総合研究棟 TS:工学部武田先端知ビル

U:山上会館

附 埋蔵文化財調査室要項

東京大学埋蔵文化財運営委員会は、全学委員会の見直 しに伴い、以下の通り廃止され、埋蔵文化財調査室は、 キャンパス計画室下部組織に改組された。

東京大学における全学委員会の見直しに伴う関係規則の 整理等に関する規則(平成22年3月25日東大規則第 133号)(抜粋)

(略)

(東京大学埋蔵文化財運営委員会規則の廃止) 第17条 東京大学埋蔵文化財運営委員会規則(平成元 年7月11日制定)

埋蔵文化財調査室規則

平成元年7月11日

評議会可決

(設置)

第1条 キャンパス計画室の下に埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

(業務)

第2条 調査室は、東京大学構内の施設整備に伴う埋蔵 文化財の発掘調査(以下「遺跡調査」という。)に関し、 次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) 遺跡調査に対する総括的指導助言
- (2) 文化庁等に提出する報告書の作成、監修及び指導
- (3) 遺物等の保管及び管理
- (4) 遺跡調査の方法に関する調査研究
- (5) 前各号に定めるもののほか、研究報告書の作成等 遺跡調査に関し必要と認められる事項

第3条 調査室に室長を置く。

- 2 室長は、東京大学専任の教授又は准教授のうちから 総長が委嘱する。
- 3 室長は、調査室の業務を総括する。

(室員)

第4条 調査室に室員若干名を置く。

2 室員は、室長の指示に従い、調査室の業務に従事する。 (庶務)

第5条 調査室の庶務は、本部施設企画課において処理 する。

附 則

この規則は、平成8年5月21日から施行し、改正後の 埋蔵文化財調査室規則の規定は、平成8年5月11日か ら適用する。

附 則 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

(室長)

埋蔵文化財調査室組織表

室長 (人文社会系研究科教授)	芳賀	京子	教務補佐員	小川	祐司
室員(キャンパス計画室准教授)	堀内	秀樹	教務補佐員	香取	祐一
室員 (キャンパス計画室助教)	成瀬	晃司	事務補佐員	青山	正昭
室員 (キャンパス計画室助教)	湯沢	丈	事務補佐員	今井	雅子
室員 (キャンパス計画室助手)	大成	可乃	事務補佐員	大貫	浩子
室員 (キャンパス計画室助手)	追川	吉生	事務補佐員	小林	照子
			事務補佐員	杉浦	あかね
			事務補佐員	渡邊	法彦

報告編

東京大学構内遺跡発掘調査報告

東京大学本郷構内の遺跡

医学部附属病院 看護職員等宿舎ゴミ置き場地点

2024

東京大学埋蔵文化財調査室



B 面全景



E面全景



調査区南壁土層堆積状況



SI 2 掘方完掘

- 1. 本報告は、東京大学本郷構内、医学部附属病院看護職員等宿舎ゴミ置き場新営に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告である。
- 2. 本報告掲載の看護職員等宿舎ゴミ置き場地点は、これまで東京大学構内遺跡調査研究年報や報告書などで、「本郷25 医学部附属病院看護婦宿舎ゴミ置き場地点と記載したものである。
- 3. 略称は、「HND」とした。出土遺物の注記は、「HND」と記している。
- 4. 本地点は、東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷構内 (東経 139 度 46 分 1.707 秒~東経 139 度 46 分 1.672、 北緯 35 度 42 分 43.7467 秒~ 35 度 42 分 43.7195 秒、世界測地系 9 系 X 座標 -31933.1802 ~ -31940.8117、 Y 座標 -5984.3405 ~ -5994.4431) に所在している。
- 5. 本地点は、東京都遺跡地図「文京区 47 本郷台遺跡群(本郷五・七丁目・弥生二丁目他、包蔵地 集落 貝塚 その他の墓 社寺 屋敷 その他(町屋)、旧 縄 弥 古 平 近」内に位置している。
- 6. 調査面積は、71.3㎡である。
- 7. 調査・整理期間は以下の通りである。

試掘調査 1995年1月24日

事前調査 1995年1月30日~3月3日

整理作業 2005年3月14日~2011年9月27日 (遺物基礎整理、デジタル化、図版作成) 2020年5月14日~2024年7月31日 (遺構基礎整理、デジタル化、図版作成) 2024年8月1日~2024年8月16日 (事実記載)

- 8. 試掘調査・事前調査は、東京大学埋蔵文化財調査室が行い、原祐一(2020年1月逝去)が担当した。
- 9. 本報告の編集は、香取祐一が行った。
- 10. 執筆分担は以下の通りである

第 I ~Ⅲ章第 1 ~ 3、5 節 香取祐一 第Ⅲ章第 4 節 阿部常樹 第 IV章 香取祐一

- 11. 発掘調査に伴う図面、写真、出土遺物は東京大学埋蔵文化財調査室が、駒場Ⅱリサーチキャンパス、 茨城県石岡市八郷町柿岡 414 東京大学工学部・工学系研究科柿岡教育研究施設内において、運用、保存、 管理している。
- 12. 動物遺体の同定および分析は、阿部常樹氏(國學院大學学術資料センター)に依頼し、原稿を賜った。
- 13. 古墳時代の土器については、山下優介氏(国立歴史民俗博物館)よりご教示を得た。
- 14. 遺物の実測は、今井雅子、坂野貞子、杉浦あかね、遺物の写真撮影は青山正昭、デジタルトレース、写真合成、図版作成は、加藤理香、香取祐一、杉浦あかねが行った。
- 15. 本報告(PDF形式)および本報告に関わる本文には掲載されていない遺構一覧表(詳細版)、遺物観察表(以上、xlsx 形式)、遺構写真、遺物写真(以上、jpeg 形式)は東京大学埋蔵文化財調査室公式サイト(https://www.aru.u-tokyo.ac.jp/index.htm) に収録した。
- 16. 発掘調査および報告の作成にあたり、下記の方々からご教示を得た。記して感謝を表したい。(敬称略、五十音順)

加藤建設株式会社、文京区教育委員会

17. 発掘調査・整理作業参加者 発掘調査 君島俊行 米川裕治(当時文学部考古学研究室学生) 加藤建設株式会社

整理作業

青山正昭、今井雅子、加藤理香、香取祐一、杉浦あかね、坂野貞子(埋蔵文化財調査室)

1. 本文中に記載した遺構の略号は、以下の通りである。

SB:基礎列 SD:溝 SE:井戸 SF:炉穴 SK:土坑 SP:ピット SU:地下室

SX:性格不明の遺構

- 2. 本報告の実測図の縮尺は、それぞれの図版に記した。遺物図版の縮尺は基本的に陶磁器類が 1/3、瓦が 1/4 であるが、これと異なる縮尺の場合のみ倍率表記を行った。
- 3. 出土遺物の写真は、基本的に実測図にはめ込み合成を行った。遺構の写真などは東京大学埋蔵文化財調査室公式サイトに掲載している(https://www.aru.u-tokyo.ac.jp/index.htm)。
- 4. 本文、挿図、観察表、写真で使用した遺物番号は、共通の番号を使用した。
- 5. 遺物図版に使用している記号は、以下のことを示している。
 - ・▲は、高台、見込みなどの釉際を表している。
 - ・ \ / は、口唇部の口銹を表している。
 - ・遺物中心線上下の破線は、それぞれ推定口径、推定底径を表している。
 - ・- -は、断面を表している。
 - ・擂鉢の↓──↓は、体部擂目の範囲を表している。
 - ・口唇部の\←→/は、敲打痕を表している。
- 6. 本文中に記載した陶磁器・土器類は、「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類」(いわゆる東大分類) の最新バージョンである『医学部附属病院入院棟A地点』で示した分類(東京大学埋蔵文化財調査室 2016)、および「東京大学構内遺跡出土土人形・玩具の分類」(安芸毬子・小林照子・堀内秀樹 2012) に準拠している。

分類・コードおよび陶磁器・土器・人形・玩具・瓦の凡例については直近の報告である『医学部附属病院 看護職員等宿舎5号棟地点 看護職員等宿舎3号棟地点(2)』(東京大学埋蔵文化財調査室2024)を参照されたい。

遺物実測図は、出土遺物全てを行うことは量的に不可能であり、本報告では出土遺構ごとにその年代や性格などを代表すると判断される遺物を中心に、完形率、希少性などを含めて図化選択を行った。

東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院看護職員等宿舎ゴミ置き場地点 発掘調査報告書

目 次

例 言		
凡例		
目 次		
第 [章 道	遺跡の位置と地歴的環境	
第1	節 遺跡の位置	101
第 2	節 調査地点の地歴的環境	101
第Ⅱ章 調	引査の経緯と概要	
第1	節 調査に至る経緯	103
第2	節 調査の方法と経過	103
第3	節 調査の概要	103
第 4	節 基本層序	103
遺構	一覧表	
全体		
第Ⅲ章 i	遺構・遺物	
第1	節 近世の遺構と遺物	111
第 2	節 古墳時代の遺構と遺物	126
第3	節 縄文時代の遺構と遺物	131
第4	節 動物遺体	135
第Ⅳ章	まとめ	138

引用・参考文献 報告書抄録

第 I 章 遺跡の位置と地歴的環境

第1節 遺跡の位置

東京大学本郷構内は、全域が「文京区 No.47 本郷台遺跡群」、一部を「文京区 28 弥生町遺跡群」として周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている。

調査地点は、東京都文京区本郷7-3-1、東京大学本郷キャンパス東側にある附属病院地区に位置し、周辺ではこれまで多くの調査が行われており、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世、近代に比定される遺構・遺物が出土している。

周辺の調査区については、本調査地点の南に約50m に位置する看護職員等宿舎5号棟地点・看護職員等宿舎3号棟地点の報告書(東京大学埋蔵文化財調査室2024) に詳述されているので参照願いたい(I-1図)。

調査区は世界測地系IX系に準拠して設定した、東京大学本郷構内全域を対象としたグリッド(以降、「東大グリッド」と記す)(東京大学埋蔵文化財調査室 2017)の東西 Ib ~ Id 区、南北 167~169 区内に位置している。

第2節 調査地点の地歴的環境

(1) 地理的環境

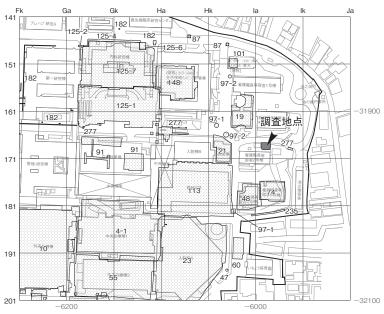
東京大学本郷構内は、武蔵野台地の東端の本郷台地に位置している。本郷台地は約8万年前に形成された武蔵野2面(M2面)に属し、本郷構内は標高約20~22mの上位面と、15~17mの下位面とが存在し、本地点は下位面に位置する(I-2図)。

地理的環境についても上記報告書に詳しく述べられているが一部追記すると、当該地区を微視的に研究した成果により、この低位部分は離水期が5万年前とされる東京軽石層を有しないことから、さらに新しい面であり、その時期を約4万年前と推定されており、本富士台と称されている(阪口1990)。

(2) 歴史的環境

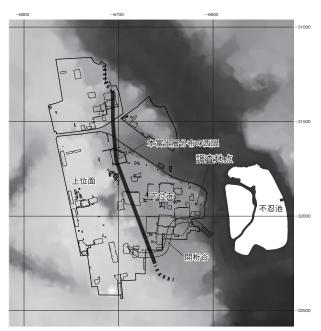
調査地点では縄文時代・古墳時代・近世の遺構・遺物 が検出されている。これらも周辺地域の調査で検出され た遺構・遺物の検出状況と様相が類似しており、濃厚な 生活の痕跡が、調査地点の周囲に展開されていたことが 予想される。

歴史的環境についても、上記報告書内で詳述されているため割愛するが、特に近世期の変遷を概括的に述べると、調査地点は寛永 16 (1639) 年以降、加賀藩本郷邸東域内に分与された富山藩邸に位置している。



I-1図 調査地点の位置(1/4000)

4医学部附属病院中央診療棟(病中)・設備管理棟(エネセン)・給水設備棟(給水)・共同溝(共同溝) 10医学部附属病院外来診療棟 19.医学部附属病院中央診療棟(病中)・設備管理棟(エネセン)・給水設備棟(給水)・共同溝(共同溝) 10医学部附属病院外来診療棟 19.医学部附属病院基幹整長同溝等(旧WK4) 48医学部附属病院基務實験等宿舎15骨棟地点 23.医学部附属病院之族棟(2中) 60医学部附属病院基務整整備外構施設等 74.医学部附属病院看護職員等宿舎5号棟 87.東京都下水道 91.医学部附属病院立体駐車場 97-1.基幹整備(流域®排水)A区 97-2.基幹整備(流域®排水)B区 101ドナルド・マクドナルド・ハウス東大 113.医学部附属病院入院棟II期 125.クリニカルリサーチセンター 4根 148、国際科学インベーション総括棟新営 182.医学部附属病院CRC棟ほか外構設置 235.看護師宿舎擁壁 277.医学部附属病院基幹整備(共同溝(HWK19)



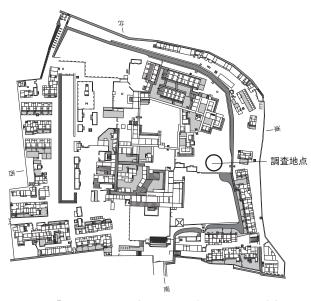
I-2図 本郷キャンパスの地形(1/20000)



I-4図 「池之端東屋敷絵図」のうち「同所惣絵図」 (前田文書294 富山県立図書館所蔵)と調査地点

富山藩邸については文献史料、絵図面を用い詳細な研究がなされている(小松 2015)。1855 ~ 1868 年の絵図面と推測される「天保富山城本丸御殿絵図」(T091.71-13)によると、調査地点は御殿東側の不忍池の西側に拡がる低地の上段にあたり、御殿空間の空閑地であったことが予想される(I-3図)。

また 1846 年以降と推測される絵図面「池之端東屋敷絵図」(前田文書 294) では、この段差に階段が設けられており、調査地点は稲荷社の前面に位置すると考えられる (1-4 図)。また近代に至り、同地は明治 6 (1873) 年 5 月に文部省用地となり、当該区はヨーロッパやアメリカなどから招聘された御雇い教師が居住する教師館



I-3図 「天保富山城本丸御殿絵図(T091.71-13)」 (富山県立図書館所蔵をトレース)と調査地点



I-5図 五千分一東京測量原図と調査地点

が建設され、明治7 (1874) 年には東京医学校の建設が 開始され、同地は現在に至るまで病院地区として利用さ れている。

作成年 1883 年の「参謀本部陸軍測量局五千分一東京 図測量原図」(一般財団法人日本地図センター 2011)では、調査地点は「別課医学教場」の東側に位置し、おそらく前述「池之端東屋敷絵図」(前田文書 294)の階段部分の痕跡を残した地形をとなっており、同絵図面が明治直前の様相を描いたものと推測される。

第Ⅱ章 調査の経緯と概要

第1節 調査に至る経緯

医学部附属病院では病院地区の基幹整備を1984年以来継続的に行なっており、今回の調査は看護職員等宿舎建設に伴う整備の一環として、ゴミ置き場の設置工事にともなうものである。

調査地点は東京都遺跡地図文京区 No.47 本郷台遺跡群内に位置し、周知の遺跡として認識されており、建設工事に先立って遺跡の遺存状態に応じて埋蔵文化財の調査を実施する必要があった。東京大学附属病院から依頼を受けた東京大学埋蔵文化財調査室では、これを受け平成7(1995)年1月24日に、対象範囲の北西部に2.5m×2.5m、深度GL-2.3mまでの試掘を行い、近世期の整地層、礎石および古墳時代以前の自然堆積層が確認されたため、同年1月31日から同年3月3日まで、対象面積71.3㎡の発掘調査を実施した。

第2節 調査の方法と経過

(1) 調査の方法 (Ⅱ - 1 図)

発掘調査は、建物工事に伴って根切りを行う範囲を対象にした。調査はグリッド法を用い、調査区形状に合わせ2×2mでグリッドを設定した。グリッドの名称は、南北をアルファベット、東西をアラビア数字によって表し、それぞれ南から北、西から東へ増番を付した。

A1 の座標は世界測地系で X= - 31940.263、Y= - 5995.166 で、グリッド南北軸は1°28′8″東へ振れている。

(2)調査の経過

現地表面下約0.8~1.5mのアスファルト、コンクリードガラを含む現代の盛土層をバックホーで掘削したところ、部分的に小円礫・炭化物を含むプライマリーな面を検出したため、最初の検出面をA1面とし、遺構の調査を行った。検出面での遺構の調査終了後、さらに下位の堆積土を人力掘削し生活面の検出を行い、合計7面の近世期の生活面の調査を終了後、ローム層上面で古墳・縄文時代の遺構の調査を行った。

第3節 調査の概要(Ⅱ-1図、Ⅱ-1表)

本調査では、縄文時代早期~前期の竪穴建物3基と土器・礫、古墳時代の竪穴建物が3基と土器、江戸時代加

賀藩本郷邸(富山藩邸)に伴う遺構が47基、出土遺物 はコンテナ箱にして24箱を取り上げた。

第4節 基本層序(Ⅱ-2図)

調査区は台地東縁辺部に位置し、不忍池に接する低地 の西側の段丘上に位置しており、自然地形は西から東と 南から北への緩傾斜が見られた。

最上位層から地山(ローム層)まで垂直方向に通して 堆積を観察可能な箇所はなかったため、模式図を作成し た(I-2図)。

調査区が狭小であるが、薄い盛土層の堆積が重畳的に 観察された。地表面下にはアスファルト片、コンクリートガラなどが含まれる現代の盛土層が暑く堆積していた が、現代の撹乱を受けていない包含層が G.L. - 約 0.8m から遺存しており、これを A1 層と称した。この包含層 は生活面を有してないが、下位層の最上部は小円礫を含 み、堅くしまっており整地面と考えられた。この面を A2 面とし遺構の検出を行った。A2 面は最厚部でも約 6cm 程度と薄い。

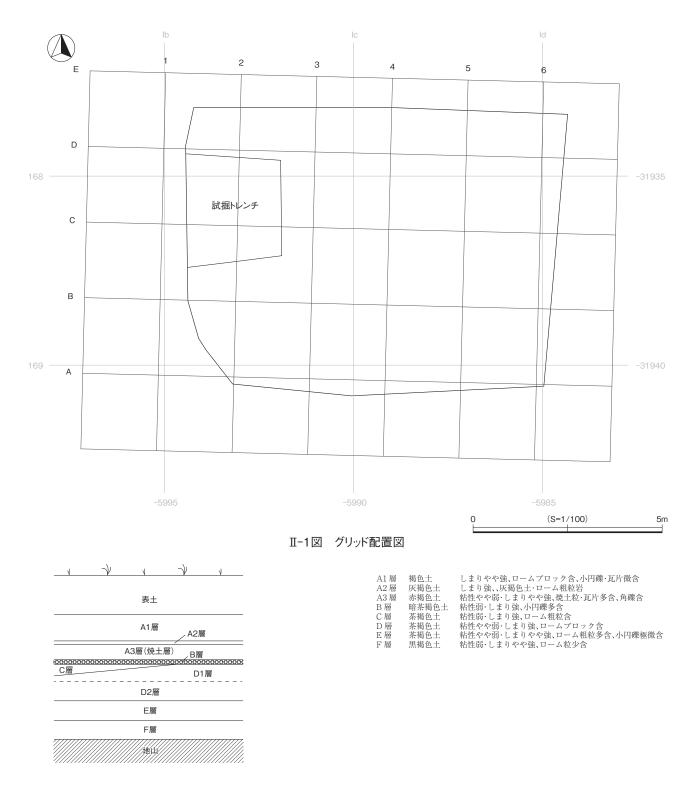
A2 層下位の A3 層には焼土粒を多く含んだ層位が検出された。角礫、瓦片を多く含み、層厚が約 20 ~ 40cm と厚く、短期間での盛土と考えられ、含まれる遺物から文政 8 (1925) 年の火災にともなうと考えられる。

この A3 層下位には上面に円礫を敷き詰めた整地層が、検出されている。上記、文政 8 (1925) 年以前に使用されていた生活面と考えられ、B面とした。B層の層厚は $4\sim12\mathrm{cm}$ である。

B面下には茶褐色土を主体とする堆積土がみられ、調査区の東と西側では土質を異にする。どちらも上部に遺構が検出され、東側に堆積する層位を C 層とし、西側に堆積する層位を D1 層の称した。 D1 層は土質の類似した下位の層を有し、整合面でも遺構が検出されたため、 D2 層と峻別している。

D2層下位にはローム粗粒を多く含む、茶褐色土の盛土が堆積していた。これをE層と称した。主に北側での堆積が確認され、層厚は約8cmと薄い。近世期最下層となる。

E層下部には黒褐色土の自然堆積層が検出されている。調査区全体が遺構または撹乱のため、調査区北壁で確認できたのみであるが、古墳時代の遺構の上部に堆積している。いわゆる新規富士テフラを含む富士黒層と考えられる。これをF層と称した。

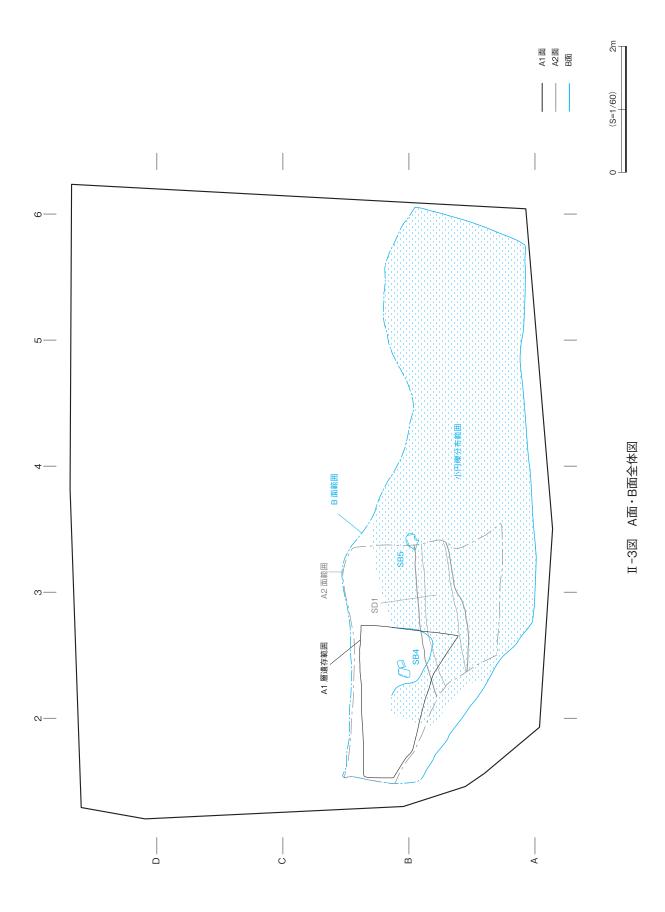


Ⅱ-2図 基本層序模式図

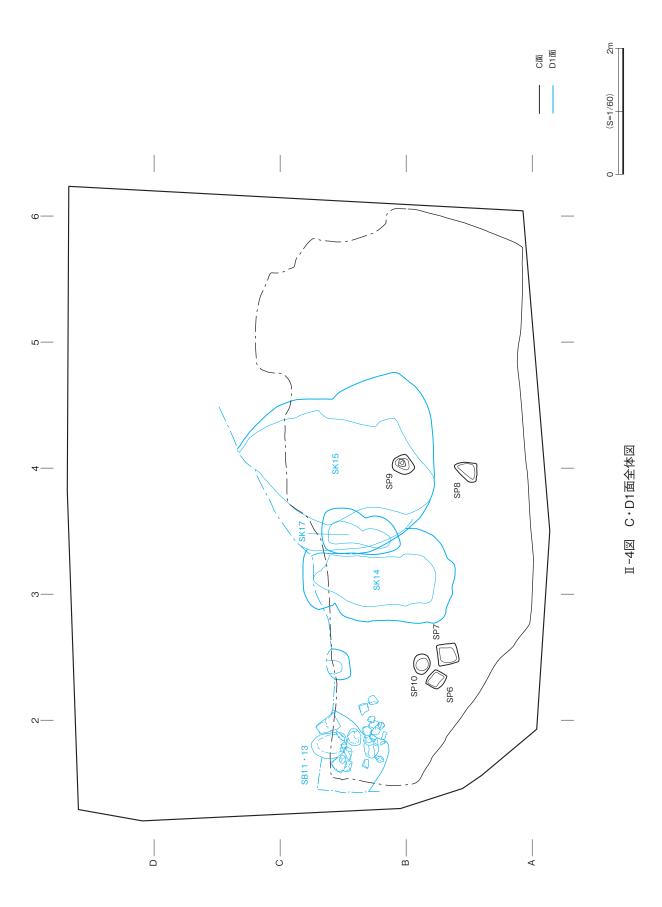
F層下部には関東ローム層が全域に堆積している。いわゆる漸移層はほぼ全調査区が近世・古墳時代・縄文時代の遺構のため、明確には検出されていない。

Ⅱ-1表 遺構一覧表(1)

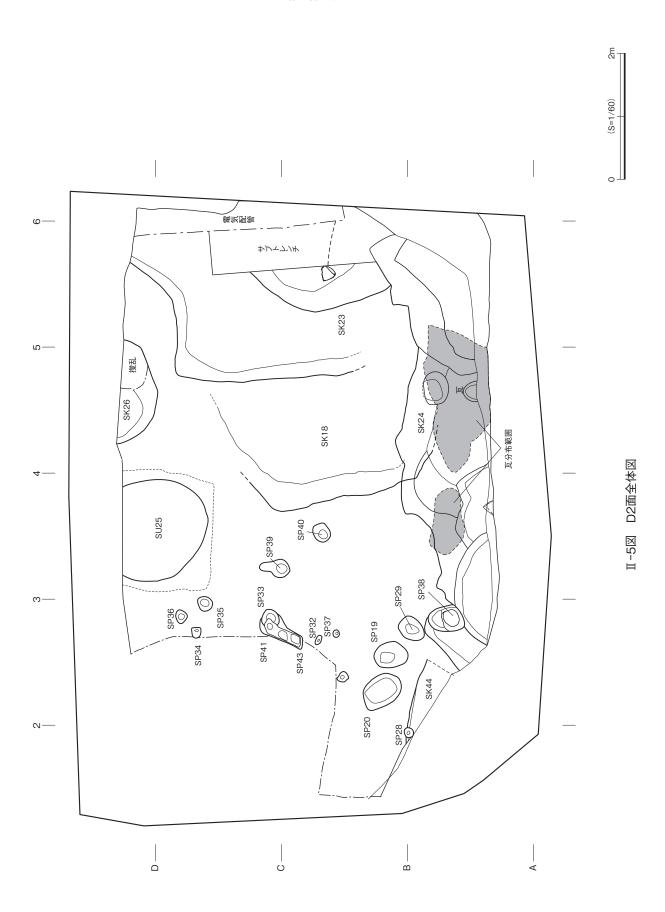
種別	No.	グリッド	面	年 代	遺構	遺物	切り合い	備考
SD	1	B2 · B3	A-2 面		Ⅲ -1			
欠番	2							A3 層と判明
欠番	3							
SB	4	B2 · C2	B面					
SB	5	B3 · C3	B面					
SP	6	B2	C面					
SP	7	B2	C面					
SP	8	B3 · B4	C面					
SP	9	B3 · C3 · B4 · C4	C面					
SP	10	B2	C面					
SB	11	C1 · C2	D面		Ⅲ -2			
SU	12	C1 · B2 · C2	E面	18c ?	Ⅲ -8	Ⅲ -10		
SB	13	C1 · C2	D1 面		Ⅲ -2			
SK	14	B2 · B3 · C2 · C3	D1 面	18c 後~ 19c 初	Ⅲ -3	Ⅲ -10	SK15>SK17>SK14	
SK	15	B3 · C3 · B4 · C4	D1 面		Ⅲ -4		SK15>SK17>SK14	
欠番	16							
SK	17	C3	D1 面				SK15>SK17>SK14	
SK	18	B3 · C3 · C3	D-2 面	18c 後~ 19c 初	Ⅲ -5	Ⅲ -10 ~ 13	SK23>SK18	
SP	19	C2	D-2 面	18c				
SP	20	C2	D-2 面					
欠番	21							
欠番	22							
SK	23	C4 · D4 · C5 · D5 · E5	D-2 面	18c 後~ 19c 初	Ⅲ -5	Ⅲ -13	SK23>SK18	
SK	24	B2 · B3 · C3 · B4 · C4 · B5 · C5	D-2 面	19 前	Ⅲ -6	Ⅲ 13、14		
SU	25	D3 · E3 · D4 · E4	D-2 面	19 初	Ⅲ -7			
SK	26	E3 · D4 · E4 · E5	D-2 面		Ⅲ -7			
SK	27	D3 · C4 · D4 · E5 · C5 · D5 · E5	E面		Ⅲ -9			
SP	28	B1 · C1	D-2 面					
SP	29	B2 · C2	D-2 面					
欠番	30							
欠番	31							
SP	32	B2	D-2 面					
SP	33		D-2 面					
SP	34	D2	D-2 面					
SP	35	D2 · D3	D-2 面					
SP	36	D2	D-2 面					
SP	37	B2	D-2 面					
SP	38	B2	D-2 面					
SP	39	В3 • С3	D-2 面					
SP	40	C3	D-2 面					
SP	41	D2	D-2 面					
欠番	42							
SP	43	C2	D-2 面					
SK	44	B1 · C1 · C2	D-2 面					
SK	45	C4	E面					
SK	46	C4 · C5	E面					
SK	47	C4 · D4	E面					
欠番	48							
欠番	49							



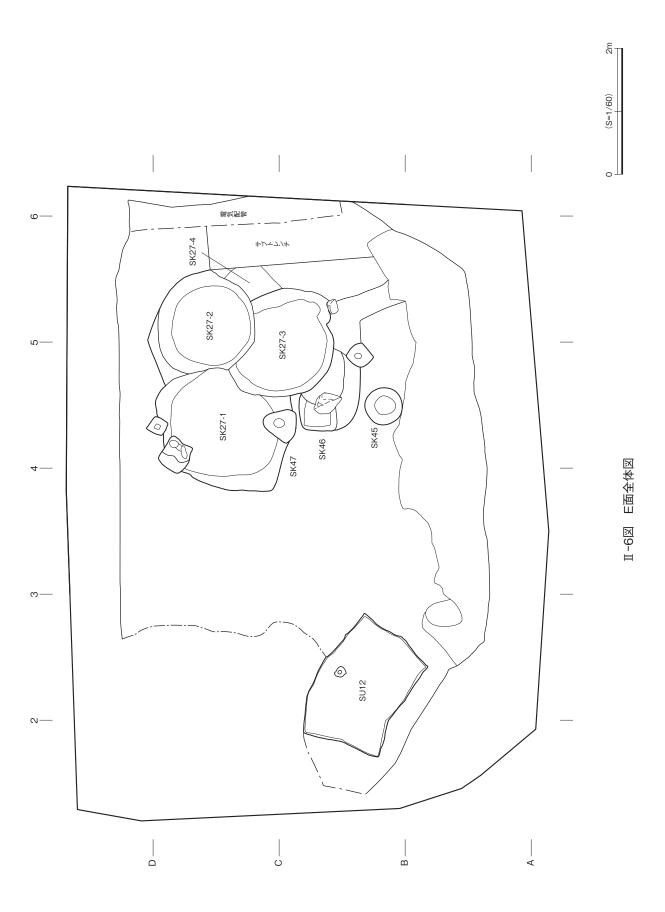




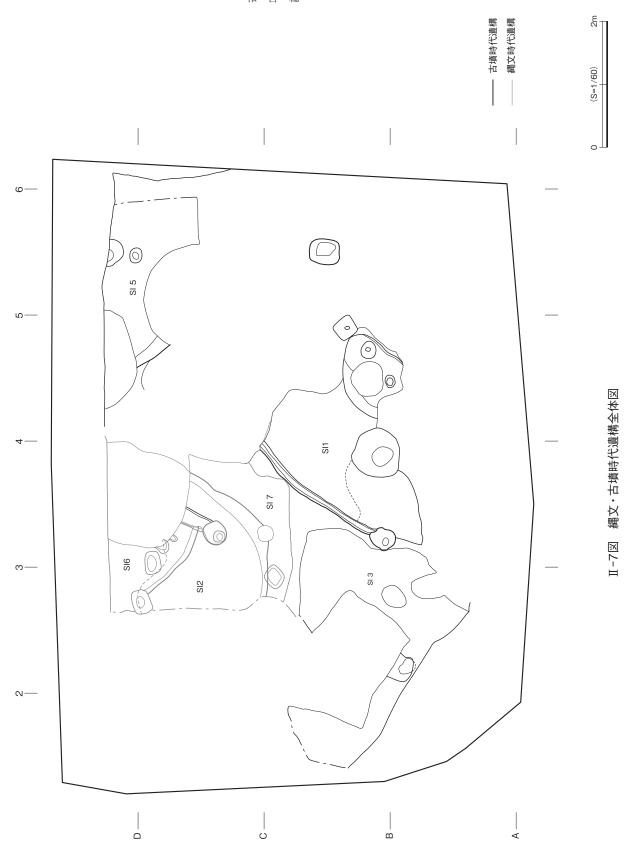














第Ⅲ章 遺構・遺物

第1節 近世の遺構と遺物

今回の調査で鍵層となるのは焼土を多く含んだ A3 層である。調査時点では焼土を含む遺構と認識されていたが、層序の精査や出土した遺物の様相から包含層と考えられ、その帰属時期を文政 8(1925)年の火災に求めることができる。したがい A3 層上部から検出された遺構と、下位から出土した遺構に区別することが、可能であった。

A1層は上部が現代による撹乱を受け、生活面は遺存していないので範囲を検出したのみである(II-3図)。 A2面では溝を1基検出した(SD1)。

A3層下部には小円礫を敷き詰めた硬化面(B面)が拡がり、礎石の可能性が考えられる礫を据えた遺構が検出されている(SB4、SB5)。上述したように火災層の下部に検出されることから、文政8(1925)年の生活面と考えられる。

C面からは土抗、礎石が検出されている。C層および D1層は分布範囲を違え堆積しているが、明確に時期の 違いは判断できなかった。

D2面は南側に瓦を敷き詰めた分布範囲を有していることから、生活面と考えられる。土抗・ピットが検出されている。不整形な土抗や浅く規模の大きい土坑は採土抗の可能性もえられる。

E面は近世の最下面であり、円形の掘込みを持つ植栽 痕と考えられる土坑や地下室が検出されている。

以下各遺構について詳述する。

遺構

SD1 (遺構Ⅲ -1 図)

調査区南西の B2、B3 グリッドで検出されている。南 北の規模は $0.54\sim0.74\mathrm{m}$ であるが、東側・西側ともに 撹乱を受け、全体の規模は判明していない。A2 面に帰 属する。検出面から底部までの深さは最深部で約 $5\mathrm{cm}$ と浅い。覆土は黒褐色土で含有物は少ない。

遺物は出土していない。

SB11、SB13(遺構Ⅲ-2図)

調査区南西の C1 グリッドで検出される。西側が撹乱され、北側が試掘の際に掘削されたため、全体の規模は判明していない。D1 面に帰属する。約 $7 \sim 31 \text{cm}$ の角礫と $28 \sim 56 \text{cm}$ の円礫を使用している。礎石と思われる。大形の円礫が主柱穴を支持していたのではないかと

考えられる。関連する他の礎石遺構は検出されなかった。 掘方の主軸は N-25°-W で、近世期の他の遺構と異なる。 II-4 図で示した絵図面の「稲荷社」に関係する可能性 も考えられる。

SK14 (遺構Ⅲ-3 図、遺物Ⅲ-10 図)

調査区中央の C2、C3、B2、B3 グリッドで検出される。 南北 2.4m 東西 1.5m の規模で断面形状は浅い U 字形を 呈する。D1 面に帰属する。覆土には灰褐色土のブロッ クを多く含むことが特徴的で、周囲の調査地点では散見 され、看護職員等宿舎 1 号棟地点の SK14 などに類似す る。図示した瓦片のみが出土している。

SK15 (遺構Ⅲ-4図)

調査区ほぼ中央のB3、B4、C3、C4グリッドで検出される。南北3.1m、東西2.8mの規模で、不整形で浅い皿状を呈し、最深部は0.28mである。D1面に帰属する。 覆土の1層は瓦片を多く含む。SK14より新しい。

SK18(遺構Ⅲ-5図、遺物Ⅲ-10~13図)

調査区中央のB3、B4、C3、C4 グリッドで検出される。SK23 より古い。形状は不整形で最深部も検出面から 0.11m と浅く掘り上がり形は東側で不鮮明となる。

陶磁器類は収納箱3箱が出土しているが、SK23と区別できずに取り上げた遺物も多い。

出土遺物は18世紀後半から19世紀初頭である。

SK23 (遺構Ⅲ-5 図、遺物Ⅲ-13 図)

調査区中央 C4、C5、D4、D5 グリッドで検出される。 平面形は不整形で北側・東側は調査区外に続いていると 考えられる。D2 面に帰属する。東側に一段低いテラス 部分を有している。採土坑の可能性が考えられる。

出土遺物はSK18と区別できていない。

SK24 (遺構Ⅲ-6 図、遺物Ⅲ-13、14 図)

調査区南のB2~B5グリッドで検出される。南側は 調査区外へ続いていると考えられる。D2面に帰属する。

いくつかの円形の掘方が連なり不整形を呈し、深度も 一定ではない。覆土は調査区南壁で観察され、様相から 複数回の人為的埋め戻しが看取できる。採土坑を利用し た廃棄坑の可能性が考えられる。

収納箱 2 箱の陶磁器が出土している。陶磁器の時期は 19 世紀前半が考えられる。

SU25 (遺構Ⅲ -7 図)

調査区北のD3、E3グリッドで検出されている。北側 は調査区外へ続いていると考えられる。D2面に帰属す る。南北1.4m以上、東西1.9mの規模で、ほぼ円形の 開口部を有し、袋状を呈する地下室である。覆土下部に はロームブロックが多量に混入しており、天井部であっ た可能性が考えられる。

陶磁器の出土はわずかであるが、19世紀初頭の所産 と考えられる。

SK26 (遺構Ⅲ -7 図)

調査区北の E4 グリッドに検出される。北側は調査区外へ続いていると考えられる。東側を撹乱される。D2 面に帰属する。遺存部分の東西規模は 1.6m を測る。壁面は垂直に近く立ち上がる。

遺物は出土していない。

SU12 (遺構Ⅲ8図、遺物Ⅲ-10図)

調査区西の C2、C3 グリッドで検出される。北西南北 2.1m、北東南西 1.6m を測る。E 面に帰属する。主軸は N-36-W で平面形は方形である。遺構の性格は地下室と 考えられるが天井部の痕跡は確認できなかった。 覆土は 一時期の埋め戻しと考えられる。

陶磁器は収納箱 1/2 の陶磁器類が出土しているが、図示した 2 に類する大形のカワラケの皿の破片 3 枚出土している。遺構の帰属時期は 18 世紀代と考えられる。

SK27 (遺構Ⅲ-9 図)

調査区東の B ~ E、3~5 グリッドで検出される。E 面に帰属する。約 1.5m ~ 2.1m の規模の 4 つの円形の掘込みが確認された。調査時点では同一の遺構としてしていたが、今回の整理作業で枝番 1 ~ 4 付した。覆土の様相から 1、2 層は SK27-1 で、3 ~ 4 は SK27-3 と考えられ、時期差を有する可能性が考えられる。形状・深度から植栽痕と考えられる。

遺物は出土していない。

遺物

看護職員等宿舎ゴミ置き場地点からは、遺物収納箱に して24箱の近世期の遺物が出土している。

本章の報告で使用している陶磁器・土器の分類基準は「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)」(東京大学埋蔵文化財調査室 1999)を基に作成した最新版(分類 Ver.4.1)に準拠している(東京大学埋蔵文化財調査室 2016)。人形・玩具の分類基準は、「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の分類」(安芸・小林・堀内 2012)に、瓦の分類基準は加藤氏の分類(加藤 1992)に拠っている。

また本文中の東京大学構内遺跡の段階設定や年代などの記載は「東京大学構内の遺跡における年代的考察」(堀内1997)「東京大学構内遺跡編年修正について」(堀内2021)を基にし、遺構の年代は、遺物個々の出土年代を推定した「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(2)

(大成 2011)を参考にし、行っている。なお、上記分類 基準は江戸時代の出土遺物を主に対象としている。近代 以降の製品については基準を設定しておらず、また分類 が困難な製品も多く存在することから判別が可能な製品 についてのみ表記を行った。

SU12 (遺構Ⅲ-8 図、遺物Ⅲ-10 図)

1、2は土器の皿で1はDZ-2-bに分類される。2は大形の皿で灯心痕は確認できない。ともに江戸式に分類される。

3が平瓦で側面に○の刻印が施される。

SK14 (遺構Ⅲ-3 図、遺物Ⅲ-10 図)

1 は江戸式の軒平瓦で「○」の刻印が施される。

SK18(遺構Ⅲ-5図、遺物Ⅲ-10~13図)

 $1 \sim 13$ は磁器で $1 \sim 3$ は碗である。1、2 は JB-1-f に分類され、1 は梅、2 は竹が描かれる。2 は焼成を受けている。3 は底部付近が遺存しているのみであるが、高台部が高いことから JB-1-m の広東碗と思われる。見込みに文様が描かれる。 $4 \sim 10$ は皿で、4 は JB-2-i で高台内に蛇ノ目釉剥ぎがみられる。 $5 \sim 8$ は JB-2-q である。6 は外形がすべて遺存していないが同類に分類されると考えられる。9 は JB-2-o で器高は低い。10 は厚手のくらわんか手の皿である。JB-2-g に分類される。底部には寿の崩し字が描かれている。11 は JB-13-a で蓋物の碗である。12 は仏飯器で JC-8-c である。蛸唐草が描かれ、底部の抉りは浅い。

14~21 は陶器である。14~16 は京都・信楽系の 所産で胎土は白く緻密で、高台もシャープに削り出され る。14、15 は TD-1-d で底部にはともに墨書が描かれる。 15 は「池」であろう。16 は TD-1-c で、17 は瀬戸美 濃系の碗で TC-1-n の平碗で、ある。18 はいわゆる鎧手 の鉢で TC-5 に分類される。19 は石皿で呉須、鉄絵が 描かれる。内部には同心円に6つのピン痕が看取できる。 20、21 は2合半の灰釉徳利で TC-10-c つけ掛で釘書き がある。

22~35 は土器で22~26 は DZ-2 に分類される。 22 には透明釉が施釉され DZ-2-h に分類され、26 は底部に穿孔を有することから DZ-2-i に分類される。27 は耳カワラケで DZ-2-f である。23 はいわゆるミガキカワラケで内外面ともに平滑に磨かれ、外面色は黒色を呈す。所々に灯心痕が看取できる。DZ-2-d に分類される。28 は燈明皿で無釉である。DZ-40-d に分類される。29 は瓦質の火鉢で縮れ文が施文される。30 は焼塩壺で刻印は持たずロクロ成形である。DZ-51-w に分類される。33、35 はともに焼塩壺で35 は 34 とセットの蓋で「桃

州浪花」と刻印される。本郷構内では加賀藩邸内での出土はみられず、隣接する看護職員等宿舎1号棟地点のSB11から出土している。小川分類のオ類②に比定できる(小川2008)。32、33は玩具で33は京都・信楽系の玩具の土瓶である。31は中空の板状粘土の貼り合わせ成形で、犬をモチーフとしている。胎質から在地系と考えられる。

SK18·SK23(遺構Ⅲ-5図、遺物Ⅲ-13図)

SK18 と SK23 は切り合いを持つ遺構であり、掘削開始時点で両遺構を区別できなかった箇所から検出されたものを掲載している。 $1\sim5$ は磁器である。1 は肥前系染付碗で JB-1-m で高台の高い広東碗である。2 は輪花の JB-2-q に分類される皿である。3 は腰の張った皿で口縁部に肥厚がみられる。JB-2-f に分類される。4 は立ち上がりの急な碗で器形は小広東碗に類似する。5 は大ぶりの碗で型打ちによる成形である。見込みには松竹梅が描かれ、外面は蛸唐草を主文様とし、底部には「成化年製」が描かれる。

6 は陶器の碗で、TD-1-d に分類される。底部に「池」 の墨書が書かれている。

 $7 \sim 12$ は土器で 7、8 は DZ-2-b でいわゆる「江戸式」である。9、11、12 は焼塩壺で 11、12 は蓋である。9 は無刻印のロクロ成形で DZ-51-w である。11 は DZ-00-g 断面が長方形を呈し、無印刻印の塩壺蓋である。12 は SK18 の 35 と同形式である。10 の胎土色は白橙色で外面は丁寧に磨かれ底部には 3 条の太い抉りがみられる。前カワラケと思われる。見込みには二重枠の「樂」の刻印が施される。歴代の樂茶碗の刻印では同型のものは見当たらず、写しではなく模した刻印と考えられる。SK24(遺構 III -13 -14 図)

 $1\sim5$ は磁器であり、1 は碗である。1 は腰部が貼り高台形は U 字状を呈し、上部はハの字状に開く JB-1-q に分類される。2 は蓋物の身で、形状は小丸碗状である。 JB-13-a。3 は仏飯器で JC-8 分類される。器高は高めで底部の抉りは浅い。4、5 は蓋で、4 は JB-1-q、5 は JB-1-m の蓋である。

6は TD-1-g に分類される陶器の碗で端反りの断面形状を呈し、全体に細かい貫入が入る。7は鉄釉の土瓶で、胎土は灰色を呈し硬質である。TZ-34-1に分類される。8、9は土瓶の蓋である。8は灰釉である。

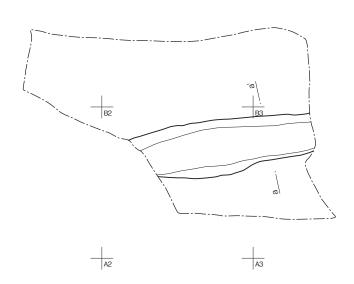
 $11 \sim 19$ は土器で 13 は DZ-2-b に分類される。灯芯痕が看取できる。底部にはわずかに墨書が認められるが判読はできなかった。14 は大形のカワラケ皿で江戸式 DZ-2-k に分類される。15 は DZ-31-a に分類される土師質の火鉢である。16、17、19 は焼塩壺で 19 は蓋である。

17、19 は赤化し外面は赤色を呈す。16、17 に刻印は 認められない。DZ-51-w に分類される。20 は軒丸が剣 梅鉢文で中心飾りは不明であるが、唐草・子葉は Li に 比定される。21 の瓦当文様は丁字梅鉢文である。22 は 古寛永通寳である。「寳」の足がやや退行し、通の字の 頭が「ユ頭」状を呈す。 I b 期(1656~1659年 川根 2001)鳥越銭に分類される。23 は銅製で飾り金具と考えられる。

A3層(遺物Ⅲ-15図)

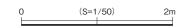
1 は瀬戸・美濃系の碗で、端反形坏を呈する。JC-1-d に分類される。2 は肥前系の皿で、高台内は蛇ノ目釉 剥ぎがみとめられる。JB-2-i に分類される。底部には釘 書きが認められる。3、4 は京都・信楽系で、3 は TD-40-b に分類される油受皿、4 は燈明皿で TD-2-b に分類される。5 は江戸式に分類される軒桟瓦で、軒丸部が連珠三つ巴文 C、軒平部が江戸式Ⅲ Lj に分類される。



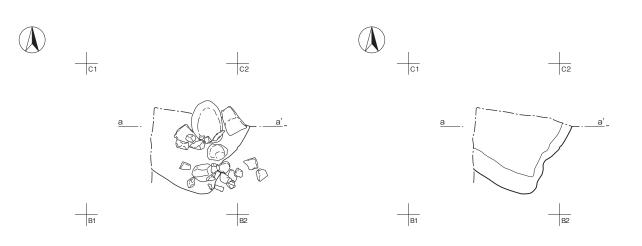




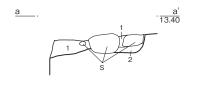
1 黒褐色土 しまり強



Ⅲ-1図 SD 1



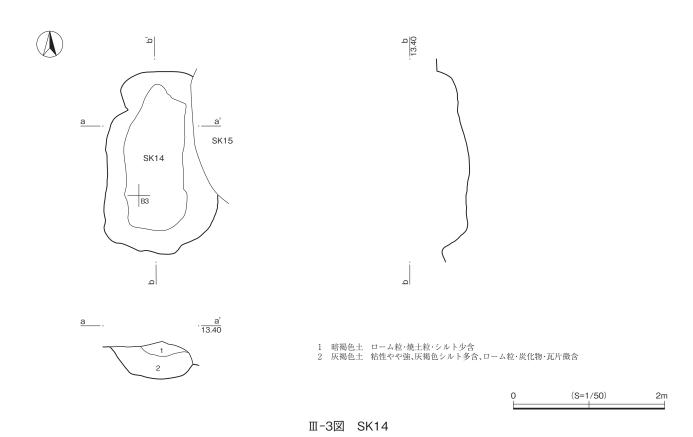
石検出 掘方

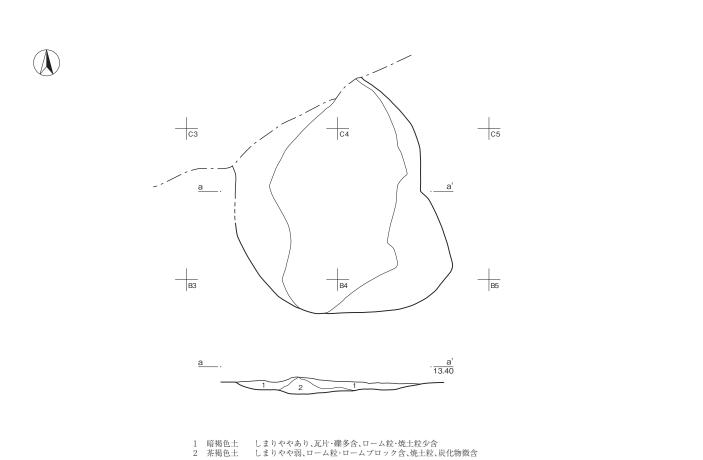


1 茶褐色土 ローム粒含、炭化物・焼土粒少含 2 茶褐色土 しまり強、ローム粒・小円礫少含

0 (S=1/50) 2m

Ⅲ-2図 SB11、SB13



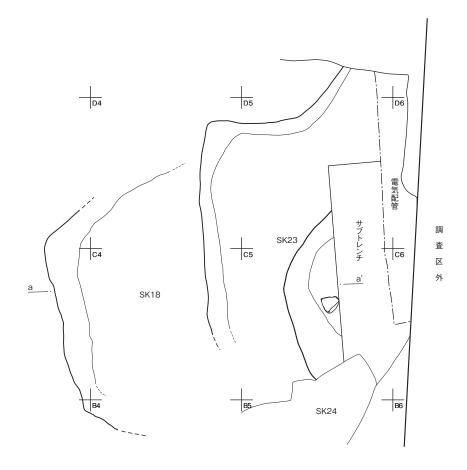


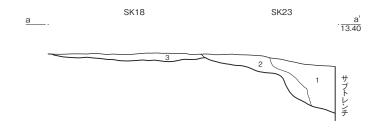
Ⅲ-4図 SK15

(S=1/50)

2m







焼土粒含、ローム粒少含 しまり弱、焼土粒・炭化物多含、ローム粗粒少含

 SK23

 1 茶褐色土
 焼土粒含、ローム粒少含

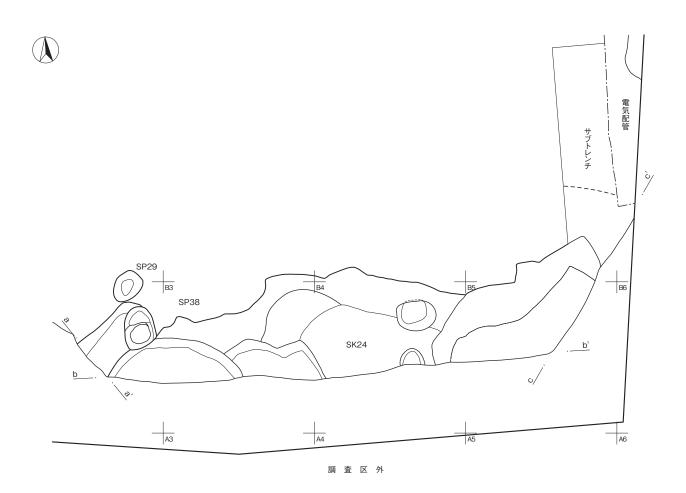
 2 茶褐色土
 Uより弱、焼土粒・炭化物

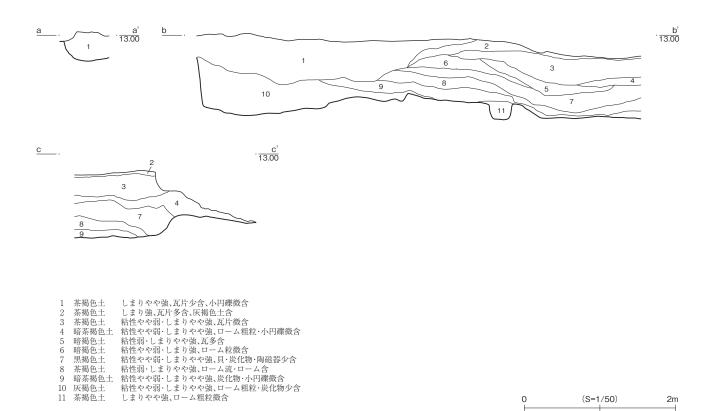
 SK18

 3 黒褐色土
 炭化物多含、焼土粒少含

(S=1/50)

Ⅲ-5図 SK18、SK23

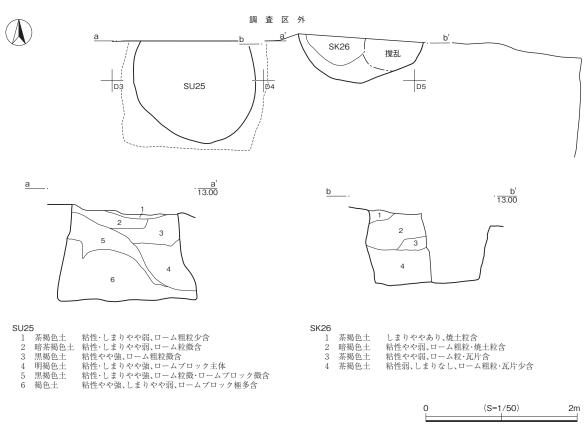




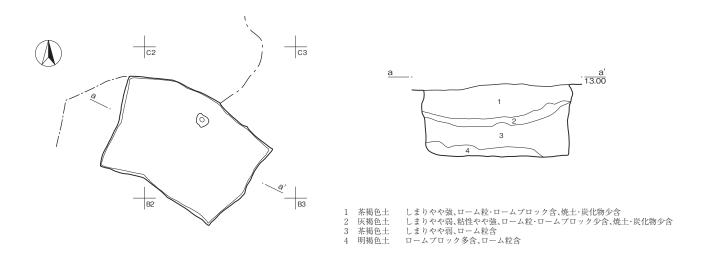
II-6図 SK24

(S=1/50)

2m



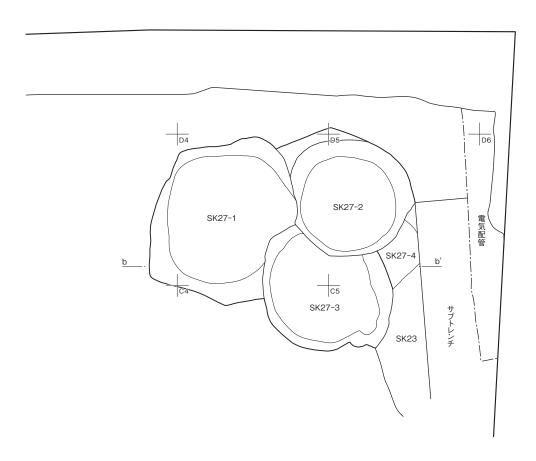
Ⅲ-7図 SU25、SK26

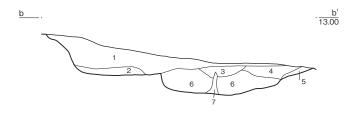


Ⅲ-8図 SU12

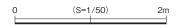
(S=1/50)



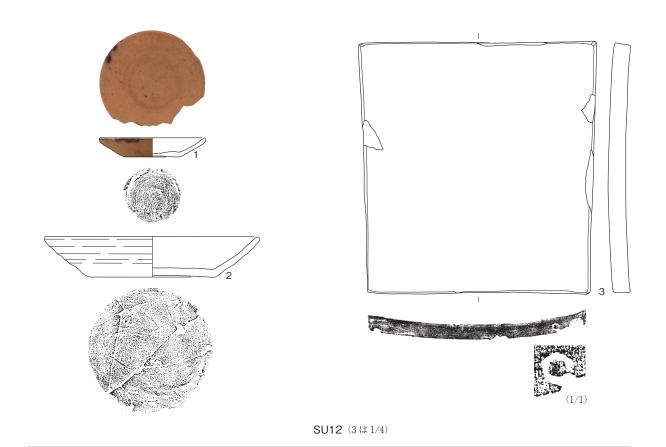




SK27 1 暗褐色土 2 茶褐色土 3 黒褐色土 4 茶褐色土 5 茶褐色土 6 茶褐色土 7 暗褐色土 ローム粒少含
粘性ややあり、ローム粒含、ローム粗粒少含
ローム粒・炭化物・焼土粒少含、
ローム粒含
ローム粗粒少合
しーム粗粒少合
しまりやや強、ローム粒・ロームブロック多含
粘性弱、しまりやや強、ロームだ、ロームブロック少含、柱穴か



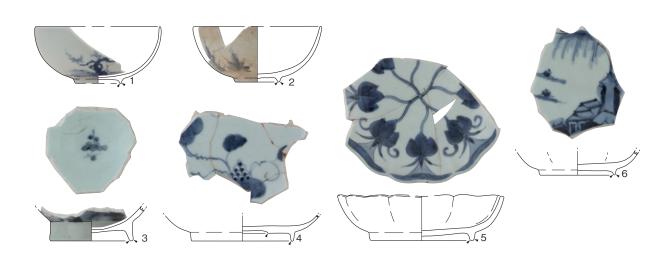
Ⅲ-9図 SK27







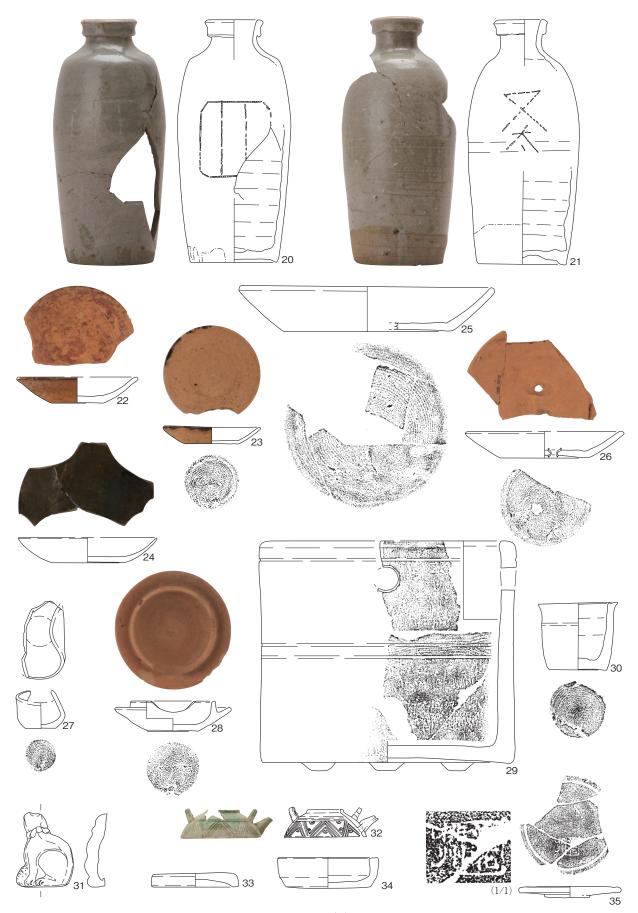
SK14 (1/4)



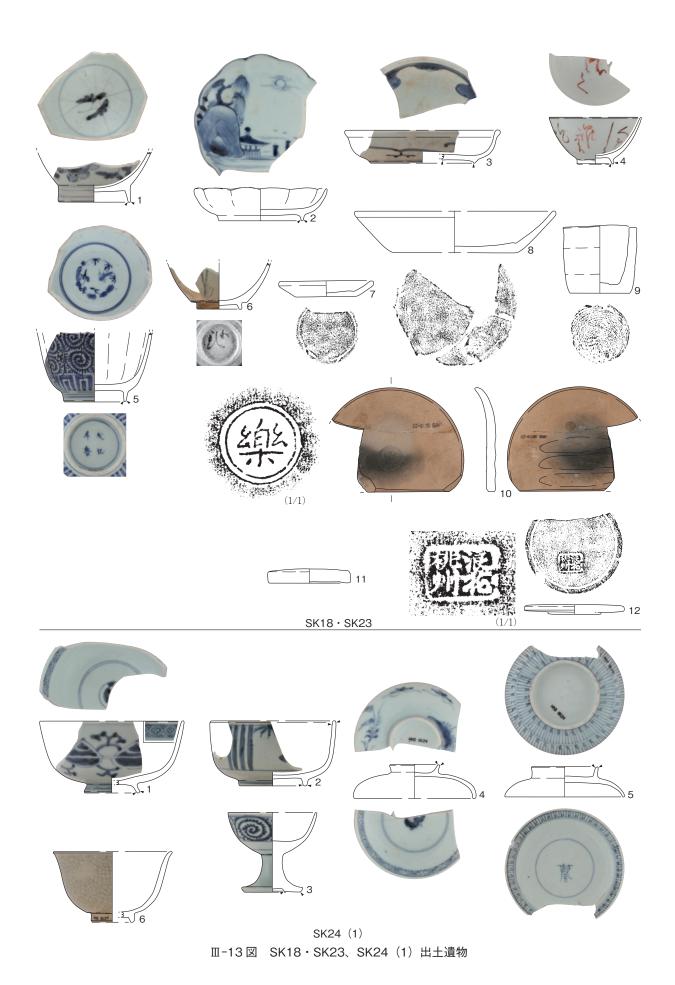
SK18 (1) Ⅲ-10 図 SU12、SK14、SK18 (1) 出土遺物



Ⅲ-11 図 SK18 (2) 出土遺物



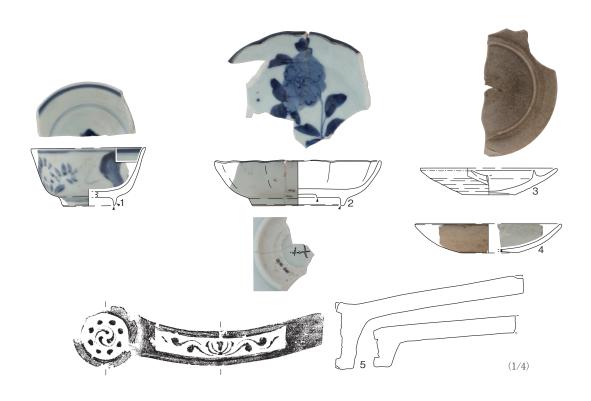
Ⅲ-12 図 SK18 (3) 出土遺物



123



Ⅲ-14 図 SK24 (2) 出土遺物 (20 ~ 21 は 1/4、22 は 1/1、23 は 1/2)



Ⅲ-15 図 A3 層出土遺物

第2節 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では古墳時代に属する遺構として、竪穴建物が3基検出されている。竪穴建物の帰属年代は、弥生時代後期終末期~古墳出現期に属する竪穴建物が1基、中期に属する竪穴建物が1基、時期不明の竪穴建物が1基である。その多くは後代の遺構による撹乱を受け、遺構の全容は把握できてはいない。

以下各遺構を詳述する。

遺構

SI1 (遺構Ⅲ-17 図、遺物Ⅲ-20 図)

調査区中央部 $A3 \sim C3$ 、 $A4 \sim C4$ グリッドで検出されている。北東・南側が近世遺構により壊され、全体の規模は不明である。北西壁の一部が遺存しているのみであるが、遺構の主軸は東へ 25° 振れている。西側に隣接する SI3 より古い。

検出面から床面までの最深部は 0.15m で、掘方の最深部は床面から 0.14m である。床面にはわずかに硬化がみられる。掘方底面は粗いが平坦に掘られている。周溝は遺存した北西壁下に検出される。壁面は垂直に近く立ち上がっている。

ピットは5基検出され、P2は主柱穴と考えられる。 炉は遺構の東側に検出されているが、上部が近世遺構に 撹乱されるため、遺存部分はわずかである。

覆土は茶褐色土~暗褐色土を主体とし、レンズ状に堆 積している。掘方埋土はロームを主体とする。

遺物は39点出土し、縄文時代の土器が4点、焼礫が 4点含まれている。古墳時代の土器は小片が主体である。 出土遺物から廃絶時期は、弥生時代後期終末期~古墳 出現期と考えられる。

SI3 (遺構Ⅲ-18 図、遺物Ⅲ-20 図)

調査区西のB、C、 $1 \sim 3$ グリッドで検出されている。 SII より新しい。

南西側は調査区外で北側・南東側も撹乱を受けるため、 全体の規模・主軸は不明である。

床面の硬化は顕著ではない。確認面から床面までの最深部は0.31 mで、床面から掘方底部までは0.17mである。 炉は検出されていない。

覆土は暗褐色土、黒褐色土で焼土粒・ローム粒・炭化 物を含んでおり、しまりは強い。

遺物が148点と遺存度の割に多く出土している。土器は小片がほとんどで、焼礫が14点含まれていた。

出土遺物から、廃絶時期は古墳時代中期と考えられる。 SI5 (遺構Ⅲ-19図) 調査区北東の D4、D5、E4、E5 グリッドで検出される。 南西側壁の一部分が遺存していたのみで、全体の規模は 不明である。北側・東側は調査区外へと続いていると考 えられる。

覆土は黒褐色土でしまりが弱い。床面の硬化はわずか で、掘方はローム粗粒を主体とする。

遺物は4点出土しているが、いずれも小片である。 廃絶年代は不明である。

遺物

SI1 (遺構Ⅲ-17 図、遺物Ⅲ-20 図)

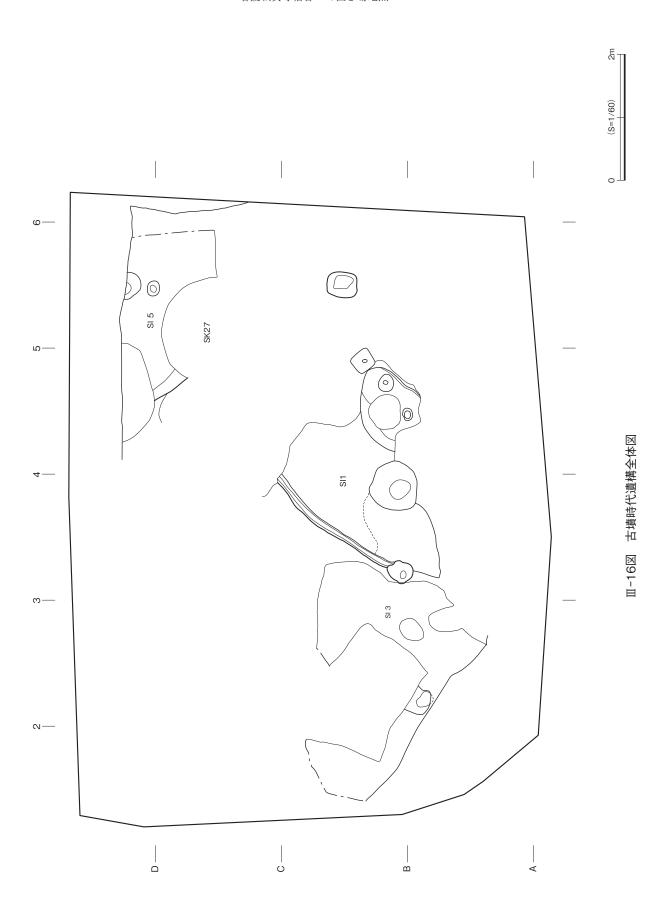
SI1 からは 39 点の遺物が出土している。多くは細片で図示できる遺物は少ない。このうち本遺構の廃絶時期を示す土器を中心に 2 点を報告する。

1 は網目状撚糸文を模した、櫛状工具による斜格子文を有する、赤彩された壺の肩部片である。斜格子文下位に横方向のミガキがみられる。胎土色は橙褐色を呈し、直径 1mm 程度の白色砂粒を含む。2 は口縁端部にキザミをもつ台付甕の口縁部である。いずれも口縁端部に木口状工具による押捺が認められる。外面は子褐色で内面はにぶい黄褐色を呈す。

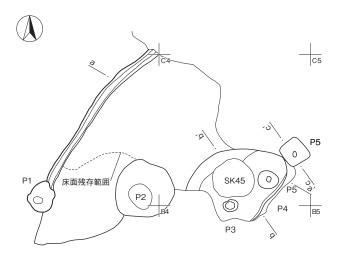
SI3 (遺構Ⅲ-18 図、遺物Ⅲ-20 図)

1 は甕の口縁部で、1.5mm 幅のハケメが施される。 残存部は小さいが、「く」の字状を呈す。外面色はにぶい黄褐色~黄橙色、内面は黄橙色で直径 0.5 ~ 1mm の赤色粒子わずかに含む。内外面ともナデられる。2 は口縁部がやや肥厚する甕の破片である。胎土色は赤褐色を呈し、内外面ともナデられる。

3 は高坏の脚部で円筒形を呈し、外面の縦位のミガキは不明瞭である。内面はシボリが認められる。内外面とも橙色を呈す。胎土は密で赤色粒子をわずかに含む。4 は甕の底部である。わずかに指頭圧痕が認められるが、粗い造りである。胎土は雑で黄褐色を呈す。



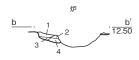






1 黒褐色土 2 茶花褐色土 4 茶花褐褐色土 5 暗褐色土 6 黒褐色土 7 黄 黑褐色土 茶褐色土 茶褐色土

ローム粒、焼土粒・炭化物少含、 ローム粒含、焼土粒少含 ローム粒多点 しまりやや強、ローム粒少含 しまりやや強 粘性やや強・しまり強、ローム粒・ロームブロック少含、焼土粒・炭化物微含 粘性・しまり強、ロームブロック主体



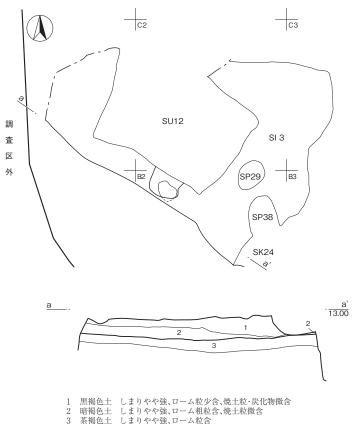
暗茶褐色土 粘性弱、ローム粒多含、焼土粒微含 明茶褐色土 粘性弱、ロームブロック・炭化物含 暗褐色土 しまり強、ローム粒・焼土粒・炭化物含 明褐色土 粘性弱・しまり強、被熱を受けたローム



黒褐色土 粘性やや強、しまり強、ロームブロック少含、 焼土粒・炭化物微含
 明褐色土 粘性やや強、しまり強、ロームブロック主体

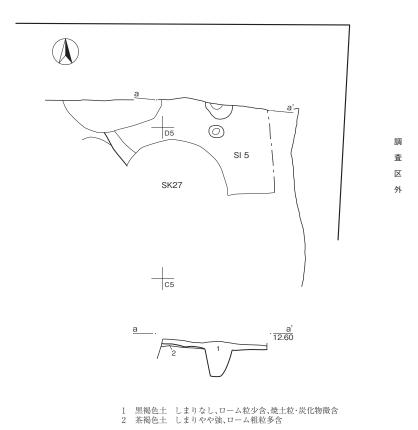
(S=1/50) 2m

Ⅲ-17図 SI 1



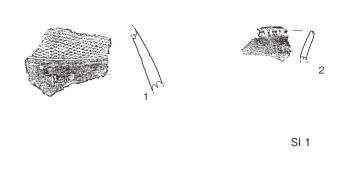
(S=1/50) 2m

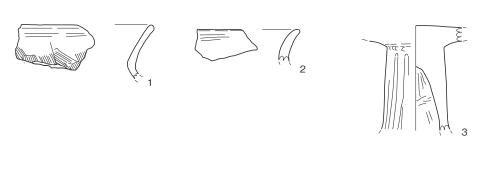
Ⅲ-18図 SI3

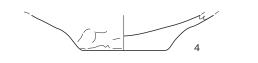


Ⅲ-19図 SI5

(S=1/50) 2m







SI 3
0 (S=1/3) 10cm

Ⅲ-20図 SI 1、SI 3出土遺物

第3節 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代に属する竪穴建物が3基、 検出されている。竪穴建物は重複を有し、その切り合い 関係から新 SI2 → SI6 → SI7 旧の新旧が看取できる。後 代の遺構による撹乱や竪穴建物の切り合いにより、遺構 の規模をうかがい知ることができないが、壁の形状から 円形または隅丸方形に類似した形状と考えられる。

以下各遺構について詳述する。

遺構

SI2 (遺構Ⅲ-22 図、遺物Ⅲ-25 図)

調査区中央部 C2、C3、D2、D3 グリッドに位置する。 平面形状は円形または隅丸方形にと考えられる。床面の 硬化は顕著ではなく、壁の立ち上がりも緩やかで、確認 面から床までは 0.42m を測る。ピットが 3 箇所検出さ れているが各々深度も浅く、主柱穴とは認めがたい。炉 は検出されていない。

遺物が35点出土している。そのうち3点が焼礫である。 出土遺物の多くは早期に属する土器であるが、覆土中から後期の小破片が2点検出されていることから、縄文時 代後期に属する可能性が考えられが確定はできない。

SI6 (遺構Ⅲ-23 図、遺物Ⅲ-25 図)

調査区中央部 C2、C3、D2、D3 グリッドに位置する。 遺構全体の規模は不明である。床面の硬化は顕著ではな い。

床面までの最深深度は 0.18m で、掘方の最深深度は 0.11m である。

覆土は暗茶褐色土~暗褐色土で1層と2層の間に硬化 面がみとめられる。土器が21点出土している。

出土遺物が少なく、図示した早期後半の土器が出土しているが、切り合い関係から前期と考えられる SI7 より新しいため、前期後半以降に廃絶されたと考えられる。 SI7 (遺構Ⅲ-24 図、遺物Ⅲ-25 図)

調査区中央部 C2、C3、D2、D3 グリッドに位置する。 床面までの最深深度は 0.41m で、床面から掘方底面 までの深度は最深部で 0.12m である。床面には顕著な 効果範囲は確認されず、柱穴も検出されなかった。掘方 では南壁下に周溝が検出され、周溝内にピット並んでい た。P1 では柱痕が確認されている。

出土遺物から、廃絶年代は縄文時代前期後半と考えられる。

遺物

今回の調査では、遺物収納箱1箱の縄文土器が出土し

ている。その多くは古墳時代以降の遺構から出土であり、 遺構にともなって出土した遺物は少ない。

以下各遺物について詳述する。

SI2 (遺構Ⅲ-22 図、遺物Ⅲ-25 図)

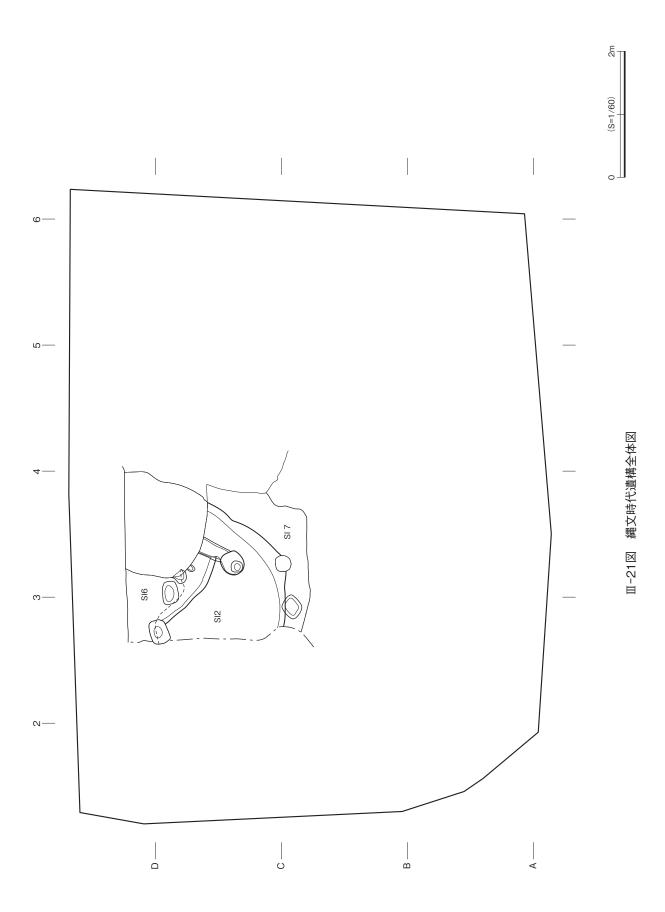
1 は深鉢口縁部片である。胎土色は褐色を呈し、焼成は不良で脆く、胎土内部は黒色である。繊維を多量に含んでいる。口縁上部に棒状工具の押しつけによる窪みが2箇所看取できる。口縁下に水平に2列の刺突痕みられる。上部の列は横位への押し引きがみられ、工具もペン先状と考えられるが、下位の列は刺突のみである。同一の工具かは判別し得なかった。広義の茅山式に属すると考えられる。2 は深鉢胴下部片で、外面は明赤褐色、内面は黒色で焼成は不良で脆く、繊維を少量含んでいる。外面とも貝殻条痕文が縦位に施文される。早期後半の条痕文系土器に属すると考えられる。3 は2 点検出された後期に属す土器のうちの1 片である。深鉢の胴部片で2条の沈線間は磨り消され空白帯となり、沈線上下に単節RLの縄文が施文される。内外面とも褐色で硬質である。後期中葉に属すると考えられる。

SI6 (遺構Ⅲ-23 図、遺物Ⅲ-25 図)

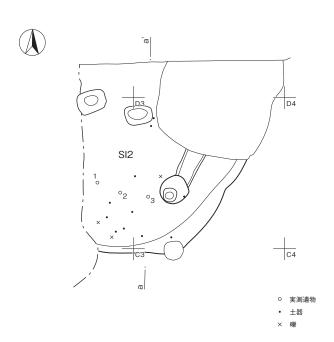
土器は4点、石器が2点出土している。土器はいずれも小破片で、文様がわかる1点を図示した。1は外面には横位の貝殻条痕文が施文された深鉢胴部片である。内面は剥離が著しく、擦痕、条痕文が判別できない。外面は赤褐色で、内面は黒色を呈し、焼成は不良で繊維が多く含まれている。早期後半の条痕文系土器に属すると考えられる。

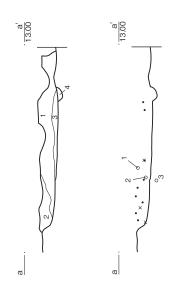
SI7 (遺構Ⅲ-24 図、遺物Ⅲ-25 図)

竪穴建物から土器 20 点、焼礫が 5 点出土した。1、2 は深鉢胴部部片で、1 は内外面にわずかに条痕文が施される。外面は褐色~赤褐色で内面は鈍い褐色を呈する。胎土には繊維が含まれている。2 は小粒の斜縄文単節LR 施される。外面は赤褐色、内面は褐色で、焼成は不良で胎土内部は黒色で繊維を多く含む。前期中葉か。3 はは棒状工具により平行沈線が刻まれる。外面は橙色で内面は黒色である。繊維は含まない。前期後半か。

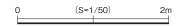




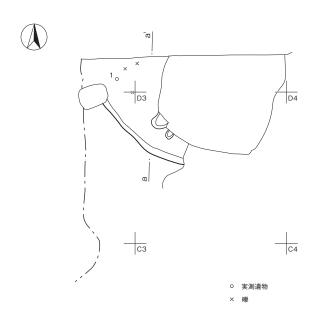


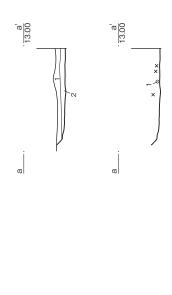


- 1 暗褐色土 しまりやや強、ロームブロック・ローム粒少含、焼土粒・炭化分徴含 2 黒褐色土 しまりやや強、ローム粒・焼土粒・炭化物微含 3 茶褐色土 しまりやや弱、ローム粒含、ローム粗粒微含 4 褐色土 しまりやや強、ローム粒・ローム粗粒やや多含

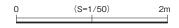


Ⅲ-22図 SI 2

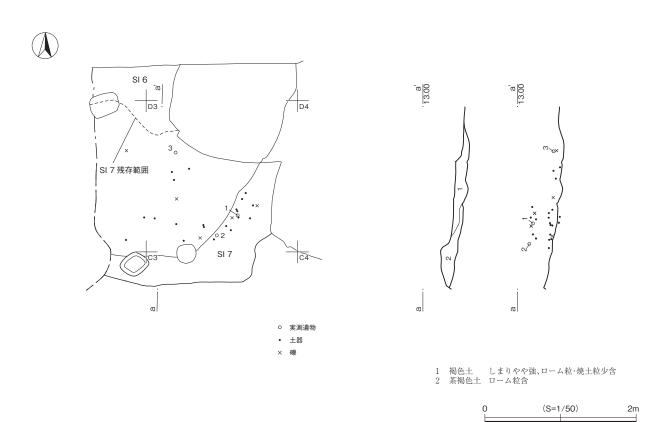




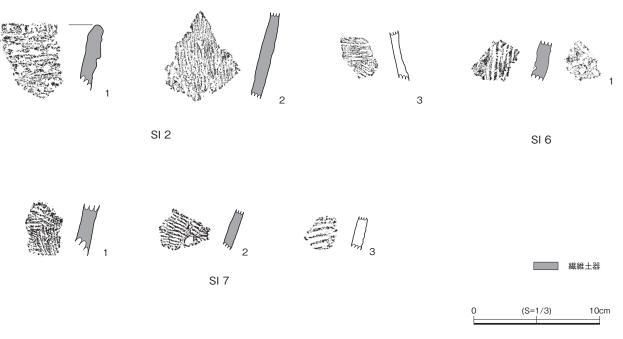
- 1 黒褐色土 焼土粒小含 2 茶褐色土 粘性・しまり強、ローム粒含、焼土粒少含



Ⅲ-23図 SI6



Ⅲ-24図 SI7



Ⅲ-25図 SI 2、SI 6、SI 7出土遺物

第4節 動物遺体

本調査地点では、ピックアップ法によって動物遺体を取り上げている。以上の方法で6群の動物遺体が取り上げられた。内訳は、貝類が4種、魚類が1綱、哺乳類が1種である。以下に種名を示す。

軟体動物門 Phylum MOLLUSCA

腹足綱 Class Gastropoda

古腹足目 Order Vetigastropda サザエ科 Family Turbinidae サザエ *Turbo (Batillus) cornutus*

二枚貝綱 Class Bivalvia

マルスダレガイ目 Order Veneroida

シジミ科 Family Cobicalidae

ヤマトシジミ Corbicula japonica

マルスダレガイ科 Family Veneridae

アサリ Ruditapes philippinarum

ハマグリ Meretrix lusoria

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

硬骨魚綱 Class Osteihthyes

目科属種不明 ordo indet

哺乳綱 Class Mammalia

偶蹄目 Order Artiodactyla

ウシ科 Family Bovidae

ウシ Bos taurus

1. 貝類 (1·2表/PL.1·2)

貝類は、最小で 14 個体が出土している。最も多いのはヤマトシジミで 6 個体出土し、42.9% を占める。次いで、サザエが多く 5 個体出土し、35.7% を占める。その他に、ハマグリ 2 個体(14.3%)とアサリ 1 個体(7.1%)が含まれる。

2. 脊椎動物 (3 表/ PL. 2·3)

魚類が3点、哺乳類が1点出土している。

無類は、SK24 から鱗が 3 枚出土している(PL.3)。タイ科のものに近似する(東京都衛生局環境生部食品監視課 1984 を参照)。

哺乳類は、出土地不明のウシの左脛骨が出土している (PL.2)。本資料は、骨幹中位で鋸状の刃物によって切断 されている。おそらく、近代の所産で、西洋料理を作った際に骨髄を利用したものと推測される。サイズは、阿 部所蔵の現生和牛 (沖縄県石垣市産) のものよりも一回 り小さいことから、日本在来種のものと推測される。

参考文献

東京都衛生局環境生部食品監視課・編 1984『魚の鱗と魚種識別』東京都生活文化局広報部都民資料室

1表 出土貝類遺体組成表

1 我								
綱より下位	左右	SK24	_	合計	MNI	比率		
サザエ		1	4	5	5	35.7%		
ヤマトシジミ	左	3	3	6	6	42.9%		
(4 1 2 2 4	右	1	3	4	0			
アサリ	合	1		1	1	7.1%		
ハマグリ	左	1		1	2	14.3%		
	右		2	2	4	14.5%		
MNI		6	9		14			

2表 出土貝類遺体に関する観察表

遺構 綱より下位 左		左右	備考				
	サザエ		有棘, 殼高:109.3mm				
SK24	アサリ	合	左殻腹縁後側に小剥離あり、殻長 30.3mm				
	ハマグリ	左	中小型, 殼長 33.5mm				
_	サザエ		有棘,殼高:122.2mm,111.2mm,				
	ハマグリ	右	大型 1 : 殼長 58.8mm,中小型 1 : 殼長 33.5mm				

3表 出土脊椎動物遺体一覧

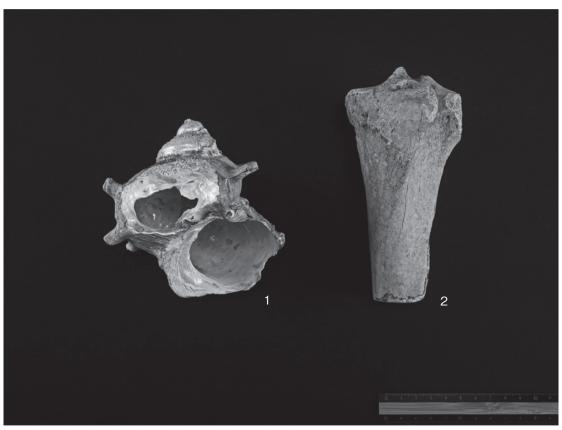
遺構	綱	綱より下位	部位	左右	数	備考
SK24	硬骨魚	同定対象外	鱗		3	タイ科のものに近似する。
	哺乳	ウシ	脛骨	左	1	骨幹中位で鋸状の刃物によって切断。
_						近位端~骨幹中位残存。
						前方外側から背面に向って切断されている。

- : 調査地点一括(出土地不明)



PL.1 中小型二枚貝類

1. ヤマトシジミ 2. アサリ 3. ハマグリ ※すべて左殻・SK24 出土



PL.2 サザエ・ウシ左脛骨

1. サザエ・殻(SK24 出土) 2. ウシ・左脛骨(出土地不明)



PL.3 鱗(SK24 出土)

第Ⅳ章 まとめ

縄文時代

今回の調査では、縄文時代に属する竪穴建物が3基検出されている。第 I 章でもふれたが、調査地点より南約50mに位置する看護職員等宿舎5号棟地点では、早期および前期に属すると考えられる建物竪穴がそれぞれ1基検出され、さらに早期に属する炉穴が9基検出されている(東京大学埋蔵文化財調査室2024)。そのほかに調査地点より北西約40mに位置する看護職員等宿舎1号棟地点でも、早期末の炉穴が検出されている(東京大学埋蔵文化財調査室2021b)。

調査区が狭小で、後代の遺構の撹乱を受け、3基とも 竪穴建物の全体が検出されてはいないため、形状・規模 について不明な点が多い。また出土遺物も少なく、帰属 時期を明確にする根拠も希薄な点は否めない。しかし竪 穴建物覆土から多数の焼礫が出土していることから、炉 穴が調査区内に存在していた可能性も考えられる。また 比較的早期後半期の出土量の多いことから、当該期の活 動の痕跡は窺うことができ、看護職員等宿舎1号棟地点・ 看護職員等宿舎5号棟地点での生活域が、当調査地点を 含んでいることが予想される。

古墳時代

古墳時代に属すると考えられる竪穴建物が、3 基検出されている。これらも縄文時代の竪穴建物同様に大きく 撹乱を受け、遺存度は低い。

その中で SI3 は小破片が主であるが、比較的多い土器の出土がみられ、帰属年代を中期に比定できる。看護職員等宿舎5号棟地点の考察の中で示された、当該区の古墳時代の竪穴建物の分布範囲内に位置し、然るべき検出状況と言える(山下 2024)。

近世

周辺の地点同様に、多くの遺構が検出されている。その中で特徴的と言えるのが、円形の植栽と考えられる遺構である。これらはE面で検出されており、当調査地点では近世最下面に該当する。

看護職員等宿舎1号棟地点では多くの植栽痕が検出され、周囲の調査地点の植栽痕群との比較を行った論考で、これらの帰属時期は元禄16(1703)年の火災後、文政8(1825)年までの間とされており(成瀬2021b)、当調査地点での植栽痕と関連している可能性が考えられる。

富山藩絵図について

最後に近世期に調査区が位置する富山藩邸と、残され

た絵図との整合について、若干ふれてみたい。

近世から現存している地物や、検出された遺構と「参謀本部陸軍測量局五千分一東京図測量原図(以下測量原図)」の照合手法や用語については、拙稿で説明しているので参照願いたい(香取 2016)。

今回は測量原図の朱書きラインとの補正は施した上で、新たに2地点を加えジオリファレンスを行った(IV-1図)。上述、看護師宿舎等1号棟地点で検出された建物南東角地点(SB2)と山上会館別館西に位置する現存井戸の補正点(コントロールポイント)を加え、11箇所でジオリファレンス行った(IV-2、3図)。変換はアフィン変換を用いている。

補正点の平均 RMS エラー(二乗平均平方根残差)は、 2.116010m である。

この補正済み測量原図から独標点、等高線、水崖線の標高を使用し、TINを作成した(IV 4 図)。

TINから作成したエレベーションマップがⅣ-5図で、IV-6図は南東方向から俯瞰したものである。測量原図の三四郎池西側に栄螺(さざえ)山⁽¹⁾が大きくそびえている様子が看取できる。

この測量原図の標高と、現代の標高との差分を算出するための作業を行った。航空機によるレーザー測量で5mメッシュのデータが国土地理院より提供されている(基盤地図情報 数値標高モデル)。このデータから内挿による標高サーフェスを作成するのだが、生データは建物による影響を低減化したデータではあるが、それでも凹凸が著しい。特に東京大学の建物には建物周囲にドライエリアが設けられていることが多く、地下1階分ほど低い部分が存在する。建物による影響をさらに低減化させるため、建物内と建物周囲に3m拡大したエリアを作成し(バッファ)、該当部分のデータを削除し(IV-7図)、標高サーフェスを作成した(IV-8図)。

作成した測量原図のエレベーションマップと、基盤地図情報から作成したエレベーションマップを GIS ソフト $^{(2)}$ で差分を可視化したエレベーションマップが \mathbb{N} -9 図である。さらにこれらの差分の $1 \mathrm{m}$ 毎の等高線をポリゴン化した。 $+9 \mathrm{m} \sim -16 \mathrm{m}$ までの差分が生じている。差分が大きい $-15 \sim 16 \mathrm{m}$ となっているのは、上述、栄螺山と現地表面との差分である。測量原図で記載された栄螺山、富士山 $^{(3)}$ 、射的場部分 $^{(4)}$ に青色が強くなっており、大きく削平された様子が看取できる。

また富山藩絵図(「池之端東屋敷絵図」のうち「同所

惣絵図」(前田文書 294) 富山県立図書館所蔵) について、 上述の補正を行った測量原図と検出された遺構で照合を 行った。補正点は6箇所である(W-11図)。

藩邸南側の①富山藩邸正門箇所、②御殿と別科生教場、 ③北側の池之端門北側の道路にあった富山藩と加賀藩の 境に位置する階段部分が測量原図と同一地点と考えられ る。

富山藩絵図と遺構の補正点は④茅町二丁目遺跡池之端一丁目5番地地点(台東区2005)で検出された、近世後期に属する井戸である第94号遺構、⑤入院棟B地点で検出された井戸SE1(東京大学埋蔵文化財調査室2015)、⑥イノベーション地点で検出された土蔵跡と考えられるSK213・SK215(東京大学埋蔵文化財調査室2015)が富山藩絵図に描かれた井戸、土蔵に比定できると考えられ、アフィン変換を行った(IV-12図)。

補正点6点の平均RMSエラーは、2.921566mである。この補正した富山藩邸絵図から、東側の民地側・池之端門北側の道路に接するエリアには長屋が配置されている様子が看取できるが、現在の地形では北側には道路際まで擁壁が迫り、長屋が配置できる余地はない。

昭和2年作成されたとされる、東京帝国大学が行った 工事の図面を今回の整理作業で目に触れる機会があった (擁壁工事図面 IV-13図上)。この図面については東京 都下水道地点(87)の報告で、本地点の調査者であった 原が言及している(東京大学埋蔵文化財調査室2011)。

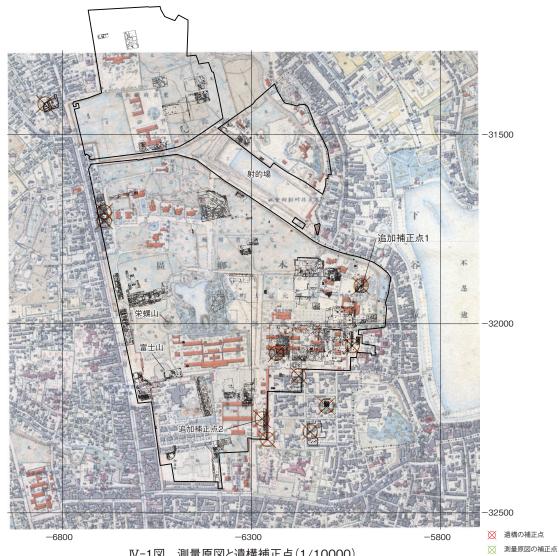
富山藩絵図・測量原図と防護壁図面の照合では、長屋部分に新たな道路が工事されていることがわかる。また上記で作成した標高差ポリゴン図(W-10図)の照合では、測量原図時点から現在の地形に、4m以上盛土されている事が読み取れ(W-13図下)、東京都下水道地点(87)での原の考察を支持する(原2021a)。

【註】

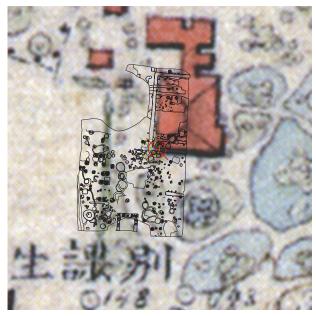
- (1) 三四郎池(心字池)西側に人工的に構築された「築山」で、庭園を構成する要素である。頂上部の標高は39.1mで麓との比高差は約16mである。「サザイ山」とも(東京大学埋蔵文化財調査室1990「山上会館・御殿下記念館地点 第3分冊考察編」。構築年代は不明。帝国大学時代の建物平面図から明治32年頃まで存在していたことが確認できる。
- (2) 本稿では東京大学空間情報科学研究センターがサイトライセンスを取得している ArcGIS Pro およびオープンソース GIS である QGIS を使用し、図版を作成した。
- (3)「富士権現旧地」。1964年の経済学部校舎の建築の際に湮滅。 1999年の経済学研究科棟地点の調査によって、自然地形 の可能性が否定されたため、人工的な築山であることが確

- 認された。元禄期の絵図面にはすでに描かれていることから、17世紀代に構築されたと考えられ、富士山の範囲下に検出された遺構から出土遺物の年代観によって、17世紀前半以降に構築された可能性が考えられる(竹谷 2009、東京大学埋蔵文化財調査室 2023)。
- (4) 射的場は明治 9 (1976) 年に建設され、明治 21 (1988) 年まで同地に存在した。周囲の地形を大きく改変し、北西側の土壁は標高差は 16.4m を測る。原の論考に詳しい(原 2009)

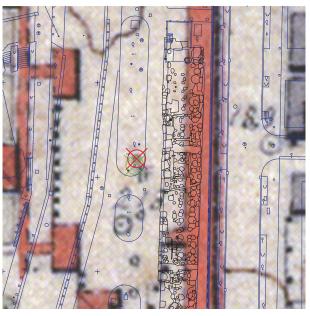




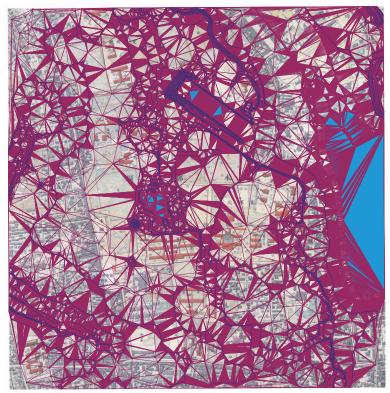
Ⅳ-1図 測量原図と遺構補正点(1/10000)



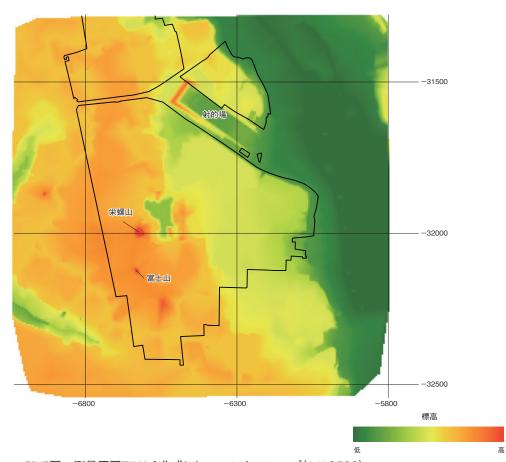
IV-2図 追加補正点1 看護耶 1号棟地点(1/800) 看護職員等宿舎



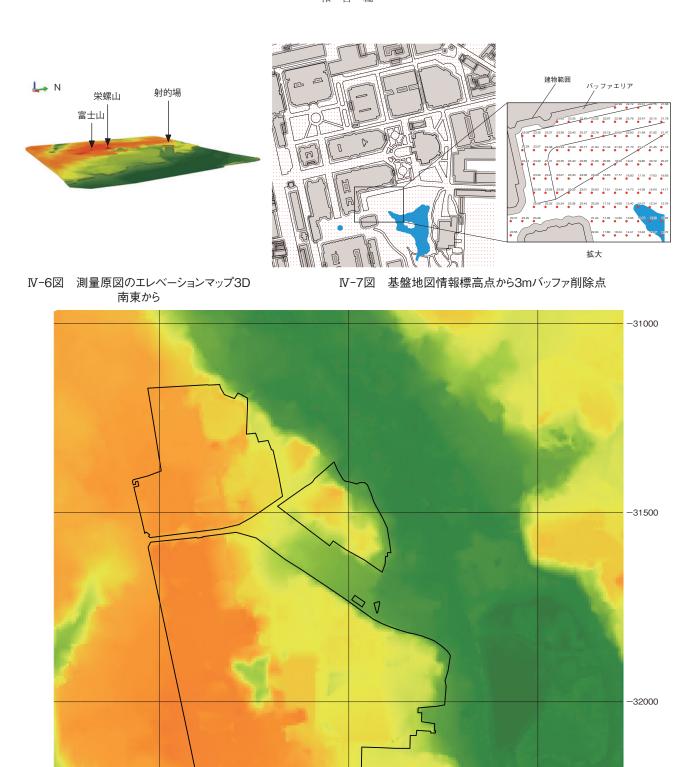
Ⅳ-3図 追加補正点2 山上会館龍岡門別館西側 現存井戸(1/800)



IV-4図 補正済み測量原図とTIN(1/12500)



IV-5図 測量原図TINから作成したエレベーションマップ (1/12500)



Ⅳ-8図 基盤地図情報の標高点から作成したエレベーションマップ(1/10000)

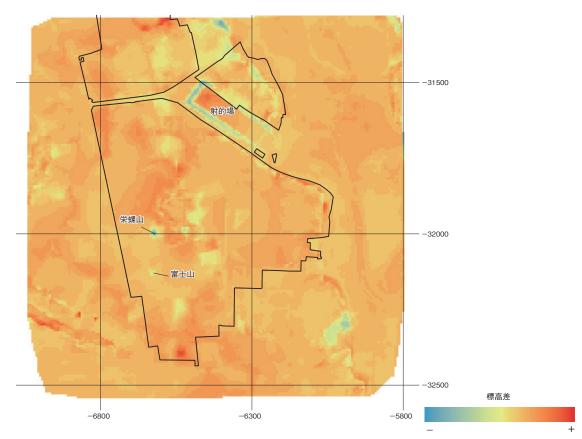
-6300

-6800

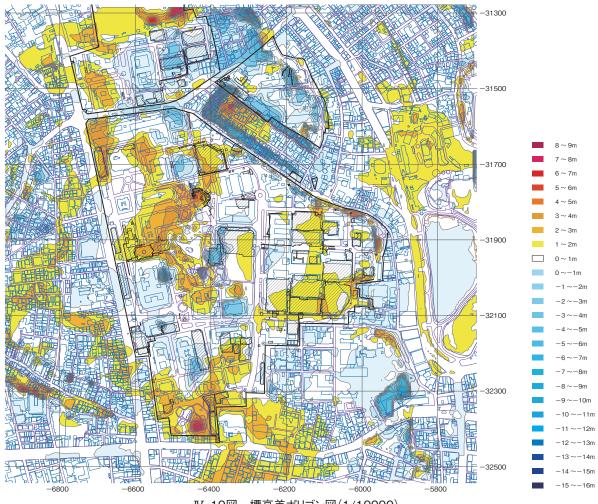
-32500

-5800

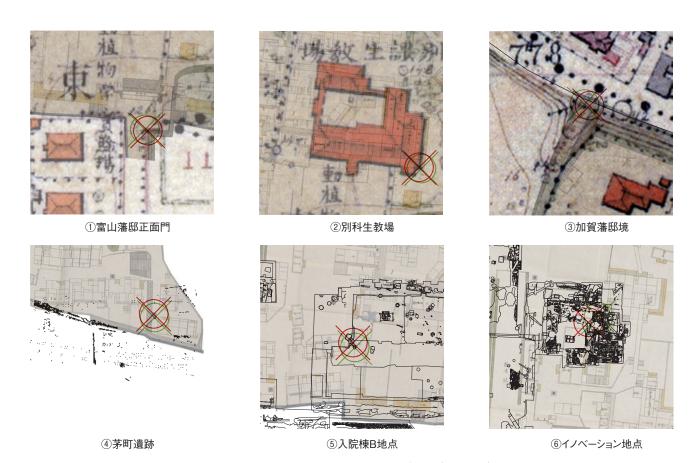
標高



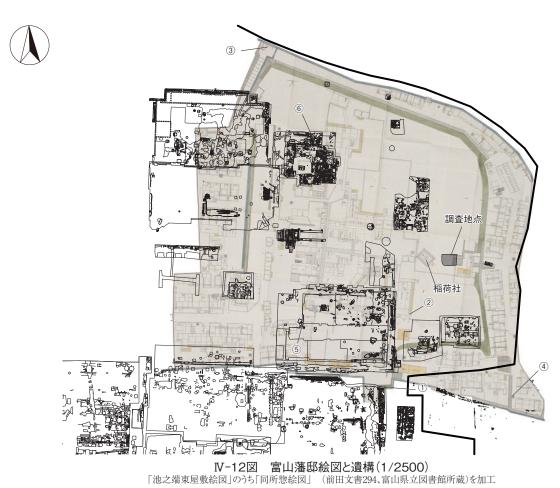
Ⅳ-9図 基盤地図情報エレベーションマップと測量原図エレベーションマップの標高差(1/10000)

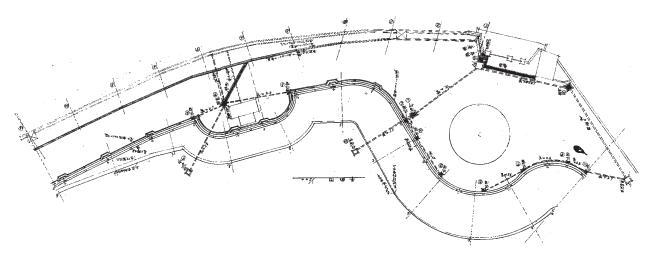


Ⅳ-10図 標高差ポリゴン図(1/10000)



IV-11図 測量原図・富山藩絵図補正箇所 (1/1600) ①~③「測量原図」、④~⑥「池之端東屋敷絵図」のうち「同所惣絵図」 (前田文書294、富山県立図書館所蔵)を加工

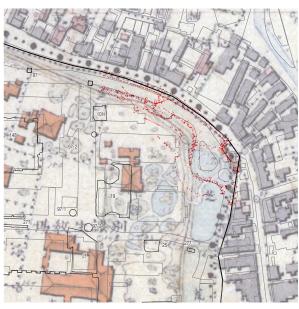




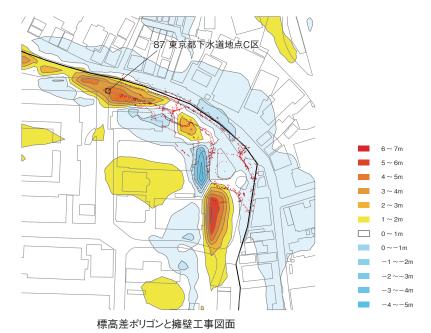
擁壁工事図面「池之端七軒町通り裏門附属門衛所及構内土留擁壁其他新営工事図面(昭和2年)」



富山藩邸絵図と擁壁工事図面(「池之端東屋敷絵図」のうち 「同所惣絵図」 (前田文書294、富山県立図書館所蔵)を加工)



測量原図と擁壁工事図面



Ⅳ-13図 擁壁工事図面配置図(1/2500)

【引用・参考文献】

- 安芸毬子・小林照子・堀内秀樹 2012 「東京大学構内遺跡出 土人形・玩具の分類」『東京大学構内遺跡調査研究年報8』 東京大学埋蔵文化財調査室
- 一般財団法人日本地図センター 2011 『参謀本部陸軍部測量 局 五千分一東京図測量原図』
- 大成可乃 2011 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類 (2)」『東京大学構内遺跡調査研究年報 7』
- 小川 望 2008 『焼塩壷と近世の考古学』同成社
- 香取祐一 2016 「GIS を利用した明治初期の地形の復元とその可能性」『医学部附属病院入院棟 A 地点 研究編』東京大学埋蔵文化財調査室
- 加藤 晃・金子 智 1990 「御殿下記念館・山上会館地点検 出の瓦について」『山上会館・御殿下記念館地点 第3分冊』 東京大学埋蔵文化財調査室
- 川根正教 2001 「寛永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究』 出土銭貨研究会
- 小松愛子 2015 「文献・絵図資料にみる富山藩江戸屋敷」『東 大学構内遺跡調査研究年報 9』東京大学埋蔵文化財調査室
- 台東区文化財調査会 2005 『茅町二丁目遺跡池之端一丁目 5 番地地点』
- 竹谷靭負 2009 『富士塚考 江戸高田富士築造の謎を解く』岩 田書院
- 原 祐一 2009 「XII 向ヶ岡弥生町の研究 ―向ヶ岡弥生町 の歴史と東京大学浅野地区の発掘調査の成果―」『浅野地 区 I』東京大学埋蔵文化財調査室
- 成瀬晃司 2021 「看護職員等宿舎1号棟地点からみた富山藩 上屋敷」『『医学部附属病院看護職員等宿舎1号棟地点・臨 床試験棟地点・看護職員等宿舎3号棟地点(1)』東京大学 埋蔵文化財調査室
- 山下優介 2024 「研究1 本郷台地における古墳時代の集落 変遷」『医学部附属病院看護職員等宿舎5号棟地点看護職 員等宿舎3号棟地点(2)』東京大学埋蔵文化財調査室

●東京大学埋蔵文化財調査室関連刊行物

- 東京大学埋蔵文化財調査室 1990『山上会館・御殿下記念館地 点 第 3 分冊』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1997 『東京大学構内遺跡調査研 究年報 1』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類 (1)」『東京大学構内遺跡調査研究年報』 2 別冊
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2009 『浅野地区 I』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2011 『東京大学構内遺跡調査研 究年報 7』

- 東京大学埋蔵文化財調査室 2012 『東京大学構内遺跡調査研 究年報 8』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2016 『医学部附属病院入院棟 A 地点』東京大学埋蔵文化財調査室 2
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2021a 『東京大学構内遺跡調査研 究年報 14』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2021b 『医学部附属病院看護職員 等宿舎1号棟地点・臨床試験棟地点・看護職員等宿舎3号 棟地点(1)』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2024 『医学部附属病院看護職員 等宿舎 5 号棟地点看護職員等宿舎 3 号棟地点 (2)』

ふりがな	とうきょうだいがくこうないいせき ちょうさけんきゅうねんぽう
書 名	東京大学構内遺跡 調査研究年報
副書名	
巻 次	17
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	香取祐一(編)、阿部常樹
編集機関	東京大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1 駒場リサーチキャンパス内 TEL: 03-5452-5103
発行年月日	令和6年12月31日

ふりがな	ふりがな	コ	ード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	所在地	遺跡番号	0 / //	0 / //	明色粉	門111111111111111111111111111111111111	- 明1150
とうきょうだいがくほんごうごうないの東京大学本郷構内のいせき 遺跡 いがくぶふぞくびょういん 医学部附属病院かんごしょくいんとうしゅくしゃ 看護職員等宿舎 ごみおきばちてん ゴミ置き場地点	とうきょうと ぶんきょうく 東京都 文京区 ほんごう 本期 75ょうめ 3ばん 1ごう 7丁目3番1号	13105	47	35° 42′ 44″	139° 46′ 02″	1995/1/30 ~ 1995/3/3	71.3m	看護職員等 宿舎ゴミ置き 場新営に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
医学部附属病院 看護職員等宿舎 ゴミ置き場地点	包蔵地 集落 屋敷	縄文 古墳 近世	縄文:竪穴建物3 古墳:竪穴建物3 近世:地下室、植栽痕 土坑、ピット	縄文:土器 古墳:土器 近世:陶磁器、土器、瓦、	縄文時代集落、 古墳時代集落、 近世富山藩邸

要 約

縄文時代・古墳時代の竪穴建物が検出され、近接する調査地点の分布傾向を首肯する。 近世期の検出状況から、富山藩邸内での使用状況と絵図面と照合できた。

紀 要 編

東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要 17

前田邸御成記の分析3 元禄度幕府側史料と屋敷図

湯沢 丈

1.目的

考古資料の使用モデル(道具を使用した場、すなわち 人物・時機・場所等)の提示のために、藩邸で行われた 行事・儀礼の中で、格式が最上級と考えられる将軍の式 正御成(以下「御成」とする)を取り上げる。

なお前稿(「前田邸御成記の分析 2: 元禄」本誌 16 掲載) で主に前田家側の文献史料を扱ったのに続いて、本稿で は元禄度の屋敷図と幕府側の文献史料を取り上げる。

1.1. 先行研究

元禄の前田邸御成については、斎藤悦正の論考がある。 斎藤は主に近藤磐雄の『加賀松雲公』を引用して、御成 次第と屋敷の概要を述べたに止まる。発掘調査報告書と いう限られた条件での執筆であったためか、屋敷図と御 成記の対比などの分析には至っていない。詳細は前稿を 参照されたい。

1.2. 本稿の目的

前稿では、主に前田家側の史料に基づいて、御成の全体像の復元を試みたが、寛永度御成記と比べて記述内容が不詳であり、幕府側史料との比較では、部屋名や行為等の異同が認められた。本稿では前田家史料と幕府側史料、そして「加越能文庫」に伝わる屋敷図を用いて、御成の全体像復元を試みる。

2.御成記の分析

金沢藩邸への式正御成は以下の通りである。

- ·元和3年(1617)5月13日 将軍秀忠(辰口邸)
- · 寛永 6 年 (1629) 4 月 26 日 将軍家光 (本郷邸) 同年 同月 29 日 大御所秀忠 (本郷邸)
- · 元禄 15 年 (1702) 4 月 26 日 将軍綱吉 (本郷邸)

2.1. 対象史料

第1に、前稿に続いて、加越能文庫所収の史料から、 記述内容が整理されているものを「基準史料」とし、他 の伝本には片仮名を振った。詳細は前稿を参照されたい。

- ·基準史料:「参議公年表」加越能文庫 特 16.11-75 (金 沢市立玉川図書館)
- ·異本イ:「御成一巻」加越能文庫 特 16.13-38 (同上) 口:「太閤并将軍御成記」加越能文庫 特 16.13-25 (同 上)

第2に、幕府側の史料として「常憲院殿御実紀」と「柳 営日次記」を利用した。

・「常憲院殿御実紀」巻 45、元禄 15 年 4 月 26 日条(黒板勝美・国史大系編修会 1981『徳川実紀』6(新訂増補国史大系): 471-473、吉川弘文館)、以下『実紀』と略称。・「柳営日次記」(「年録」129、国会図書館デジタルコレクション、請求記号: 833-1)

https://dl.ndl.go.jp/pid/2561809 (2024 年 7 月 30 日確認)

本史料の内容は史料篇を参照されたい。

第3に、屋敷図として金沢市立玉川図書館所蔵の絵図 を利用した。

「元禄十五年御成御殿絵図」(藤井家(明石家)文書、 史料番号:090-1128-4)

本絵図は、篦押しした方眼上に線を引いたもので、「御成御殿御上段」を中心とする範囲が黄色、その北側の「松平美濃殿部屋」等が水色、更に北側の「饗応所」等が灰色、周囲の「長屋」等が少し薄い灰色で塗られている。絵図の入った封書には「元禄十五年 御成御殿絵図」と記される。各所には部屋名等が墨書され、襖絵等・絵師名も朱書される。本稿では分析上、必要な線書をトレースし、色分けと部屋等の墨書を反映させた(1図)。

2.2. 次第

前稿で示したように、前田家史料と幕府側史料では次 第の複数の点について異同が認められる。記述が比較的 詳しい「参議公年表」と「柳営日次記」の内容を、将軍 徳川綱吉と藩主前田綱紀を中心に整理した(1 表)。

各次第の行われた場所が明確に記されていないものも 多いが、前田家史料と幕府側史料で、行為と場所が一致 するのは、御能から式正七五三、盃事、下賜、料理、御 盃頂戴、刀剣の下賜・献上、御講談までであり、奥御書 院(奥之書院)で行われたと記される。

その一方、熨斗献上は、前田家史料では御成御殿、幕

1表 史料の記述比較

1 1	文/ TV TILLE 11111		
No.	次第	参議公年表 (前田家史料)	柳営日次記 (幕府側史料)
1	駕篭を降りた後の移動	式台→御休息ノ間→御成御殿 (A-1)	御成廊下→表書院へ脇奥之廊下→奥之書院上段
			(綱紀が先導) (11 ~ 13 条)
2	熨斗献上	御成御殿	奥之書院(13条)
	下賜・献上・謁見	奥御書院(A-2)	下賜は移動記載なし (奥之書院カ)。
3			移動(最前の廊下を通り出御、吉保が先導、17条)
			表之書院で利常・吉徳の献上、家来の謁見。
	御能、式正七五三(膳)、	移動の記載無し (C-1)。	奥之書院へ移動中に、御休息間に並べていた浅野吉長
	盃事、下賜		妻・浅野吉泰妻・仙渓院・利直・利興・利昌の献上品
4			を柳沢吉保が披露 (20条)。
			重ねて奥之書院上段で、盃事、刀剣の下賜・献上、
			七五三膳(21条)。
			舞台において御馳走の能三番、上覧(24条)
	能が済む。	奥御書院へ入御 (C-2)。	
(5)	料理、御盃頂戴、刀剣の		奥之書院(21条)
	下賜・献上。		
6	御講談。	同上 (C-2)。	同上 (22条)
7	常之御膳、盃、下賜	御膳等記載無し。贈答品のみ記載。	御休息間(26条)
		場所は不記載。	
8	御仕舞 (御敷舞台)。	移動記載無し (C-2)。	表書院 (32条)
9	移動、熨斗持ち出し	御成御殿(C-3)	奥之御書院上段(33条)
10	還御	(C-3)	(34条)

No.は主に参議公年表の次第・移動に沿って振った。

府側史料では奥之書院で行われたとされ、下賜・献上・ 謁見について前田家史料では「奥御書院」、幕府側史料 では「表書院」と記され、対称的な記述である。また常 之御膳・盃・下賜について、幕府側史料では御休息間で 行われたと記されるが、前田家史料では場所が不記載で ある。特に後者は「柳営日次記」(27条)に、将軍が「御 手自」すなわち自ら下賜したと記される。この記述は将 軍と綱紀・吉徳との関係の近さ、また下賜品の由緒を示 す重要なものだが、「参議公年表」には認められない(前 稿史料篇 A-3)。

なお前田家と幕府側で異なる記述の中にも傾向が見出せる。前田家史料「御成御殿」・「奥御書院」は、それぞれ幕府側史料で「奥書院(奥之書院)」・「表書院(表之書院)」と記されることが多い。

また前稿では触れなかったが、前田家史料の異本口では「奥書院」「表書院」という場所の表記があり、基準史料とした「参議公年表」よりも多くの道具が記されている(前稿異同篇注6)。そして異本口の「表書院」の「御床」には「三幅対」や「立花」が、「奥書院」の「御床」に「御筆」や「蓬莱」が記載されるため、それぞれ基準史料の「御成御殿」と「奥御書院」に相当する可能性が高い。しかし前稿異同篇でも指摘した通り、基準史料と

は道具の配置が異なっているため、即座に異本口の記述を採用することもできないが、前田家史料の中にも、基準史料「御成御殿」を「表書院」と記載するものがあった点は指摘しておきたい。

以上、前田家と幕府側の史料を比較したが、各行為の 場所について共通する部分は少なかったが、前田家史料 では不記載であった「御休息間」における行為が幕府側 史料で確認できた。また前田家と幕府側の史料で、場所 の表記が異なるものの中にも一部傾向が見出せた。

3. 屋敷図との比較

2.1. 対象史料で触れたように、屋敷図では部屋や通路が黄色・水色・灰色に塗り分けられている。黄色の部分には「御式台」「御成御殿御上段」など、御成記に将軍の移動した場所として記される名称が複数認められる。水色の部分には「松平美濃殿部屋」や「御老中部屋」等の将軍に供奉した者達の部屋、また「仕出所」や「饗応所」等が記される。灰色の部分には「御老中下部屋」といった陪臣の部屋と「饗応所」等が記される。従って黄色の部分は将軍の移動する可能性のある範囲を示していると考えられ、本稿ではこの部分に注目する。



1 図 元禄十五年御成御殿絵図(金沢市立玉川図書館所蔵)

まず部屋の名称だが、屋敷図の黄色の範囲には「御式台」「御成御殿御上段」「御小座敷」「御湯殿」「御揚場」「奥書院御上段」「御休息御上段」等の御成記と同様の場所が複数記されるが、「表書院」という記述は認められない。なお前田家史料の異本口「太閤并将軍御成記」(加越能文庫特16.13-25)では、「表書院」という記述があり、基準史料「御成御殿」の飾り物と類似する(前稿異同篇注6)。従って、前田家では「御成御殿」を「表書院」とも認識していたことが分かる。

さて部屋の名称が史料によって異なることが明らかとなったが、屋敷図上で行為の場所を考えて見たい。「御能」を見るには、「御成御殿」等の「御舞台」周辺でなければならない。そのため「奥御書院」とは考えにくく、前田家史料で移動が記されてないが、「御能」の際には将軍等は「御成御殿」に移動していたと想定できる。その後、御能が済んだ後、「奥御書院」に入御と記されるのは、その証左といえよう(基準史料 C-2)。

同様に「御敷舞台」で「御仕舞」の際にも、屋敷図「御 鋪舞台」周辺に将軍等は移動したと考えられる。

従って、綱吉と綱紀等は、1表の④御能では「御成御殿」、⑧御仕舞では「御敷舞台」周辺に移動していたと 推測される。

4. 小結

前田家と幕府側の史料を比較した結果、次第の行われた場所の記述が異なり、そこに傾向は見て取れたものの、確証は得られなかった。なお以下の2点は前田家史料のみでは推定できなかった点が明らかになった。すなわち、幕府側史料によって、「御休息間」で下賜等が行われた点(1表⑦)、そして御能上覧は「御舞台」の向かいの「御成御殿御上段」(1表④)、御仕舞は「御鋪舞台」周辺だろうとした点である(1表⑧)。

今後の課題

複数の伝本と屋敷図の比較を試みたが、行為と場所の 特定には至らず、不確定な部分が残った。この解決には 他家への御成記との比較が有効だろう。とはいえ、考古 資料の使用モデルの提示という当初の目的は、ある程度 達せられた。前々稿から分析してきた史料を用いて、今 後は考古資料の分析・考察を進めたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、前稿に続いて林大樹氏には、様々にご助言をいただいた。また屋敷図について、増田晴夫 氏と藤川昌樹氏よりご助言をいただいた。 御先番

意有」之 御成玄関"て置」之、追付登 城御請申二上」之 還御以後、 加賀守、 又左衛門登 城於二 御座間 御目見、 佐渡守

相詰一類共

披露

御手自御熨斗被」下」之、美濃守、老中、

右京太夫御挨拶

松平安芸守 松平右衛門督 松平備後守 松平飛騨守

浅野土佐守 松平長門守 前田采女

前田隼人

牧野備前守

御供被: 召連 侯譜代之面々

松平遠江守 松平讃岐守 酒井雅楽頭 松浦壱岐守 久世出雲守 井伊掃部頭

青山播摩守 松平伊賀守

青山下野守

阿部飛騨守

松平弾正忠 秋元伊賀守

三浦壱岐守 稲葉長門守

蜂須賀飛騨守

一、被下物(中略) 献上物 (中略)

所々勤番、一、 御歩行御道番六組、 在郷番三組勤」之

新御番組頭 御小性組々番頭 |能勢市十郎 北条右近太夫 御書院番頭

▽板倉筑後守

御弓頭 御持筒頭 杉浦武兵衛 葉山志摩守

御鉄炮頭 鈴木三郎九郎

勝手門

〈下馬弐人〉

屋敷之内

本郷通町屋敷《加賀守屋敷角弐人》

中之門《向之小路弐人、天訳寺方弐人》

御成御門《居宅以前下乗弐人》

同 赤井五郎作

¬夏目藤右衛門 安藤治右衛門

御徒頭

「金田新太郎

捨土器 御盃之台 抻

加 衛門給仕 加賀守、 一共に名欠 又左衛門『凡 引 渡、 煮 吸 物出 加賀守給仕 又 左

御銚 子 加

頂 御酌 ^江持出、 より丹後守熨斗目長袴(稲葉正通) 礼御 に載 之 次並退去、 下御肴被 御前点持出披露 之 出座有『頂 御右之方より豊後守熨斗目長袴着」之、下段中央より上≒持出、 (後盃台に載」之、 前 出座 戴 出座、 加賀守出座御挨拶申,,-上之,、 肴差 加賀守出座有『頂 渡 之、 又左衛門出座有『頂戴、 御肴被」下 之 -召 上 二一上之一、 此節七五三御本膳斗下段御敷居際 下、之、 御酌並渡 此時又左衛門より御刀差二上之一、 御加有」之、 加有」之盃を持御次環退之時、 戴之、 御加有」之、 御前並被 上意有」之直"引 加賀守給『相納、 之後、 下段中央より少下"御酌扣有」之時、 御前 此時加賀守より御刀御脇差献 之 御次立退、 ┐─戴之 ┐、御肴被 ऽ下 」之後、 盃を持、 ^五持出披露 .召..一上之, 時、 御刀被」下」之、 御前 其 、御盃台に載 御次江退、 刀脇差帯」之、 御次亞退之時、 被 之、 御膳入 御膳部引」之、 召_ 上意有」之直 御加有」之、 上之 又左衛門出座有『御礼、 但馬守熨斗目長袴着取 御右之方より豊後守下段中央 刀带」之、 之、 御勝手之方より丹後守 御目 -時、 但馬守取」之台に載」之、 御礼、 下段中央に御酌 御刀御脇差被 引」之、 1通り迄、 加賀守、 __上之_、 其後盃加賀守 御礼、 加賀守出座候『 退座、 又左衛門出座有 退座、 御加有」之、 御勝手之方 又左衛門御 御小姓衆持 刀脇差取 下、之、 之、台 扣有」之 加賀守 御肴差 刀取 、へ被以

頭 奥書院ニョ 部 御講釈被 御譜代之面々諸衆奏者番、 遊、 加 賀守、 又左衛門#一 大目付 類共且又讃岐守、 御 目見 罷出候家来 雅

加賀守三 も講釈被 = 付

= 舞 台 御馳走之御能! 三番 覧

初床机御先加藤越中守勤 翁 高 砂観世 東北竹田権兵衛 之 祝言諸橋権之進 狂

末広

かり

意無」之

御休息間 被 >為 >入、 常之御膳被、召 上上之 | 御盃之台出

自被 下 御休息間 之、 下、 美濃守、 美濃守、 加賀守、 右京太夫御挨拶、 右京太夫御挨拶、 又左衛門被 為 御次立退座、 御次 召 之、 退 去、 加賀守軍御茶入御手 又左衛門沿御 老中 ハ不 罷 **潤賀守**五 自被 御手

美濃守申二-渡之 於二御次 備後守妻、 右衛門督妻、 仙渓院五 『御内証より被』下物加

{9}^2 一渡之{」 席表書院之三間} 備後守妻、 右衛門督 妻、 仙 渓院『被 下 物以 目 録 加 賀守 相 模 守申

,0 3 老中列座 飛騨守、 長門守、 采女並被 下物見 拝 (ママ) 所之後 掃相 模守申 渡之

但被上下 物兼 席 並

 $\overline{}_{1}^{\widehat{3}}$ 家来"被」下物相模守申,,一渡之 -不 及 -列 座 其 後頂 戴之節は奏者

ヹも仕舞被 来共拝見、 頭 表書院 掃部頭、 **電御仕舞被** 加賀守、 仰 御譜代之面 __出之 又左衛門"松平安芸守、 遊 々、 詰衆、 加賀守、 奏者番、 又左衛門#一 松平右衛門 大目 付 類共且讃岐守、 御 督、 目見 松平 三罷い 品供家 備 後守 雅 楽

意有」之又左衛門も出座、 奥之書院上段御着座、 御熨斗加賀守持 美濃守御挨拶 出 但御二 御前 備 御 祝被 遊 上

為二御送一加賀守、 上意有」之 又左衛門 御成之時之通罷出、 丹 後守 御 取 合申 上

御駕籠とゝめ候儀 御成之時之通

一類共為 御駕篭とゝめ候儀 御送 御 成之時之通罷出 御成 一時 之通 豊後守御 取 合申上之上意有 之

御目見被 仰付 候家来共 御成之時 之通 目 通り . 在 ~

御供被 讃岐守、 雅楽頭、 召連 候御 掃部頭塀重御門之内 譜 代之面 Þ, 詰衆、 奏者 電在 番 御目見 御成 御門之内 上意無 罷在

一⁽³ 御 御 見 見 成 門之外より 為 御 使 本 田伯耆守を以加賀守、 又左衛 上

柳営日次記」一二九、 元禄十五年四月廿六日条 (国立国会図書館

已后刻松平加賀守宅〈初m被」 御供揃五半時 >為 成

但上意有」之節、御駕篭止」之、 但馬守御取合申上 為,,御迎,加賀守、 又左衛門《熨斗目長袴着」之》御成御門之外迄罷出、 上意有」之加賀守、又左衛門玄関之間『立帰在」之、 尤地に不」居

一、一類共 上之,上意有」之、但上意有」之節、 《熨斗目長袴着」之》 御成御門之外迄罷出、 御駕篭止」之、 尤地に不」居 豊後守御取合申二

通"有」之披露無」之 御目見被;; 仰付 |候家来共《のしめ長袴着」之》 御成御門之外 御目

目見 御供"被,,,召連,候御譜代之面々諸衆奏者番 上意有」之、 御駕篭不」止 但御譜代之面々罷在候段、 御成御門之内"在. 対馬守申二―上之一 之 上 御 意

之節、御駕篭不」止 意有」之、 松平讃岐守、酒井雅楽頭、 但讃岐守、 雅楽頭 井伊掃部頭塀重門之内 掃部頭罷在候段、 対馬守申上 上意有」 罷在 御目見 上

御駕篭より 下御、 加賀守 御先立、 加賀守諸 又左衛門は其所 但 馬守 『罷在』之、 但

御成廊下より表書院、脇奥之廊下通為」成、 之、 但馬守御挨拶 加賀守止り候処言

奥之書院上段 御着座御刀掛

御熨斗加賀守披 |-出之|御前に備 之 御 手自 為 附

之加

賀守、

又 左

近も御熨斗被」下」之

一意有」之、 美濃守御挨拶

但御三方加賀守引」之

奥之書院ニニハ何も小サ刀不」帯

引之、 賀守頂 下段敷居之内之台 太刀目録但馬守 加賀守滋被」下物 御襖障子越中守立」之 戴之 |御次"退去、 《熨斗目長袴着 ツハ進物番持 御 .成前 '奥之書院御次之間より其次之間迄並置 御目通り之台進物番 之》 _-出之_》 下段中央より下へ持二一出之一、 御 [襖障子越中守開」之、 《のしめ長袴着」之》 御 加

一、又左衛門並被」下物、 |下段敷居之内並」之、 立」之、其節屏風御納戸衆引」之、 又左衛門頂 戴之、 御次立退去 御太刀目録但馬守下段下より一畳目之上 是も兼『上段脇 御勝手よりも台一ツ進物番持 御右之方縁 並 置之 _ 前 屏 出之

一、表之書院『最前之廊下通 下物共御小納戸衆引」之 出御 御先立美濃守、 但此 内。奥書院之被

一、表之書院 目録奏者番披露、但家来之進物ハ御前江不 」之、御襖障子美濃守、右京太夫開」之、家来共御礼申,|-上之|、太刀 御太刀目録奏者番《のしめ長袴》引」之、 内"台へ、其外御次之間より其次之間迄並,|-置之,、 披露、又左衛門御礼御襖障子美濃守、 御太刀目録奏者番《熨斗目長袴》持出、 居之内"台一ツ其外ハ敷居之外置」之、御襖障子美濃守、右京太夫開」之、 《のしめ長袴着」之》持出、下段中央より下に置」之披露、 献上物、 御着座岬刃掛側棚加賀守より献上物 進物番熨斗目半上下着」之引」之、 右京太夫立」之、 下段下より一畳目之上に置」之 御襖障子美濃守、 出御以前より下段敷居之 又左衛門献上物下段敷 御太刀目録相模記 献上物進物番引 右京太夫立 加賀守御礼

一、一類共一同"出座 御目見 上意有」之、 相模守御挨拶

渓院、 通り之節美濃守披露、 奥之書院 松平飛騨守、 又左衛門其外之面々より献上物 入御、 此節御休息間"松平備後守妻、 松平長門守、 奥之書院入御以後、 前田采女より差上物、 御小納戸衆引」之 御成前より並,,一置之 松平右 後内証より加 仙

重『奥之書院上段 :給仕御相伴之給仕勤候分: 御雑煮御引渡と替れ 御着座、 加賀守、 長袴着 御吸物御雑煮と替れ 又左衛門出 座 下段 御 向 着

文京区小日向台町遺跡出土炭化穀類の年代と出土土器圧痕調査

* 山下優介・** 國木田大・*** 佐々木由香・**** 山本 華・***** 米田 穣

はじめに

古代の人びとがどのような穀物を利用したかという問 題への関心は高く、イネ・アワ・キビ・ダイズ・コムギ・ オオムギといった穀類の利用・栽培開始時期やその受容 のあり方に関する研究が継続的に進められている。近年、 レプリカ法(1)による土器圧痕の分析と炭化種実の年代 測定がこの研究を大きく進展させた。

前者では、日本列島におけるイネ・アワ・キビの土器 圧痕の出現時期が明らかにされ(中沢2017など)、悉皆 的な土器圧痕の調査を経て、受容時期の地域差が明確化 された(設楽編2019など)。

また後者では、遺跡出土のコムギやオオムギを対象と した ¹⁴C 年代測定の結果、関東地方において弥生時代に 遡る年代値をもつ資料が現状で得られず(國木田ほか 2023 など)、弥生時代の畠作物の一つと評価されてきた ムギ類の利用開始時期の再検討が必要とされている。

本稿では上に述べた研究動向をふまえ、第一に、文京 区小日向台町遺跡から出土した炭化穀類を再度同定をし たうえで ¹⁴C 年代測定結果を報告する。第二に、出土土 器を対象とした悉皆的な土器圧痕調査を実施し、検出さ れた圧痕の同定結果を報告する。以上の二つの分析に基 づいて、小日向台町遺跡における弥生時代から古墳時代 の栽培植物の利用状況を明らかにするとともに、関東地 方におけるムギ類利用の開始時期に関する検討をおこな うことが本稿の目的である。

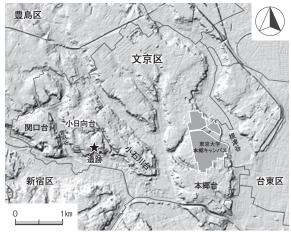
本稿の執筆にあたっては、2章を佐々木が、3章を國 木田が担当し、その他の部分を山下が執筆した。

1 対象遺跡の概要

文京区小日向台町遺跡は、武蔵野台地の東端にあたる 本郷台地を構成する一つである小目向台地上に立地する (第1図)。台地の南側は神田川に臨み、枝分かれしなが ら神田川へ注ぐ細い谷によって、東側の小石川台、西側 の関口台から隔てられている。小日向台からさらに谷を 挟んで東側に、東京大学本郷キャンパスが立地する本郷 台がある。遺跡の標高は約25mである。

小日向台町遺跡は旧石器時代の遺物から近世遺構まで が確認された複合遺跡であり、弥生時代終末期~古墳出 現期⁽²⁾と奈良時代に属する竪穴建物が検出されている。 中世では井戸跡と土坑墓が、近世では屋敷地に関連する 地下室や井戸跡が検出されている。

*所属 国立歷史民俗博物館 **所属 北海道大学 ***所属 金沢大学古代文明·文化資源学研究所 ****所属 株式会 社パレオ・ラボ ****所属 東京大学総合研究博物館



第1図 小日向台町遺跡の位置(「地理院地図」 (https://maps.gsi.go.jp) をもとに筆者作成)

弥生時代終末期~古墳出現期の第130号遺構と第197 号遺構は、建物の中心から西側の壁に少し寄った位置に 炉をもつ、平面形が隅丸方形の竪穴建物である。両遺構 とも床面付近から複数点の土器が出土しており、130号 では、炉の周辺を中心に建築部材とみられる炭化材が確 認された。両遺構では遺構覆土をすべて回収して水洗選 別がおこなわれたが、その結果、炭化種実やガラス小玉 が検出された(文京区遺跡調査会編1999)。

2. 炭化種実の同定

今回、炭化種実の再同定を行った試料は、年代測定試 料とするために抽出したオオムギとイネ、アワ、コムギ の4分類である。

第130号住居跡の西側ベルト北①袋からオオムギ炭化 有稃果とイネ炭化頴果、アワ炭化頴果、コムギ炭化頴果 を各1点、同住居跡貯蔵穴からイネ炭化頴果1点の、計 5点を抽出した。

第197号住居跡のC区1袋からオオムギ炭化有稃果 とイネ炭化穎果、コムギ炭化穎果を各1点の、計3点を 抽出した。

以下、抽出した炭化種実の分類群別の記載と図に写真 を示して、同定の根拠とする (第2図)。炭化種実の写 真はデジタルマイクロスコープ(キーエンス株式会社 超深度マルチアングルレンズ VHX-D500/D510) による 撮影と計測を株式会社パレオ・ラボに委託した。なお、 分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APG Ⅲ リストの順とした。各個体の大きさは1表に示した。

(1) オオムギ Hordeum vulgare L. 炭化有稃果 イネ 科

側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の 溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。側 面中央に最大幅があり、断面は円形~楕円形。

(2) イネ Oryza sativa L. 炭化頴果 イネ科

上面観はやや扁平な両凸レンズ形、側面観は楕円形。表面は平滑で、長軸方向に2本の浅い縦溝があり、胚盤と反対側にある溝は輪郭が鋭く明瞭である。これは内外額の鉤合部の痕にあたる。頴果は厚みがあり、成熟していると推定される。KHD-130-1 と KHD-130-7 の胚は片側の肩に残り、KHD-197-1 の胚は欠けている。KHD-197-1 は短軸方向に複数の割れ目が見られる。

- (3) アワ Setaria italica P. Beauv. 炭化頴果 イネ科 上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央 の窪んだ位置に細長い楕円形の胚があり、長さは全長の 2/3 程度。一部に有稃果が残存する。
- (4) コムギ Triticum aestivum L. 炭化穎果 イネ科 上面観・側面観ともに楕円形。腹面中央部には、上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあり、全体的に丸っこい。最大幅は下端部にある。KHD-130-3 は大きさから未熟の可能性がある。

3. 炭化種実の年代

(1) 年代測定結果

今回年代測定をおこなった試料は、小日向台町遺跡第130号住居跡出土のイネ2試料、オオムギ1試料、コムギ1試料、アワ1試料、第197号住居跡出土のイネ1試料、オオムギ1試料、コムギ1試料の計8試料である。第130号住居跡では、西側ベルトおよび貯蔵穴出土試料、第197号住居跡ではC区出土試料を対象とした。なお、貯蔵穴出土試料は、実態としては土坑に炭化種実が廃棄されたもの(もしくは流入したもの)と推測される。試料はすべて炭化しており、各1点で測定を実施している。試料の帰属時期については、弥生時代終末期~古墳出現期と考えられる。

14C 年代測定における試料調製は、通常の方法にしたがっておこなった(吉田 2004 など)。化学処理におけるアルカリ処理濃度は、試料がすべて溶解しない程度にととどめた。試料の化学処理収率は2表に示している。KHD-130-4のアワ試料は、1点で0.3mg しかなかったため、未処理の状態でセメンタイトによる微量年代測定(Omori et al. 2017、大森ほか2017)をおこなった。試料の化学処理は、國木田がAAA処理までをおこない、炭素精製、グラファイト化、AMS年代測定は、東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室に依頼した。本稿での暦年較正年代の算出には、OxCal v4.4 (Bronk Ramsey 2009)を使用し、較正データにはIntCal 20 (Reimer et al. 2020)を用いた。

年代測定結果を3表に示した。第130号住居跡貯蔵穴出土イネ(KHD-130-7)は1848 ± 20 BP(134-237 cal AD、68.3%)であり、弥生時代後期~弥生時代終末期頃と考えられる。遺構の時期は、弥生時代終末期~古墳出現期であるため、若干古い年代値ではあるが整合的な年代と判断できる。

その他 7 試料の年代値は、381 ± 20 BP(KHD-130-3、1457-1615 cal AD、68.3%) ~ 119 ± 19 BP(KHD-197-3、1693-1918 cal AD、68.3%)の範囲で年代が得られており、後世の炭化種実が混入したと考えられる。第 130 号住居跡西側ベルト出土のイネは 16 世紀前半~ 17 世紀中頃、オオムギは 17 世紀中頃~ 18 世紀代、コムギは 15 世紀中頃~ 17 世紀前半、アワは 15 世紀末~ 17 世紀前半、第 197 号住居跡 C 区出土のイネは 17 世紀代、オオムギは 16 世紀前半~ 17 世紀中頃、コムギは 17 世紀末~近代の結果であった。一部で中世末の年代が含まれるが、基本的には 17 世紀前後の近世の年代が中心になる。

小日向台町遺跡は、中世および近世の遺構も確認されているため(文京区遺跡調査会編 1999)、これらの人間活動による影響が考えられるかもしれない。

(2) 分析結果の評価

年代測定の結果、小日向台町遺跡出土の弥生時代終末期~古墳出現期と考えられていた炭化種実は、その大部分が後世の所産であった。第130号住居跡貯蔵穴出土1試料のイネのみが、想定された時期と整合的であった。

筆者らは、これまで日本列島出土の弥生時代とされる炭化種実の年代を検討してきた(國木田ほか 2020、2021、2023、稲田ほか 2023 など)。今回対象としているムギ類に関しては、壱岐島のカラカミ遺跡(長崎県壱岐市)のコムギ事例が最も古い年代値になる。その年代値は、弥生時代後期の1世紀末~3世紀初頭の時期になる(小林ほか 2009)。弥生時代におけるムギ類の年代は、管見の限り、この事例の他に確認されていない。

本州では、讃良郡条里遺跡(大阪府四条畷市・寝屋川市)において、古墳時代中期のコムギの年代値が得られている(國木田ほか 2023)。関東地方で最も古いコムギの年代値は、武田石高遺跡(茨城県ひたちなか市)の第 102 号住居跡出土試料であり、古墳時代中期~後期に相当する(稲田ほか 2023)。近畿地方および関東地方にコムギが普及する時期は5世紀代(古墳時代中期)の可能性が高い。今回の小日向台町遺跡の年代測定結果でも、弥生時代のムギ試料は確認できなかった。

本稿の分析では、大部分の炭化種実が後世の混入と判断されたが、今回のように同様のコンテキストであっても異なる年代が得られる事例は多くある。例えば、筆者らが分析した八幡遺跡(青森県八戸市)の第12号住居跡出土炭化種実の事例では、イネ、クリ、トチノキは弥生時代前期の年代であったが、コムギ、オオムギ、アワ、キビ、ヒエは後世の混入であった(國木田ほか2021)。

関東地方でも、鷹ノ巣遺跡(茨城県ひたちなか市)の



第2図 年代測定を実施した炭化種実

1-2. オオムギ炭化有稈果(1. KHD-130-2, 2. KHD-197-2),3-5. イネ炭化頴果(3. KHD-130-1, 4. KHD-130-7, 5. KHD-197-1),6. アワ炭化有 稈果(KHD-130-4),7-8. コムギ炭化頴果(7. KHD-130-3,8. KHD-197-3) スケール 1-5, 7-8:1mm,6:0.5mm

1表 年代測定した炭化種実の同定結果(大きさの単位は mm)

試料番号	遺構名	資料袋名	分類群	部位	長さ	幅	厚さ	備考
KHD-130-1	第 130 号住居跡	西側ベルト北①袋	イネ	炭化頴果	3.92	2.43	1.77	一部発泡による裂け
KHD-130-2	第 130 号住居跡	西側ベルト北①袋	オオムギ	炭化有稃果	5.32	2.27	1.82	
KHD-130-3	第 130 号住居跡	西側ベルト北①袋	コムギ	炭化頴果	2.68	2.06	1.92	未熟か
KHD-130-4	第 130 号住居跡	西側ベルト北①袋	アワ	炭化頴果	1.18	1.11	0.96	厚さは膨張した値
KHD-130-7	第 130 号住居跡	貯蔵穴	イネ	炭化頴果	4.24	2.68	1.96	大きさは膨張した値
KHD-197-1	第 197 号住居跡	C区①袋	イネ	炭化頴果	5.03	2.51	1.84	
KHD-197-2	第 197 号住居跡	C区①袋	オオムギ	炭化有稃果	6.04	2.59	2.06	
KHD-197-3	第 197 号住居跡	C区①袋	コムギ	炭化頴果	4.20	3.19	2.72	

2表 年代測定試料の化学処理回収率

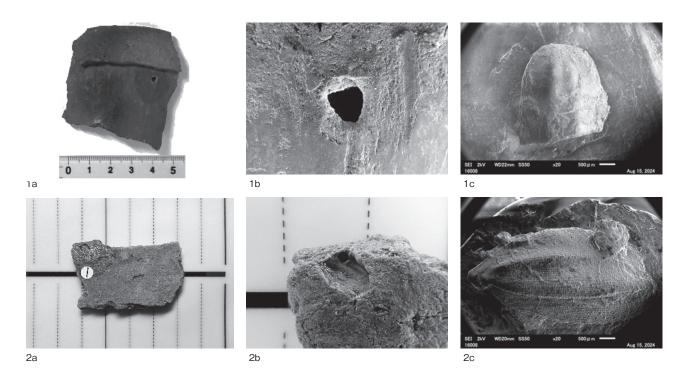
試料番号	使用量 (mg)	AAA 処理後 (mg)	回収率 (%)	酸化量 (mg)	CO ₂ 生成量 (mg)	CO ₂ 収率 (%)
KHD-130-1	4.5	3.3	72.4	1.7	1.0	59.1
KHD-130-2	5.2	4.0	77.5	2.0	1.3	61.9
KHD-130-3	3.4	2.4	72.4	1.8	1.1	61.1
KHD-130-4	0.3	-	-	0.3	0.1	44.9
KHD-130-7	8.4	6.4	77.1	1.9	1.2	62.7
KHD-197-1	9.5	7.4	78.2	2.0	1.3	64.9
KHD-197-2	9.3	6.8	73.7	2.0	1.2	62.6
KHD-197-3	11.8	9.1	77.4	1.8	1.2	63.8

3表 測定試料の ¹⁴C 年代測定結果

試料番号	出土遺構	資料袋	試料種類	¹⁴ C 年代値 (BP)	曆年較正年代值 (calAD, 68.3%)	ラボコード	δ ¹³ C (‰,加速器)
KHD-130-1	第 130 号住居跡 西側ベルト	西側ベルト北①	炭化種実(イネ)	287 ± 20	1526-1557 (41.8%) , 1632-1650 (26.5%)	TKA-27799	-23.5 ± 0.2
KHD-130-2	第 130 号住居跡 西側ベルト	西側ベルト北①	炭化種実(オオムギ)	230 ± 20	1650-1666 (40.0%) , 1784-1795 (28.3%)	TKA-27800	-23.5 ± 0.3
KHD-130-3	第 130 号住居跡 西側ベルト	西側ベルト北①	炭化種実(コムギ)	381 ± 20	1457-1499 (53.8%) , 1600-1615 (14.5%)	TKA-27801	-21.9 ± 0.2
KHD-130-4	第 130 号住居跡 西側ベルト	西側ベルト北①	炭化種実(アワ)	341 ± 34	1490-1526 (22.0%) , 1555-1632 (46.3%)	TKA-27747	-6.9 ± 0.3
KHD-130-7	第 130 号住居跡 貯蔵穴	貯蔵穴	炭化種実(イネ)	1848 ± 20	134-137 (1.9%) , 165-188 (19.2%) , 202-237 (47.2%)	TKA-27802	-23.3 ± 0.2
KHD-197-1	第 197 号住居跡 C 区	C区①袋	炭化種実(イネ)	255 ± 20	1641-1661 (68.3%)	TKA-27803	-24.1 ± 0.3
KHD-197-2	第 197 号住居跡 C 区	C区①袋	炭化種実(オオムギ)	283 ± 20	1527-1553 (37.4%) , 1633-1650 (30.8%)	TKA-27804	-22.6 ± 0.2
KHD-197-3	第 197 号住居跡 C 区	C区①袋	炭化種実(コムギ)	119 ± 19	1693-1709 (9.8%) , 1719-1727 (4.7%) , 1810-1820 (6.0%) , 1832-1892 (39.9%) , 1906-1918 (7.9%)	TKA-27805	-22.8 ± 0.2

4表 土器圧痕の同定結果一覧(大きさの単位は mm)

レプリカ番号	図番号	遺構名	土器時期	器種	器種 圧痕位置		圧痕位置		分類群	部位	長さ	幅	厚さ	備考
13KHD_002_01	第16図6	第 197 号遺構	弥生終末~ 古墳出現期	壺	口縁部下	外面	イネ	頴果	6.50	3.50	2.06			
13KHD_007_01	未掲載	-	弥生終末~ 古墳出現期	壺	体部	外面	イネ	籾	3.50	2.92	1.88	「1 号 A トレンチ」 の注記		



写真図版1 土器から検出された種実圧痕

1. イネ頴果 (13KHD_002_01), 2. イネ籾 (KHD_007_01) a: 土器写真 b: 圧痕拡大写真 c: 圧痕レプリカの SEM 画像

第35号、第47号、第55号住居跡出土の炭化種実では、イネ以外のムギ類が17世紀中頃から近代に相当する年代であった(稲田ほか2023)。また、イネにおいても17世紀以降の混入が確認され、非常に複雑な状況にある。西台後藤田遺跡(東京都板橋区)でも、第13号住居跡出土のイネ1試料以外は、すべて中世末以降の年代であり、鷹ノ巣遺跡と同様の傾向が確認された(國木田ほか2020)。

この他に、新井三丁目遺跡(東京都中野区)でも、大部分の住居跡出土イネが弥生時代前期末もしくは中期初頭の年代であるのに対して、Y111号住居跡出土のムギ類は中世の年代となっている(西本編 2009)。関東地方における弥生時代の遺跡では、多量のイネに伴い出土する少量のムギ類や雑穀が、後世の混入であることが多い。また、イネにおいても後世の試料が混ざっていることがあり、年代を議論する際には、必ず 14C年代測定を実施することが必要といえる。

4. 土器圧痕の分析

(1) 分析方法

レプリカ法による土器圧痕の調査は、小日向台町遺跡より出土した土器(文京区遺跡調査会編 1999) を対象に実施した。土器圧痕の調査は以下の手順でおこなった。

まず、収蔵施設にて土器を肉眼またはルーペで観察し、 種実やそれに類すると考えられる圧痕が付着した資料を 抽出した。その際、報告書未掲載の遺物も観察し、抽出 をおこなった。観察した土器の総点数および総重量は、 1062点(10.929kg)⁽³⁾であった。

次に、抽出した資料を対象にレプリカ法を用いた分析を実施した。1表は、採取したレプリカ試料10点のうち、圧痕の由来物質が同定できたものである。レプリカ製作は、①資料の洗浄および観察・選定、②資料の記録、③離型剤の塗布、④印象材の充填、⑤乾燥・硬化した印象材の取り出し、⑥離型剤の洗浄の順に実施した。印象材には株式会社ニッシン製JMシリコン(インジェクションタイプ)、離型剤としてアクリル樹脂パラロイドB72のアセトン溶液を用いた。また、圧痕検出数の定量的な比較のため抽出した土器の重量を計測して記録した。

最後に、製作したレプリカ試料の同定をおこなった。 実体顕微鏡を用いて同定した後、一部の試料については 走査型電子顕微鏡(SEM)画像を撮影のうえ同定した。

SEM 画像は、国立歴史民俗博物館が所蔵する走査型電子顕微鏡(日本電子製 JSM-6010LA)を利用して撮影した。試料は未蒸着で撮影した。なお、製作した圧痕レプリカは、国立歴史民俗博物館で保管している。

(2) 同定された種実圧痕

弥生時代終末期~古墳出現期の壺形土器 2 点から、イネ 製とイネ 頴果が各 1 点が検出された (4表)。以下にレプリカ試料の分類群別の記載と SEM 画像を示して同定の根拠とする (写真図版 1)。なお、分類群の学名は米倉・梶田 (2003-) に準拠した。

イネ Oryza sativa L. 籾・頴果 イネ科

(図版 1 13KHD_002_01、図版 2 13KHD_007_01 参照) 籾は、残存長 6.50mm、幅 3.50mm、厚さ 2.06mmのやや扁

		1	ネーアワ			キビ		ダイズ属	アサ		不	明		正库	4:0 rdm 0.0		
遺跡	時期	籾	頴果	有稃果	頴果	有释果	頴果	頴 果 ?	種 子	核	種実	種子?	果.	種皮	圧痕 検出数 合計(点)	観察土器 較正重量 合計(g)	検出率 (点 /10kg)
後畑	弥生中期中葉	2													2	1324.6	15.1
木戸口	弥生中期中葉			1			1		1						3	2693.5	11.1
国府台	弥生中期後葉	1	1				2	1			1				6	18722.4	3.2
国府台	弥生後期~古墳初頭	10	5	5	1	1						1	2		25	48123.3	5.2
志村坂上 D 地点	弥生後期	4	2	3		1				1	1				12	16566.0	7.2
弥生二丁目	弥生後期~古墳初頭	2		2											4	11474.6	3.5
久ヶ原	弥生後期	5	8	1						4			1		19	21320.9	8.9
タヶ原	弥生後期		1								2				3	4053 4	74

5表 東京湾岸の遺跡を対象とした弥生・古墳時代の土器圧痕調査結果(守屋・山下 2023 をもとに再構成)

平な楕円体である。表面には外頴が内頴を包んで鉤合することでできた隆条が2本存在し、表面全体にはイネ籾特有の顆粒状突起が観察できる。

頴果は、残存長 3.50mm、幅 2.92mm、厚さ 1.88mmと扁平であるが、中央部付近で割れており、全体の 2分の 1程度が欠損している。表面は平滑で、長軸方向に 2本の緩やかな隆条がある。

関東地方を対象とした弥生時代後期から古墳時代前期の土器圧痕の分析は、レプリカ法の普及とともに、研究の蓄積が進んでいる。東京湾西岸地域を対象として分析を実施した守屋は、弥生時代後期以降にイネ圧痕が卓越することを指摘しており(守屋 2014)、その後の分析や、周辺の北武蔵地域や下総地域を対象とした分析でもその傾向は追認されている(柿沼・遠藤 2021、設楽編 2023 など)。

小日向台町遺跡の分析では、種実圧痕の検出数が2点とわずかであるため、そこからイネ圧痕の優越性を指摘することはできない。ただ、小日向台町遺跡の観察資料重量10kgあたりの種実圧痕検出率は1.83であり、東京湾岸の弥生時代後期の他遺跡の値(5表)より低い。検出率が低い資料から得られた種実圧痕が2点ともイネであったことを考慮すれば、この結果が検出圧痕の傾向をおおむね反映しているととらえてよいだろう。なお、観察対象とした土器の量は、ほかの調査資料と比べても決して少なくない。

5. 小日向台町遺跡における栽培植物利用

文京区小日向台町遺跡から出土した炭化穀類の ¹⁴C 年 代測定と、出土土器の圧痕分析の結果をまとめると以下 のとおりである。

第一に、小日向台町遺跡第130号および第197号住居跡出土の炭化種実の¹⁴C年代測定を実施した結果、第130号住居跡出土イネ1試料以外は、すべて中世末以降の混入であることがわかった。

関東地方における弥生時代の遺跡では、イネは想定時期の年代を示す場合でも、ムギ類など他の穀類が混入であることが多い。今回の小日向台町遺跡の分析でも、コムギ、オオムギ、アワが後世の混入で、西台後藤田遺跡や新井三丁目遺跡と同様の傾向であった。

第二に、弥生時代終末期~古墳出現期の壺形土器 2 点

から、イネ圧痕が検出された。この2点から小日向台町 遺跡における穀物利用の全体像を論じることはできない が、先行研究で指摘されている、南関東地方の弥生時代 後期以降の傾向と矛盾しない。

また、炭化種実として出土していたアワ・オオムギ・コムギは、土器圧痕として検出されなかった。このことは、炭化種実の年代からみて妥当な結果であるといえる。

おわりに

文京区小日向台町遺跡の炭化穀類と土器圧痕に関する 分析を通じて、本遺跡における栽培植物利用のあり方を 考えた。主たる対象時期であった弥生時代終末期に利用 されたと考えられる植物としては、イネのみが明らかに なったため、植物利用のあり方は依然としてわからない 部分が多い。しかしながら、従来、弥生時代の関東地方 でひろく利用されたと理解されてきたムギ類について、 近年の成果を支持する結果が得られたことは重要な知見 といえる。

弥生時代の多様な食糧生産を示す根拠の一つとされて きたオオムギやコムギであるが、関東地方における利用 開始時期については今後も継続的な分析が必要である。 最新のデータをふまえて、弥生時代や古墳時代の生活を 支えた食物を考えなければならない。

謝辞

本稿の炭化種実と土器圧痕の分析は、文京区教育委員 会教育推進部教育総務課文化財保護係より資料の提供を 受けて実施した。提供にあたっては担当者の丹野祥枝氏 にご対応いただいた。記して深く感謝申し上げる。

本稿は、平成28~30年度科学研究費補助金基盤研究(A)「東日本における食糧生産の開始と展開の研究-レプリカ法を中心として-」(代表:設楽博己)、平成31~令和3年度科学研究費補助金基盤研究(C)「東日本における弥生時代以降の栽培植物の波及」(代表:國木田大)、令和2~6年度科学研究費補助金学術変革領域研究(A)計画研究「土器の年代と使用法の化学的解明」(代表:國木田大)、同領域研究(A)計画研究「土

器に残る動植物痕跡の形態学的研究」(代表:佐々木由香) による研究成果である。

【註】

- (1) 土器に残された圧痕(土器圧痕)をシリコーンゴムでかた どりし、圧痕のレプリカを走査型電子顕微鏡で観察する手 法(丑野・田川 1991)を以下では「レプリカ法」と呼ぶ。
- (2) 文中で使用した「弥生終末期~古墳出現期」という用語は、 古屋紀之が示した広域土器編年(西相模考古学研究会・西 川修一・古屋紀之編 2015) の表記を引用した。
- (3) 対象とした土器の一部は、石膏を使用して復元されていたが、それら資料の重量は守屋(2016)の計算式によって、石膏を含まない重量に補正した。

【引用·参考文献】

- 稲田健一・國木田大・佐々木由香・山下優介・山本 華・設楽 博己・米田 穣 2023「茨城県ひたちなか市遺跡出土の炭 化穀類の年代」『茨城県考古学協会誌』第35号 茨城県考 古学協会
- 丑野 毅・田川裕美 1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」 『考古学と自然科学』第 24 号 日本文化財科学会
- 大森貴之・山﨑孔平・椛澤貴行・板橋 悠・尾嵜大真・米田 穣 2017「微量試料の高精度放射性炭素年代測定」『第20 回 AMS シンポジウム講演要旨集』日本原子力研究開発機 構東濃地科学センター・日本 AMS 研究協会
- 柿沼幹夫・遠藤英子 2021「弥生時代から古墳時代前・中期の 穀物栽培 – さいたま市域のレプリカ法調査 – 」『さいたま 市アーカイブズセンター紀要』第5号,pp.23-55
- 國木田大・佐々木由香・山下優介・守屋 亮・隅田 真・設楽 博己 2020「関東地方における弥生時代の穀類利用の年代 研究」『日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集』日 本文化財科学会
- 國木田大・佐々木由香・小笠原善範・設楽博己 2021「青森県 八戸市八幡遺跡出土炭化穀物の年代をめぐって」『日本考 古学』第52号 日本考古学協会
- 國木田大・佐々木由香・山下優介・山本 華・佐伯博光・米田 穣 2023「河内平野におけるムギ類利用の年代研究」『日 本文化財科学会第40回記念大会』日本文化財科学会
- 小林謙一・坂本 稔・西本豊弘 2009「カラカミ遺跡出土炭化種子試料の ¹⁴C 年代測定」『壱岐カラカミ遺跡Ⅱ カラカミ遺跡東亞考古学会第1地点の発掘調査 』九州大学大学院人文科学研究院
- 設楽博己編 2019 『農耕文化複合形成の考古学① 農耕のはじまり』雄山閣
- 設集博己編 2023『東日本穀物栽培開始期の諸問題』雄山閣 中沢道彦 2017「日本列島における農耕の伝播と定着」『季刊 考古学』第 138 号 雄山閣
- 西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編 2015 『列島東部 における弥生後期の変革 - 久ヶ原・弥生町期の現在と未来

- 』考古学リーダー24、六一書房
- 西本豊弘編 2009 『弥生農耕の起源と東アジア 炭素年代測定 による高精度編年体系の構築 - 』国立歴史民俗博物館
- 文京区遺跡調査会編 1999 『小日向台町遺跡 集合住宅建設 に伴う発掘調査報告書 - 』文京区埋蔵文化財調査報告書第 18 集 三井松島産業株式会社・文京区遺跡調査会」
- 守屋 亮 2014「東京湾西岸における弥生時代の栽培植物利用 -レプリカ法を用いた調査と研究-」『東京大学考古学研 究室研究紀要』28 東京大学文学部・人文社会系研究科考 古学研究室
- 守屋 亮 2016「種実圧痕の定量分析に関する予察 補填材重量の検討-」『東京大学考古学研究室研究紀要』30 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室
- 守屋 亮・山下優介 2023「東京湾岸における弥生時代の栽培 植物利用 – ムギ類を中心とした検討 – 」設楽博己編『東日 本穀物栽培開始期の諸問題』雄山閣
- 吉田邦夫 2004「火炎土器に付着した炭化物の放射性炭素年代」 『火炎土器の研究』同成社
- 米倉浩司・梶田 忠 2003-『BG Plants 和名-学名インデックス (YList)』 http://ylist.info
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.
- Omori, T., Yamazaki, K., Itahashi, Y., Ozaki, H., Yoneda, M. (2017) Development of a simple automated graphitization system for radiocarbon dating at the University of Tokyo. The 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry.
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., J Heaton, T., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C., J. van der Plicht, C., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62 (4), 725-757.

東京大学構内遺跡調査研究年報 17 2023 年度

2025年1月31日発行

編集·発行 東京大学埋蔵文化財調査室

東京都目黒区駒場4-6-1

https://www.aru.u-tokyo.ac.jp

印 刷 明誠企画株式会社